



究極の質感 (マテリアリティ)

— 西洋中世写本の輝き —

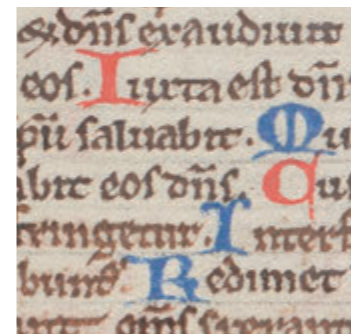
第31回
慶應義塾図書館
貴重書展示会


究極の質感

マテリアリティ

西洋中世写本の輝き

The Ultimate Materiality: the Splendour of Western Medieval Manuscripts

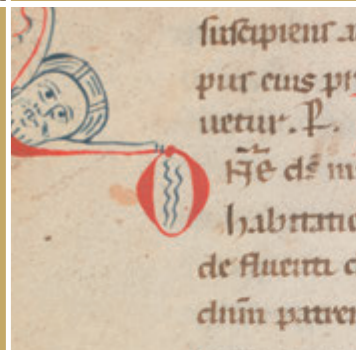


 慶應義塾図書館

The Ultimate Materiality
the Splendour of Western Medieval Manuscripts

 慶應義塾図書館

2019



第31回慶應義塾図書館貴重書展示会

マテリアリティ
究極の質感

—西洋中世写本の輝き—

The Ultimate Materiality: the Splendour of Western Medieval Manuscripts

会期：2019年10月2日～10月8日

会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

ギャラリートーク

10月4日（金） 18：00～・10月6日（日） 15：00～

慶應義塾大学文学部教授 松田隆美

講演会：4階ギャラリー内特設会場

10月5日（土）

13：00～ 羊皮紙工房主宰 八木健治

「中世の紙『羊皮紙』のおはなし」

10月6日（日）

13：00～ 実践女子大学美学美術史学科教授 駒田亜紀子

「西洋中世写本彩飾のマテリアリティ：彩飾の語る写本の“ヒストリー”」

ワークショップ：4階ギャラリー内特設会場

10月5日（土）

15：00～ 羊皮紙工房主宰 八木健治

「羊皮紙に羽ペンで書いてみよう」

ごあいさつ

慶應義塾図書館貴重書展示会は、義塾図書館が所蔵する国内外の稀覯本や古典籍などの貴重書を広く学外のみならずにご覧いただく機会として、企画を続けてまいりました。31回目を迎える今回は、前回のインキュナブラ（15世紀に活字で印刷された西洋の初期印刷本）から視点を移し、手書きの写本をテーマとして「究極の質感—西洋中世写本の輝き—^{マテリアリティ}」と題して、所蔵する中世西洋写本の中から選りすぐりの約100点を展示します。

現在、慶應義塾図書館は300点以上の中世西洋写本を所蔵しています。古代より連綿とした歴史をもつ手書き写本は、インキュナブラとともに西洋の書物文化史をたどるための重要な資料として長く収集されてきました。また慶應義塾大学においては、洋の東西を問わず「絵入り本」に関する研究が盛んに行われています。2009年度から2013年度の5年間にわたって実施された「絵入り本プロジェクト」（私立大学戦略的研究基盤形成支援事業／15～17世紀における絵入り本の世界的比較研究の基盤形成）は、過去に実施された東西の貴重書の高精細デジタル化を中心的活動とした共同研究「デジタルアーカイブ・リサーチセンター」（DARC 2001～2008年度）、「慶應義塾大学 HUMI プロジェクト」（1996～2001年度）の成果を踏まえて、研究資料の現物とデジタルデータの両方を収集・整理し、書物史の分野における比較研究の基盤形成を目指したものでした。このプロジェクトで収集された資料は、その後義塾図書館コレクションの中核となり、今回の展示会にも多く出品されています。

本展示の企画・監修は、文学部英米文学専攻の松田隆美教授にお引き受けいただきました。中世イギリス文学をご専門とされ、「絵入り本プロジェクト」でも洋書分野の研究を主導された松田教授は、今回特に写本が持つ独特のマテリアリティ（質感）に着目されました。写本は羊皮紙に羽ペンで書かれ、さまざまな顔料や金で彩飾されることから、立体的な質感が生み出されます。色鮮やかな挿絵からは、この上ない美しさとともに、当時の文化や時代の雰囲気も感じ取ることができます。一つとして同じものはない手作りの書物、中世西洋写本ならではの質感や美しさをご堪能ください。

さらに今回は初の試みとして、Line アカウント（Ask KeMCo：アスケム）を通じた展示資料解説もご覧いただけます。2020年度に三田キャンパスに開設される慶應義塾の新しいミュージアム、慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）にご協力いただきました。慶應義塾における展示の新たな取り組みも合わせてお楽しみいただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の展示会にご協力をいただいた丸善雄松堂株式会社をはじめ、ご関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

2019年10月
慶應義塾図書館長
須田 伸一

目 次

ごあいさつ	慶應義塾図書館長	須田 伸一
展示にあたって	慶應義塾大学文学部教授	松田 隆美
凡例		
全体解説 [松田隆美]		
I. 西洋中世写本の制作と流通		2
II. 展示書の分類と解説		9
展示解説 [松田隆美]		
I. 写本のマテリアリティ (Materiality of the medieval manuscripts)		18
展示番号 1～8		
II. 聖書 (The Bible)		27
展示番号 9～19		
III. 暦 (The Calendar)		37
展示番号 20～31		
IV. 典礼書 (Liturgical manuscripts)		49
展示番号 32～50		
V. 時禱書 (The Book of Hours)		66
展示番号 51～65		
VI. 学問と写本 (Learning and manuscripts)		80
展示番号 66～79		
VII. 俗語写本 (Vernacular manuscripts)		95
展示番号 80～90		
VIII. 人文主義と写本 (Humanistic script)		107
展示番号 91～96		
IX. リサイクルされた中世写本 (The Afterlife)		114
展示番号 97～98		
参考文献		116
慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト		120
(A Handlist of European Medieval Manuscripts in Keio University Library, Tokyo, compiled by Takami Matsuda)		
出品リスト (List of exhibited items)		154
展示書の制作時期・制作地域別索引 (Index of Manuscripts by Date and Region)		159

展示にあたって

究極の質感—西洋中世写本の輝き—

西洋の書物文化は、1455年頃にヨハン・グーテンベルクが活版印刷術を用いた初めての本、いわゆる「グーテンベルク聖書」を完成させる以前に、約一千年にわたる長い手書き写本の歴史を持つ。^{なめ}鞣された獣皮（羊皮紙）に羽ペンで手書きされ、金やさまざまな色の顔料で彩飾された写本は、その機能性と美しさの両面において、ひとつの完成の域に達していた。新技術を用いた印刷本は、当初は写本の安価な代用品と見なされていたところもあり、印刷本が、やはり15世紀に誕生した版画技術との協働によって写本にはない長所と独自の美を作りだして、最終的に手書き写本を凌駕してゆくには、さらに1世紀、16世紀半ば頃までかかったのである。

中世写本はすべて手作りの一点ものなので、15世紀以降の印刷本と比較すると制作数も少なく、現存している数も決して多くはない。それでも相当数が欧米の主要図書館や古書業者、さらには熱心な個人コレクターに所有されていて、慶應義塾図書館にも300点以上が所蔵されている。その大半は零葉（1葉のみの断片）だが、それでも15世紀の中英語で書かれた宗教写本、挿絵が美しい^{じとうしょ}時禱書の完本、12世紀に修道院で制作された神学書などさまざまな種類の写本が含まれる。今回展示出来るのは全体の3分の1程度だが、全容がわかるように、慶應義塾図書館が所蔵する全ての西洋中世写本のリストをこの図録の巻末に付してある。

今回の展示では、写本の内容はもとより、手作りの書物ならではの質感に少しでも触れてもらうために、写本独特のマテリアリティ——羊皮紙に手書きすることで生まれてくる立体的な物質性——にとくに焦点をあてた。会期中には、写本制作の実際や彩飾写本のマテリアリティに焦点をあてた講演、さらに来場者が参加できるワークショップも予定されている。西洋中世写本をじっくりと見ることで、写本に限らずアナログの書物が持っている「もの」としての質感や重量感、そして書物と触れあうことで得られる充実感を体験して頂きたい。

慶應義塾大学文学部教授
松田 隆美

凡例および略号一覧

凡例

展示番号に続いて、日本語による著者名（判明している場合）、書名あるいは簡潔な内容説明、制作地、制作時期、寸法、支持素材、フォリオ数を記した。

続けて、英語で、上記の書誌情報に加えて、カラム（欄）数、行数、罫線の有無、書体、校合式、内容一覧、挿絵や彩飾イニシャル、その他の特記事項などを、記述可能な限りにおいて記した。

寸法（縦×横 mm）は、原則として第1葉（あるいはビフォリウム）のおおよその大きさを測った。必要に応じて括弧内に本文スペースの寸法を示す。

慶應義塾図書館の請求記号を [] に記した。

解説中で言及した文献は、該当箇所の文末あるいは段落末に、著者名（同一著者の文献が複数存在する場合は出版年も）および必要に応じて該当するページ数を（ ）で示した。

解説中に言及した文献、本図録執筆のために参考にした文献を「参考文献一覧」としてまとめた。

解説中、人名と書名は原則としてカタカナあるいは日本語訳で示し、必要に応じて原語を付記したが、現代の研究者名や一部の地名についてはその限りではない。

略号一覧 (Abbreviations)

- A : 高宮利行 『「鷺ペンから印刷機へ」展一目で見る西洋写本文化と印刷文化』 (1991.11) / Takamiya, Toshiyuki, *Pen to Press: From Manuscript to Print Culture* (Keio University Library, 1991) [in Japanese]
- B : 慶應義塾大学 HUMI プロジェクト編 『ゲーテンベルク聖書収蔵記念 慶應義塾大学図書館稀観書展』 (慶應義塾大学 HUMI プロジェクト, 1996) / *Treasures of the Keio University Library* (HUMI Project, Keio University, 1996) [in Japanese and English]
- C : 松田隆美編 『ローマ帝国からイギリス・ルネサンスへ—慶應義塾図書館蔵稀観書展』 (慶應義塾大学, 2001年) / Matsuda, Takami, ed., *Mostly British: Manuscripts and Early Printed Materials from Classical Rome to Renaissance England in the Collection of Keio University Library* (Keio University, 2001) [in English with a summary in Japanese]
- D : 佐々木孝浩, 住吉朋彦, 松田隆美 『義塾図書館を読む—和・漢・洋の貴重書から—』 (慶應義塾図書館, 2007年) / Sasaki, Takahiro, Tomohiko Sumiyoshi, and Takami Matsuda, '*Reading*' *Keio University Library: Treasures from Japanese, Chinese, and Western Rare Books* (Keio University Library, 2007) [in Japanese, with bibliographical description in English]
- E : 松田隆美 『信仰と学問—西洋中世写本の世界』 (慶應義塾図書館第293回企画展示) (2012.6.6–6.30 慶應義塾図書館) / Matsuda, Takami, *Faith and Learning: the Universe of Western Medieval Manuscripts* (Keio University Library, 2012). [in Japanese]
- F : 高橋智, 徳永聡子, 松田隆美 『活字文化の真髄—日本の古活字版と西洋初期印刷本—』 (慶應義塾図書館, 2015) / Takahashi, Satoshi, Satoko Tokunaga, and Takami Matsuda, *Treasures of Early Printing, East and West* (Keio University Library, 2015). [in Japanese, with bib-

liographical description in English]

- G : 安形麻理編『インキュナブラの時代—慶應義塾の西洋初期印刷本コレクションとその広がり—』(慶應義塾図書館, 2018) / Agata, Mari, ed., *The Age of Incunabula: Keio University Collection of European Early Printed Books and its Scope* (Keio University Library, 2018). [in Japanese, with bibliographical description in English]
- H : 松田隆美『究極の質感—西洋中世写本の輝き—』(慶應義塾図書館, 2019) / Matsuda, Takami, *The Ultimate Materiality: the Splendour of Western Medieval Manuscripts* (Keio University Library, 2019) [in Japanese, with bibliographical description in English]

全体解説

I. 西洋中世写本の制作と流通

写本を意味する英語の manuscript は「手で書かれた」という意味で、広く手書きの本や文書を示す呼び名である。手書きで本を作ることはなにも中世に限ったことではない。15世紀半ばにヨハン・グーテンベルクが活版印刷術をヨーロッパに導入した後でも、百年間ほどはヨーロッパの書物生産においては手書き写本と印刷された本が共存していたし、さらにその後も、限られた分野においては手書きが好まれた。たとえばイギリスでは、詩集は17世紀頃まで、印刷して出版されるとともに限られた読者に向けて手書きの特別版も作られることがあった。証書類は、19世紀まで紙ではなく羊皮紙を用いて、手書きで原本を作ることが一般的であった。しかし、ジャンルを問わず全ての書物が手書きで作られ、量産と流通のためのシステムが整備され、出来上がった書物が利便性と芸術性の両方でひとつの完成の域に達していたという意味で、西洋中世の書物文化は特記に値する。手作りであるということは、唯一無二で、同じものは二つとないことを意味する。写本の場合、内容は同じ書物でも、一冊毎に異なる制作事情——誰のために、何の目的でつくられたのか——を反映して、書体やページ・レイアウト、彩飾などにそれぞれに異なる個性が見られるのである。しかしその一方で、書物が情報を時間と空間を越えて他の読者へと、ときには新たな読者層を開拓しつつ伝え広げてゆくためのメディアである以上、量産を容易にするための均一化の工夫も同時に認められる。中世の写本生産には、用途や所有者に応じてパーソナライズする個性化と、開かれたメディアとしてひとつの標準を確立しようとする均一化が共存していると言ってよい。

そうした写本はどのようにして作られ、読者の手へと渡ったのだろうか。中世の写本制作の実際について、中世写本研究の泰斗クリストファー・ド・ハメルの分かり易い解説書、*Making Medieval Manuscripts* を参考にしつつ概観する。

羊皮紙の制作

現代の書物は植物繊維や木材パルプを原料とする紙でできているが、中世においては主に羊皮紙が用いられた。もっとも中世（歴史区分としては通常、476年の西ローマ帝国滅亡から1500年頃までを中世と考える）に制作された書物が全て羊皮紙だったわけではない。古代の書物で一般的に用いられていたパピルスは中世初期にはまだ使用されていたし、紙の製法がイスラーム圏からイベリア半島経由で伝播し、13世紀後半にイタリア中部のファブリアーノにヨーロッパ最初の製紙工場が造られると、イタリアを中心に生産されるようになった紙を用いた書物も中世後期には登場する。しかし、もっとも重宝された支持素材は、羊や仔牛の皮を加工した羊皮紙であり、今回展示した写本は、紙を使用している1点を除いて全て羊皮紙に書かれている。

中世の書物生産はまず羊皮紙の制作から始まる。羊以外にも仔牛や山羊が通常に使用されたので、厳密には鞣皮紙と呼ぶべきであろう。どの動物の皮を使うにせよ、上質の獣皮を手取することが羊皮紙の質と制作の手間を左右する。実際の製法については八木に詳しいので、その記述を参考にしつつ簡潔に記す。獣皮をよく洗って水に浸けて汚れを落とし、消石灰の水溶液に数日浸けた後、両端に持ち手がついた三日月形にカーブした刃物で毛をそぎ落とし、さらに皮の内側（肉や脂肪が付いている面）から皮脂層を削り取る。その後さらに石灰水に浸して油を抜いて、さらに2日ほど水に浸けて石灰分を洗い落とす。八木によると、

特に羊の皮の場合は、ここまでのプロセスに根気よく時間をかけることが重要となる（八木 2018, p.20）。

続いて、きれいになった皮を木枠に張って延ばす。図1のように木枠の周囲にペグ（木釘）を取り付け、そこに紐をつけて皮の端と結ぶ。ペグを回して紐を巻き取ることで皮を引っ張り、伸ばすのである。このときに、皮を削った際に小さな破れ目などが出来ていると、引っ張られて羊皮紙に楕円形の穴があくことがある（展示書1番参照）。この方法でピンと張った羊皮紙の表面を *lunellum* と呼ばれる中央に取っ手がついた半月刀で削って、残っている脂肪などを削ぎ落とす。ペグを調節して皮がたるまないようにして根気よく作業を続け、その後風通しのよいところで乾かす。乾いたら再び削ることを繰り返し、望んだ薄さになるまで続ける。初期の羊皮紙は比較的厚いが、13世紀には透けるほどの薄さ（0.1～0.2mm程度）にまで削られた。

これで羊皮紙は一応完成し、この状態で保存され、また販売されたと思われる（図2）。販売価格については当時の記録が幾つか残っているが、当然質によって異なる。たとえば14世紀のイングランドの工房では、羊皮紙1枚（1頭分）が3ペンスで売られていた。これは、上等なエール2ガロン分、あるいは従者の1日分の食費にあたる（De Hamel, 2018）。八木の計算では羊1頭からA4サイズで約6枚取れ、職人の手間賃などや利益を考えると、1枚を今日の価格に換算して最低でも3000円で販売しなくてはならないそうである（八木 2016, p.54）。単純計算で、中世後期の時禱書サイズ（A5版相当）の本で240頁ならば10頭分ということになる。また、書物として完成させるには、本文を写字して彩飾し、装丁する必要がある、それぞれに人件費と絵具などの材料費がかかる。中世の立派な書物1冊は中古車1台分くらいの価格と考えると、イメージがつかめるだろう。

上質の羊皮紙はとても耐久性がよく、何百年も変色することがない。折りたたむのも簡単で、パピルスや紙のように簡単に割れたりちぎれたりすることもない。水にも強いので、書物のための、疑いなく最も優れた支持素材である。

文字を書くための準備

ここからは段階的に、羊皮紙作りの職人ではなく、羊皮紙に実際に文字を書く写字生の仕



（図1：八木健治氏製作の木枠）



（図2：羊皮紙を購入する修道士。Copenhagen, Royal Library. Ms. 4, 2o, fol. 183v. De Hamel, 1992, p.13）

事となる。羊皮紙を購入してもすぐに文字を書き始められるわけではない。紙面を白くするために白亜の粉を全体に刷り込み、さらに軽石で磨いて、滑らかな（しかし滑らかすぎない）筆写に適した表面に仕上げる。書物用に使用するには、羊皮紙の角を落として裁断し（元の形状が縦長なので、出来上がりの本の形状は自然と長方形になる）、さらにそれを想定する本のサイズに合わせてさらに半分や4分の1に裁断するか折りたたむ必要がある。1枚の羊皮紙を縦方向に二つ折りしたものをビフォリウム（bifolium）と称し、これが書物の最小単位となる（展示書4, 32, 43, 72 番他参照）。ビフォリウム1枚はページに換算すると4ページ分にあたり、それを複数枚（2枚から4, 5枚が一般的）重ねたものを折丁と呼ぶ。さらに複数の折丁を正しい順序で重ねて綴じたものが1冊の冊子体の本となるのである。（たとえば全部で160ページの本ならば、4枚のビフォリウムからなる折丁を10重ねて綴じることになる。）ビフォリウムは、羊皮紙の外側（ヘアサイド＝毛が生えていた面）は外側、内側（フレッシュサイド＝肉面）は内側と接するように重ねるのが決まりである。15世紀には、羊皮紙はあらかじめ裁断されて色々なサイズの折丁にまとめられて販売されたようである。

次の手順として均等間隔で効率よく写字できるように、今日のノートブックのように罫線を引く。1ページに何本の罫線を引くか、ページ全体のレイアウトをどうするかは、用いる書体や本の種類によって異なる。効率よく罫線を引くためには、最初のビフォリウムかページで罫線位置を決めたら、全ての紙葉を揃えて重ね、各罫線の左右の端の位置に千枚通しを使って小さな穴を開ける。後は、紙葉毎に穴を結んで、鉄筆かインクで線を引けば、全ての紙葉に均一に罫線が引けることとなる。罫線が引かれた折丁が必要な量だけ準備されて初めて、実際に本文を写字する作業に入れるのである。

写字の実際

現存している中世の写本の多くは写字生が書いたものである。写字生（scribe）とは羊皮紙や紙に筆写することを専門（あるいは習慣）とする人物のことで、中世に著された作品の大半は、作家本人ではなく写字生が写字した写本で今日に伝わっている。作家本人の自筆原稿が現存していることは極めて稀である。

1100年頃までは、主に修道士が写字の仕事をしていた。言い換えると、中世初期に制作された書物の多くは修道院のなかで作られたのである。修道院は日々の礼拝や学習のために書物を必要としたし、修道院制の祖である聖ベネディクトゥスは書物に触れることを修道士や修道女に推奨している。修道士たちは、日々の労働の一環として、書物を作る（特に本文を写字して彩飾する）ことを実践していた。

修道院は中世を通じて書物生産のひとつの拠点であり続け、典礼書に限らずさまざまな書物を制作していたが、都市に大学が誕生すると状況が変わってくる。11世紀末から12世紀にかけて、ボローニャ、パリ、オクスフォードなどで大学が創設されると、その周囲には学生が使う教科書や専門書を扱う民間の工房が誕生した。また、司教座教会がある主要都市でも、大聖堂の周辺などに工房が集まってきた。こうした工房は、書物の制作と販売を一貫して行っていて、今日の出版社、印刷所、さらに書店の機能を一手に担っていたと言える。ここでは、教科書や典礼書に限らず、俗人が使用する時禱書や文学書の類も制作されたのであり、プロの写字生や彩飾絵師が働いていた。中世後期には、修道士も自分で本を作るよりも、むしろそうした民間の工房を活用して必要な本を入手していたとされる。

書物は基本的に写字生によって作られたということは、写字の仕事の基本は、手元にある

原稿や別の写本を書き写して、もう一冊同じ内容の本を作ることである。写字生は書体を一定に保ちつつ（場合によっては、見出しと本文では書体を変えつつ）、罫線に沿って淡々と転写した。ペンは鷲鳥や白鳥の風切り羽根を加工した羽ペンで、先端を万年筆のペン先のように削って用いる。中世写本の挿絵には、写本を筆写する姿（写字生のこともあれば、聖ヨハネや「ウルガータ訳聖書」を完成させたヒエロニムスのこともある）がしばしば描かれているが、いずれも傾斜した机に向かってペンを手にしている（図3）。これは羽ペンにはインク垂れを防ぐ仕組みがないので、羊皮紙に対して水平に近い角度でペンを当てる必要からである。もう一方の手にはペンナイフが握られる。ペン先を鋭利に保つために頻繁に削る必要があるとともに、書き間違いを訂正するためにも必需品だった。書き間違えたときは、インクが染みこんでしまう前に素早く羊皮紙の表面をペンナイフで削るのである。また、ナイフは写字の時に羊皮紙をしっかりと押さえるのにも重宝された。



（図3：写字生ジャン・ミエロ，Paris, BN ms. fr. 9198, fol. 19）

インクは黒と赤の2種類が一般的だった。インクの作り方については、12世紀初めに活躍したテオフィルス・プレスビターとして知られる修道士が著した『諸技術教程』に詳しく記されている。中世後期には、黒のインクは、ブナの木などにできる虫コブからとれるタンニン酸の溶液と緑礬りよくはんを混ぜ、さらに、色を濃くするためにアカシアの樹液から作ったアラビア糊を加えて作られた。見出し文などに使われる朱色インクは、硫化水銀で卵白とアラビア糊と混ぜて作った。

転写のための元本として作者から原稿を手渡されることもあるだろうが、一般的な転写は既に完成している本を写して、もう一冊同じ本を作ることである。中世の作品のなかには数百部の写本が現存している場合もある。たとえば展示書のひとつ（展示番号71）、アエギディウス・ロマヌスの『王制論』（1280年頃）は約300点の写本で現存しているが、これらの大半は14、15世紀に転写を繰り返して作られたのである。元本が最初から修道院や工房にあるとは限らないので、書物の貸し借りのネットワークが存在していたし、そうした制度無しには書物生産は発展しないのである。

元本が入手できても、ただやみくもに転写を始めるわけにはいかない。机に広げた1枚のビフォリウムには、表と裏で4ページ分の本文が筆写される。しかし数枚のビフォリウムを一緒に折りたたんで折丁とするので、筆写の段階でページが連続しているわけではない。（たとえば2枚のビフォリウムで折丁が構成される場合、外側のビフォリウムはp.1, p.2, p.7, p.8となる。）中世の写本のサイズは現在の書物と比べると大きいものが多いが、13世紀の聖書や15世紀の時禱書には携帯が容易な小型本がある。そうした書物の場合は、羊皮紙を2回以上折りたたんで折丁とすることがあり、例えば2回折りたたんだ四折本の場合は、1枚の羊皮紙に8ページ分の本文が書かれることとなる。ひとつの面には、連続しない4ページ分の本文を場所や向きを間違えずに筆写する必要が生じる。元本のどのページをどこに転写するか細心の注意が必要であり、さらに本のサイズが異なったり（たとえば二折本の本文をより小さな四折本に写す）、ページのレイアウトが違ったりすると、事前に元本の本文のどこから

どこまでをどのページに筆写するか入念なページ見積もりが必要となってくる。

アルファベットの書体には現在でもさまざまなものがあるが、写字生が用いる書体（スクリプト）は、中世を通じて時代と地域で実にさまざまに変化した。個人の同定を可能とするような癖や特徴がある独特の筆跡で書く写字生もいるが、多くの場合は、伝統によって受け継がれてきた書体を用いて、ときには複数の書体を、たとえば本文と見出しで使い分けるなどして用いた。（書体に関してはナイト『西洋書体の歴史』参照。）

写本生産は分業を原則としたので、ひとりの写字生が一冊の写本を最初から最後まで写字するとはかぎらない。ときに工房では、折丁毎に分けられて、複数の写字生が同時に筆写した。同時進行によって効率よく同じ書物を量産できるので、この方法は、大学の教科書など需要の多い書物の制作に用いられた。また、標題や見出しは赤インクで記されることが一般的だったが、本文の写字が終わった後で、朱書きを専門とする写字生（rubricator）がその作業を担当することも多かった。そうして完成した複数の折丁をひとつにまとめて一冊の本に綴じることになるが、その時に折丁の順序を間違えないように、折丁の最終ページの下部余白に、通しの折丁番号を書き入れたり、あるいは次の丁の最初の単語を書いておく（英語で catchword と称される）ことで落丁や乱丁を防いだ。それでも、需要に生産が追いつかないと、印刷本のように容易に増刷が出来ないため、人気がある書物ほど品薄になるという状況が生じたのである。

写字が終了すると、同じ工房の別の写字生や時には作者自身が校正して、誤字脱字を訂正する。この過程をめぐっては、14世紀イングランドを代表する作家ジェフリー・チョーサーが写字生のアダム・ピンクハーストに寄せたとされる戯れ歌が残っている。それは「筆耕人のアダムよ、もし今度、ポエティウスや『トロイラス』をまた新たに書き写すことがあったら、もっと正確に俺が作ったとおりに書かないと、お前の長い髪の下に腫れ物をこさえてやる。日に何度も俺は、お前が書いたものを直すために、（羊皮紙を）擦ったり削ったりせならんのだ。それも皆、お前が不注意でせっかちなせいだ。」という短いものだが、そこからは、チョーサーが自作の原稿をアダムに渡して清書させ、それを自ら校正していた様子を知ることができる。この詩自体が後世のフィクションであるという指摘もあるが、中世の作者と写字生の関係を生き生きと伝えるエピソードであることに変わりはない。

写本の彩飾と製本

写字が終わると、次に彩飾が施される。これは写本を美しく飾るための付随的な作業というよりも、大型のイニシャルや装飾により文の始まりや章の区切りを明示して文章を読みやすくするための重要な作業である。

章の冒頭などには、本文数行文の高さがある彩飾イニシャルが、金を含むさまざまな色で描き入れられ、また、欄外余白は蔓草やアカンサス葉文様で装飾され、あるいはページ全体や大部分を占める細密画が描かれる。写字生自身がこうした彩飾を手がけることもあるが、たいていは写字生ではなく専門の彩飾職人がしばしば分業で描く。彩飾の詳細は事前に決められて、写字の段階で然るべき場所に空白を明けておく必要がある。該当箇所には、書き入れられるべきイニシャルが小さな文字で指示されていることもある。

装飾プログラムは写本単位で決められ、イニシャルにはサイズや彩飾のヒエラルキーがある。一例として、15世紀末にフランスのルーアンで制作された時禱書（展示書51番）から、「聖母マリアへの時禱」の1ページをあげる（図4）。このページは一時課の冒頭で、直前の

ページには一時課の扉絵として「キリスト生誕」の細密画が描かれている。大きさの異なる複数のイニシャルが見られるが、祈祷文最初の行 (Deus in adiutorium meum intende) はアラベスク文様の4行分の高さの金地のイニシャル、続く賛歌 (Veni creator Spiritus mentes...) の冒頭は2行分の高さのイニシャル、それ以外の行頭は1行分のイニシャルと、重要度に応じてイニシャルのサイズや彩飾が段階的に異なっているのである。さらにイニシャルは赤地と青地のものが交互に用いられている。

彩飾イニシャルにはパターン化された文様ではなく、物語場面が描き込まれることもあった。そうしたイニシャルは「物語イニシャル」(historiated initial) と称され、そこではアルファベットの形がひとつの絵画的場面のための舞台を提供しているのである。(展示書 16, 50 番参照)。

ページ全体や大半を占める独立した挿絵は、典礼書や時禱書においては標準的な要素で、イエス・キリストや聖母マリアの生涯の一場面を描いた挿絵が、各時課の冒頭などの本文の区切りとなる箇所に挿入される。ミニアチュール(細密画)と称されるこれらの挿絵は多くは専門の彩飾画家によって描かれたが、そのなかにはシモン・マルミオン(c. 1425-1489)、ジャン・フーケ(c. 1420-c. 1481)、シモン・ベニング(c. 1483-c. 1561)などの中世後期を代表する画家たちもいた。その様式は、彼らが活躍していた地域の工房でしばしば受け継がれている。装飾モチーフは、半透明の紙を使って図を写し取るなどして再利用することができ、それらをまとめたパターン帳も工房には存在していた。たとえば、16世紀初頭にシモン・ベニングの工房で制作された時禱書(展示書 57 番)はその良い例である。零葉下部中央に描かれている小鳥は、シモン・ベニングの代表作のひとつ、『グリマーニの聖務日課書』(ヴェネチア、マルチアーナ図書館蔵 Cod. Lat. I 99) に描かれている小鳥を殆どそのままコピーしたものである(図5)。

金の使用は中世の彩飾写本の特徴であり、豪華さの象徴でもあった。聖堂における過度の装飾を否定したシトー会は、写本制作においても金の使用は避けているが、多くの写本はイニシャルや細密画に積極的に金を用いている。金彩を施すには二通りの方法がある。一つは、まず羊皮紙の表面にジェッソ(石膏などに蜂蜜や砂糖を混ぜて粘り気を出した下地)を塗って、その上に金箔を置いて磨く方法である。こうすると金が立体的に盛り上がっているように見える。もう一つは金箔ではなく、金粉をアラビア糊で溶いて、インクのように塗るやり方である。金箔は最初に羊皮紙に置いてその後他の色を塗るが、金粉の場合は逆に最後に塗る決まりである。価格としては金箔を使う方が安価であったとされる。



(図4: 120X@680@1, fol. 32v)



(図5: 展示書 57 番(左)と「グリマーニの聖務日課書」)

色絵具は鉱物を砕いて粉にして、卵白や卵黄で溶いたものの他、植物から作られる染料系のものもあった。赤は鉛丹あるいは辰砂から、あるいはブラジルスオウの樹液からも作られた。青は藍銅鉱（アズライト）から作られることが多かったが、中世にはアフガニスタンにしか産出しなかったラピスラズリ（瑠璃）は、もっとも高価で珍重された青の顔料である。緑は孔雀石、黄は雄黄やサフラン、白は鉛白から作られる。

彩飾が終わると書籍商は全ての折丁を正しい順に並べ、余白に書き込んだ彩飾職人への指示などを消して綺麗にし、一冊の書物として表紙をつけて装丁する。表紙には厚紙ではなく主に樫などの板が用いられ、皮で装丁された。見返しにはしばしば不要になった羊皮紙が補強材として貼られた。革表紙には文様や図案が空押しされ、ときに四隅に金属の突起を付けて表面を保護した。弾力のある羊皮紙の本は自然に開いてしまうので留め金をつけることもある。

書物の販売

顧客は書物制作工房の店先で、今日と同じように店頭で本を立ち読みして購入することもできただろうが、多くの場合は注文生産である。ノルマンディー地方の司教座都市ルーアンの大聖堂北側袖廊（トランセプト）の扉口は「本屋の扉口」（Portail des libraires）と呼ばれている。その扉口の外に書籍商が軒を連ねていたからで、彼らは顧客から注文をとって複数の彩飾職人に仕事を発注していた。

たとえば時禱書を購入したい顧客はそうした工房を訪れて、工房にある見本を参考にしつつ、挿絵の数や余白装飾の多寡を予算と相談しながら決めて注文した。また、15世紀から16世紀初期にかけてのフランダース地方の工房では、時禱書の挿絵をあらかじめ独立した零葉として制作し、写本の該当箇所に挟み込んで製本することがなされていた（展示書60番）。購入者は、好みや懐具合に応じて挿絵の数を調整できるし、また挿絵だけを、たとえば私室での祈祷のために購入することもできた。

書物の制作は分業が基本なので、一冊の写本の制作に複数の彩飾職人がかかわることは珍しくなく、たとえば15世紀後半にルーアンで制作された『プレイフェア時禱書』（ロンドン、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館収蔵）には7人の彩飾職人がかかわっている。こうして、何人もの手を経て、しかるべき手間をかけて書物は生産され、読者の手に渡ったのである。

中世写本のその後と蒐集

書物は貴重品なので遺贈によって受け継がれ、ときに何世代にもわたって使用された。たとえば15世紀中期に南ネーデルランドでイングランド向けに制作された時禱書（展示書54番）には、16世紀前半にこの時禱書を所有していたと思われる複数の男女の署名が残されている。しかし、活版印刷術の普及によって、手書き写本が印刷本にとって代わられると、不要となった写本は屋根裏部屋などにしまい込まれて後世まで忘れ去られるか、あるいは、より多くの場合は、廃棄されるか、売り払われて他の用途に再利用された。特に宗教改革を経てプロテスタント化した地域では、中世写本はローマ・カトリック教会とその教義と結びつけられて不要になった。イングランドでは、ヘンリー8世の修道院解体の後で、大量の中世写本がリサイクル目的で大陸に輸出されたとされる。丈夫な羊皮紙は、新たに本を装丁する際の補強材として重宝され、今回の展示品にもそのような用途に再利用されていたものが数

点ある。

中世写本を貴重な文化財と見なして保存しようとする動きも同時に存在した。16世紀イングランドの好古家ジョン・リーランド(c. 1503-1552)はそうした人物の嚆矢だが、中世写本が再び蒐集や保存の対象となるのは、好古趣味が盛んになる17世紀以降である。その場合でも、一冊の写本から細密画の紙葉のみを取り外したり、彩飾イニシャルや細密画の箇所のみを切り取ることもなされた。展示書44番は恐らくそうした意図で切り取られた断片である。

意図的な破壊ではなくとも、書物は開いたり閉じたりするたびに負荷がかかるので、溝や背から自然と壊れてゆく。溝が壊れると表紙が外れ、折丁を綴じていた糸が切れて書物は零葉あるいはピフォリウム単位でばらばらになる。そうした紙葉が古書業者などを介して個別に流通し、結果として一冊の写本が複数の図書館などに分散して収蔵されているケースは多い。古書店の目録や図書館の収蔵目録の記述を突き合わせることで、零葉からもとの写本へと遡ることがときには可能である。一例を挙げると、前述のシモン・ベニング工房の時禱書写本零葉(展示書57番)は、売りに出された時点ではまだ数十葉が現存していたようで、別の1葉が1988年のサザビーズの中世写本のオークションカタログに記載されている(*Western Manuscripts and Miniatures* (London: Sotheby's 1988), lot 7)。どちらの零葉にも、「グリマーニ聖務日課書」の装飾モチーフを手本とした、ほとんど同一の小鳥の絵が欄外装飾の一部として用いられており、彩飾様式やページ・レイアウト、さらに書体が共通していることから、もともとは同じ写本の一部であったことが推察される。

蒐集家によって細密画の零葉が外された後の写本の「残骸」も、断片と呼ぶことができるだろう。展示品の中には、もともとあった紙葉の何分の1しか現存していない写本もある。たとえば、1480年頃にフランス中東部の都市ラングルで制作された時禱書写本(展示書53番)はそのような写本断片である。元来十数点あったと推測される細密画のうち2点しか残されていないが、その完成度の高さから個人の注文によって制作された豪華な写本であったことが推察される。

以上のように慶應義塾図書館には多種多様な断片が収蔵されているが、断片となった写本の出自や来歴を知ることは容易ではなく、古書店やオークションハウスの目録においても十分な記述がなされていない場合が多い。

Ⅱ. 展示書の分類と解説

慶應義塾図書館に収蔵されている16世紀初頭以前に制作された西洋中世写本は、2019年10月の時点で、冊子(表紙が現存する断片写本を含む)17点、卷子本2点、零葉(複数葉のものを含む)298点である。その中では、14、15世紀に制作された時禱書と典礼書が最も数が多いが、これは中世における制作数および現存数(ゆえに購入の機会が多い)に比例する。収蔵された時期がもっとも古い写本は、1976年にイギリスの古書店から購入されたアエギディウス・ロマヌス『王制論』(イングランド、15世紀第2四半期)の写本(展示書71番)である。また、零葉の約半数はまとまったコレクションとして購入されたもので、なかでも20世紀を代表する書誌学者で蒐集家であったA. N. L. Munby(1913-1974、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零葉35点(170X@9@2, Pl.1~35)、アメリカを代表する古書店Bernard M. Rosenthal(1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9

@18/1~127) は特記に値する。

これらの中から代表的な98点を、以下の9つのセクションに分類して展示している。各セクションの概要は以下の通りである。

1. 写本のマテリアリティ (No. 1~8)

写本には、一枚の羊皮紙が一冊の書物となるまでの制作過程や作業の痕跡がさまざまに残されている。羊皮紙に空いた穴、写字生による修正、彩飾職人のための下書き、装丁、羊皮紙の再利用などに注目する。

2. 聖書 (No. 9~19)

ヨーロッパ中世のキリスト教世界で、聖書がもっとも重要な書物であったことは言を俟たない。中世の標準的聖書は4世紀後半にヒエロニムスが中心となって翻訳、編纂したラテン語訳で、「ウルガータ訳聖書」と称される。「グーテンベルク聖書」もこのウルガータ訳聖書に基づいている。スコラ神学が盛期をむかえる13世紀には、パリの工房を中心に、さまざまなサイズや豪華さのウルガータ訳聖書の写本が制作された。聖書写本の標準的なページ・レイアウトは、左右2カラム(欄)からなり、ページ上部に欄外標題(running title)として書名が1文字毎に赤と青のインクを交互に用いて記され、また、各書の始まりには装飾イニシャルが描かれ、各書の開始と終了は朱書き標題(rubrica)で示されるというものである。13世紀以降の聖書は、その制作地域やサイズに関係なく、ほとんどがこのレイアウトを踏襲しており、またそれは「グーテンベルク聖書」をはじめとする15世紀の印刷本の聖書にもそのまま受け継がれている。

3. 暦 (No. 20~31)

12ヶ月の暦は、聖務日課書、詩篇唱集、ミサ典礼書などの典礼写本、さらに個人用の祈祷書である時禱書ではほぼ例外なく写本の巻頭に見出される。15世紀の時禱書の典型的な暦を例にしてその構成を概説する(図6参照)。

各月の暦は縦長の表で、通常は4列で構成される。万年暦なので曜日は記されておらず、曜日と日付けの対応を知るには幾つかの手順をふむ必要がある。左端の2列はそのために用いられる。一番左の列に一見ランダムに記されているiからxixのローマ数字はゴールデン・ナンバーと呼ばれ、次の列の順番に繰り返されるAからGまでの7つのアルファベットは主日字と呼ばれる。詳細は省くが、この2列のローマ数字とアルファベットをかなり複雑な公式に当てはめることで、特定の年はどのアルファベットが日曜にあたるかを知ることができる。さらに、移動祝祭日である復活祭の日も特定でき、復活祭を基準として他の移動祝祭日も知ることができる。3列目には、日によって



(図6:5月の暦)(個人蔵)

それぞれ N、Id あるいは KI と記されているが、これは古代ローマの暦における基準となる日の呼称である（詳細は展示書 21 番参照）。

暦本体には、キリストと聖母マリアの生涯における重要な出来事を祝う固定祝日——降誕祭（12月25日）や聖母マリア被昇天の祝日（8月15日）など——と聖人祝日が記されている。聖人祝日は聖人の命日や殉教した日だが、他にも、聖人の遺物（遺骨など）が発見されたり、別の場所（教会）へ移転（英語では translation）された日もしばしば祝日とされる。なかには特定の地域だけで崇敬されている聖人（いわゆる local saint）もいて、そうした聖人の祝日が記載されていると、時禱書の制作地や典礼方式を同定する手がかりとなる。たとえばルーアンで制作された 15 世紀の時禱書（展示書 14 番）の暦には、ルーアンの初代司教だった聖メロニウス（10月22日）、ルーアンの守護聖人聖ロマヌス（10月23日）などが記載されている。

結果としてほとんどの日が何らかの祝日となるが、祝日の重要度にはいくつかのランクがあって、それは色で区別される。もっとも単純な区別は黒と赤で、重要な祝日（平日であってもミサへの出席が求められる祝日）は赤で記される。3 段階や 4 段階のより細かなランク分けがなされていることも多く、金、赤、青、黒などで色分けされている。重要な祝日の典礼はより豪華で、たとえばアンティフォナを通常の 2 倍、『詩篇』の後だけでなく前にも歌うなどの違いがある。しかし、こうした区別は典礼書では重要だが、一般信徒が個人として使用する時禱書では必ずしも必要な情報ではない。それゆえに、時禱書の色分けは、典礼上の区別を反映するものではなく、単に視覚的効果のために成されていることも多い。図 6 の例においても金、赤、青で区別されているが、典礼上のヒエラルキーを正確に反映したものではない。

暦に記されている情報は典礼に関するものだけではない。太陽が宮を移る日や夏至の日など天文学的情報もしばしば記され、さらには、写本の所有者が親族の命日（命日は「天国に生まれる」日なので、誕生日よりも重要）などを追加で書き入れて、一族の備忘録のように使用することもあった。

典礼書や時禱書の暦では、各月が月暦図と呼ばれる挿絵で飾られることが多い。月暦図は、各月の典型的な農作業や行事を描いた「月々の仕事」(occupations / labours of the months) のモチーフと十二宮の星座図の組み合わせで構成される。「月々の仕事」のモチーフの起源は古典古代の 12 ヶ月の擬人像とされ、その痕跡はロマネスクの彩飾写本に認められる。しかしゴシック期になると、農作業に従事している場面が、ときには麦畑や葡萄園のような「風景」とともに描かれる。中世後期の彩飾写本に登場する標準的モチーフは以下の通りである。

月	十二宮	月暦図の主たるモチーフ
1	宝瓶宮（みずがめ座）	新年の宴席
2	双魚宮（うお座）	室内で暖をとる、あるいは薪を集める
3	白羊宮（おひつじ座）	葡萄の木の剪定、畑の荒起し
4	金牛宮（おうし座）	花を摘む、あるいは野山を散策する恋人たち
5	双児宮（ふたご座）	鷹狩り、あるいは庭で語らう恋人たち
6	巨蟹宮（かに座）	干し草刈り、羊毛の刈り取り、除草などの農作業

7	獅子宮（しし座）	麦刈り、干し草刈り
8	処女宮（おとめ座）	収穫作業、脱穀
9	天秤宮（てんびん座）	葡萄の収穫、葡萄酒造り、脱穀、果物摘み
10	天蝸宮（さそり座）	種まき
11	人馬宮（いて座）	豚にどんぐりを食べさせる、豚を屠 ^{ほぶ} る
12	磨羯宮（やぎ座）	屠殺した豚を料理する、クリスマスの食卓

慶應義塾図書館が所蔵する時禱書や聖務日課書の零葉のなかから、月暦図の細密画を展示する。

4. 典礼書（No. 32～50）

キリスト教教会の典礼をまとめた書物は、修道院や在俗教会での日々の礼拝に不可欠なので多くの写本が作られた。現存する写本も数多く、今回の展示でも主要なカテゴリーである。典礼写本にはさまざまな種類があるが、その主なものを紹介する。

日々の礼拝の基本は時課とミサである。時課は、昼夜を通して一日の決まった時刻に行われる計8回の礼拝（7つの定時課と夜半に行われる朝課）で、修道院の祖とされる聖ベネディクトゥスの『戒律』（6世紀前半）で定められている。礼拝の時刻は季節や緯度によって異なるが、一日の終わりの礼拝である終課は宵に歌われる。修道士たちはその後いっときの睡眠をとり、夜半過ぎに起きて朝課と賛課を一緒にいき、その後再び睡眠を取り、明るくなる朝の6時か7時頃に一時課が始まる。その後、昼間の時間を、約3時間毎に三時課、六時課、九時課、晩課（午後遅く）と、礼拝を挟みながら労働や黙想で過ごし、就寝前の終課で一日を終えるのである。礼拝は『詩篇』の朗唱を中心としたが、時課毎に異なる部分があり、さらに式文は季節や祝日によっても異なっていた。式文には、一年を通じて基本となる常用のもの、季節（待降節、降誕節、四旬節、復活節などの典礼季節）用のもの、特定の主日や祝日に特化した固有のものがあり、それらの組み合わせによって各聖務の式次第は決まるため、極めて複雑なものとなる。聖務日課は、全員によって歌われる共唱、司式司祭による朗唱、司式司祭と共唱団との対話によるものがある。とうてい記憶から行うことは不可能なので、それらの全式文をまとめた**聖務日課書**（一部は聖歌譜も併記）という書物が作られ、礼拝を取り仕切る司祭によって使用された。

聖体の秘蹟が執り行われるミサも毎日、時課の合間におこなわれた。通常は一時課と三時課のあいだに朝ミサが、三時課と六時課の間に主要なミサ（盛儀ミサ）が挙げられた。ミサにおいても『詩篇』が、聖節や祝日によって変化する固有文の重要な要素であった。司式司祭とその補佐役たちが唱える全ての固有式文を福音書等からの朗読箇所も含めて収録し、さらに共唱団が歌う固有文、司祭が唱える通常文をまとめたものが**ミサ典礼書**である。また、司祭がひとりで歌う先唱句の楽譜が付加された「典譜付きミサ典礼書」（Noted Missal）と称されるものもある。

典礼において中心を占めるのは全部で150編からなる『詩篇』である。その『詩篇』を時課にあわせて8つに分類し、さらに暦や連禱を付け加えて一冊とした書物が**詩篇唱集**である。

詩篇唱集は聖務日課書やミサ典礼書とは異なり、個人の祈祷用にも活用された。

5. 時禱書 (No. 51~65)

中世においてもっとも数多く生産された写本は、聖書でも聖務日課書でもなく時禱書であり、慶應義塾図書館に所蔵されている写本も時禱書が一番多い。時禱書 (the Book of Hours, Horae) は聖務日課書を簡略化して一般信徒用に編纂した祈祷文集であり、13世紀中期から登場してくる。13世紀以前には個人の祈祷書としては詩篇唱集が用いられたが、14世紀には時禱書が生産量は詩篇唱集と肩を並べ、15世紀には完全に追い越すこととなる。時禱書は、中世後期からルネサンス期にかけてのベストセラーだったのである。

王族や貴族、高位聖職者の注文によって制作された時禱書には、中世後期の有名画家が細密画や欄外余白の装飾を担当した豪華な写本も存在するが、その一方で、パリなどの主要都市の書物生産工房は、手本となる細密画や余白装飾を写したり真似することで、効率よく既成品の時禱書を制作していた。こうした写本は相対的に安価で、中産階級の市民や商人などが購入した。

時禱書の基本的内容は以下の通りで、祈祷文の区切りにはキリストや聖母マリアの生涯を描いた細密画が挿入されることが多い。言語は、暦や追加の祈祷文などは通常ラテン語である。

1. 暦
2. 福音書朗読—典礼で朗読される福音書からの抜粋。『ヨハネによる福音書』(1:1-14)、『ルカによる福音書』(1:26-38)、『マタイによる福音書』(2:1-12)、『マルコによる福音書』(16:14-20)の4編からなる。これらはいずれもキリストの生涯の主要な出来事—神の計画、受胎告知、生誕、昇天—に関する章句であり、さらに中世後期にはキリストの受難に関する朗読(『ヨハネによる福音書』18:1-19:42)が追加されることがあった。
3. 「聖母マリアの時禱」—37篇の『詩篇』を中心に8つの時課で構成され、キリストの幼少時と関連する聖母マリアの生涯の出来事を順に主題とする。各時課の冒頭には、それぞれ対応する聖母マリアの生涯の場面を描いた細密画が挿入されている。朝課—受胎告知、賛課—ご訪問、一時課—生誕、三時課—羊飼いのお告げ、六時課—三王の礼拝、九時課—神殿奉納あるいは割礼、晩課—エジプト逃避、終課—聖母戴冠あるいは聖母の死。
4. 「十字架の時禱」、「聖霊の時禱」—それぞれキリストの受難と聖霊が人類史において果たす役割についての時禱。冒頭にはそれぞれ磔刑とペンテコステの細密画が挿入されるのが一般的である。
5. 「あなたにせつに願う」(Obsecro te)、「おお、けがれなき者よ」(O intemerata)—この2篇は、聖母マリアに救済への執り成しを直接呼びかける祈禱文である。
6. 「痛悔詩篇」—「痛悔詩篇」と称される7編の「詩篇」(6, 31, 37, 50, 101, 129, 142篇)は生者を罪から守り、死者の煉獄での苦しみを軽減するとされる。これらの「詩篇」はバト・シェバとの不義の罪をあがなうためにダビデが創作したとされ、冒頭には悔悛の祈りを捧げるダビデの姿を描いた細密画が挿入される。
7. 連禱—短い祈禱文のくりかえしで、聖母マリアを筆頭に、大天使、天使、洗礼者ヨハネ、使徒、聖人の順に捧げられる。

8. 「死者の聖務日課」—晩課、朝課、賛課の3つの定時課からなる、煉獄で苦しむ魂の解放を早めるための執り成しの祈り。冒頭には死にまつわる場面の細密画が挿入される。
9. 執り成しの祈り—天上のヒエラルキーに従って、神、三位一体、聖母マリア、大天使ミカエル、洗礼者ヨハネ、使徒、男性の聖人、女性の聖人の順に並べられ、一般的には12編ほどから成る。

以上の構成要素は常に一定とは限らず、また巻末などに追加の祈祷文が見出されることも多い。中世の教会における典礼の実際は複雑で、その方式には、ローマ式、パリ式など、司教区ごとにバリエーションがあった。それは、典礼方式の違いとして時禱書に反映されている。たとえばイングランドでは、ソールズベリ大聖堂で執り行われソールズベリ式典礼が代表的で、中世後期にはイングランドの多くの教会で採用されていた。

6. 学問と写本 (No. 66~79)

神学、教育、科学、古典文学など、さまざまな分野のいわゆるアカデミックな内容の写本。中世の大学は、修道院や教会と並んで多くの書物が必要とされる場所であった。礼拝と学問が共存する修道院は、中世を通じて書物生産の拠点であり続けたし、一方で都市の大学は、教科書や研究対象として用いられる書物の需要を生み出した。

特に、スコラ的と称される中世の学問の特徴は、聖書をはじめとする権威あるテキストに対して、先人の解釈を参照しつつ註釈を施し、解釈することにある。こうした注解書では、註釈を見やすく、効率よくテキスト本文の周囲に配し、また読者自身が新たな書き込みをしやすいように、ページのレイアウトが工夫されている。また、詳細な目次や索引が準備されて、参照を補助する工夫がされているのも特徴である。

7. 俗語写本 (No. 80~90)

慶應義塾図書館に収蔵されている中世写本の大半は、中世にとっての学問と信仰のリングア・フランカであったラテン語で書かれていて、俗語（ラテン語以外の現地語）写本の数多くはない。現存する俗語写本の数自体がラテン語のものに比べて圧倒的に少ないため、俗語で書かれた写本は資料的にも極めて貴重である。慶應義塾図書館には、中英語（1050年頃から15世紀の英語）で記されたものをはじめとして、フランス語、ドイツ語、オランダ語、ギリシャ語の写本や零葉が10点ほど所蔵されている。

8. 人文主義と写本 (No. 91~96)

人文主義は、ギリシャ語やラテン語で著された古典古代の著作を、可能な限り古い写本に遡って再検討することで、より厳密に本文を確定しようとする文献学的営みを出発点とする。校訂の対象となった古典作品は、羊皮紙やパピルスに記された古写本として、ポンポザやモンテカシーノなどの中世初期からの歴史を持つ修道院で見つかることもあったが、1453年にビザンツ帝国が終焉を迎えると、亡命してきた学者たちによってより多くの写本が西ヨーロッパにもたらされた。

そうした人文主義運動の成果として編集された古典作家の新たな校訂版に相応しい書体として14世紀末に生まれたのがヒューマニスト書体である。ヒューマニスト・ミニスキュルと

称される小文字書体は、フィレンツェの写字生ポッジョ・ブラッチョリーニ（1380-1459）によって、中世初期のカロリング小文字書体を手本として生み出されたとされる。一方でキャピタル書体（大文字体）は、古代の碑文を手本として、パドヴァ出身の画家アンドレア・マンテーニャにより、15世紀半ばまでに完成された。ヒューマニスト書体には書き手によりさらに改良が加えられた。なかでもバルトロメオ・サンヴィート（1435-1518）の書体は15世紀イタリアでもっとも美しいとされ、アルド・マヌーツィオの活字書体の手本ともなっていると推測されている。

この書体はイタリアの人文主義者たちの新たな思想傾向を表現するのに役だったのみならず、イタリアで制作された時禱書にも用いられ、ドイツ、フランス、イングランド、スペインなど西ヨーロッパ全域へと広まってゆく。結果として、今日我々がもっとも慣れ親しんでいるアルファベットの書体へと繋がってゆくのである。

9. リサイクルされた中世写本（No. 97～98）

近世になって不要となった写本は、売り払われて他の用途に再利用された。丈夫な羊皮紙は、特に新たに本を装丁する際の見返しの補強材やソフトカバーの表紙として重宝されたのである。

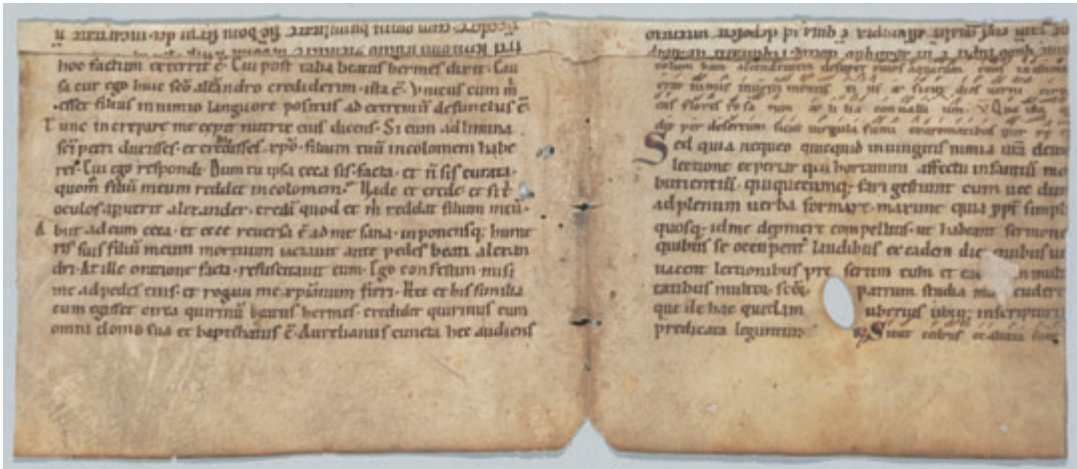
展示解説

I. 写本のマテリアリティ (Materiality of the medieval manuscripts)

1. 記譜付き聖務日課書 (ドイツ、13世紀) 羊皮紙零葉

Noted Breviary. Germany, 12th c. 130×306 mm. Parchment. Fragment of bifolium. Single column; 15 lines.

[170X@9@2, Pl.5b]



羊皮紙にあいていた穴

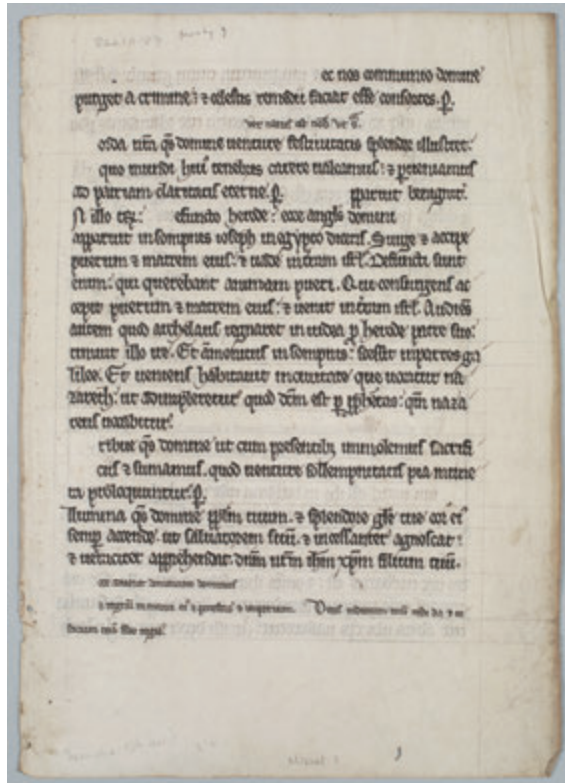
羊皮紙を制作するには、下処理を終えた獣皮を木枠に弛ま^{ゆる}ないように張って延ばし、望ましい薄さになるまで表面を根気よく削る作業を繰り返す必要がある。その過程で、皮に小さな傷があると、それが引っ張られて広がり、羊皮紙に楕円形の穴があくことがある。羊皮紙は貴重品なので、そうした穴があいていても普通に使

用されている。この12世紀に制作された記譜付きの聖務日課書の断片にもそうして自然に出来た穴がある。写字生は、穴にかかる2行では、‘sanctorum//patrum studia..., quidem uberius//ubique’ と穴を跨いで写字を続けていることから、この穴は写本の完成後に空いたものではなく最初から存在していたことがわかる。

2. ミサ典礼書（フランス、13世紀） 羊皮紙零葉

Missal (Collect for the Vigil of the Epiphany). France, 13th c. 311×218 (238×170) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 25 lines; ruled and bounded in black; written in Romanesque script. Spaces for initials and rubrics left blank.

[170X@9@2, Pl.9]



制作途中で中断した写本

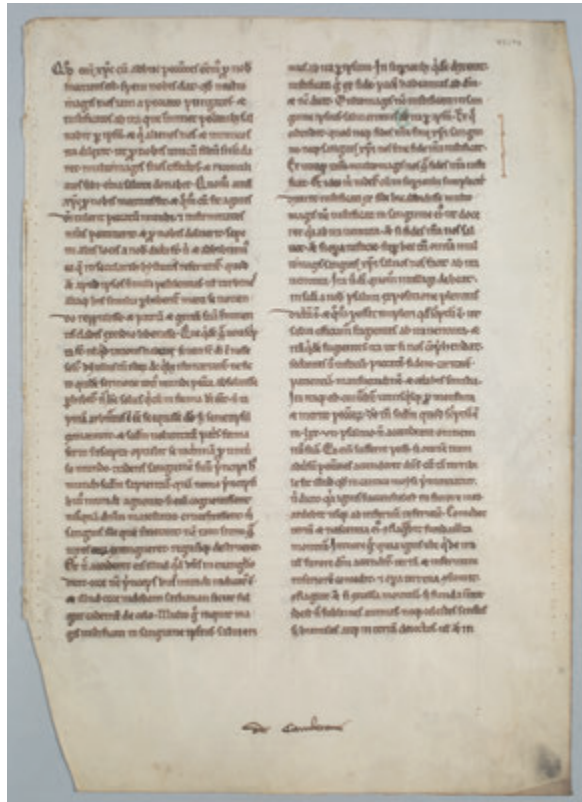
写本制作は分業で行われる。写字生が本文を書き写したら、今度はrubricatorと呼ばれる見出しやタイトルなどを朱書きする専門の職人、さらに彩飾イニシャルや欄外余白装飾を描く彩飾

画家の出番である。このミサ典礼書は、恐らくシトー会の修道院で制作されていたと思われるが、写字生が本文を書き終えた段階で作業が中断している。

3. 『ローマの信徒への手紙』註解（フランス、1200年頃） 羊皮紙零葉

Commentary on the Epistle to Romans (Romans 5:9–11). France, c. 1200. 340×243 (250×180) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 35 lines to a column; written in protogothic script (brown ink). Running book number 'lib. iiii' by pencil. Cf. de Hamel (2004), pp.29–30.

[170X@9@18/19]



朱書き職人への指示

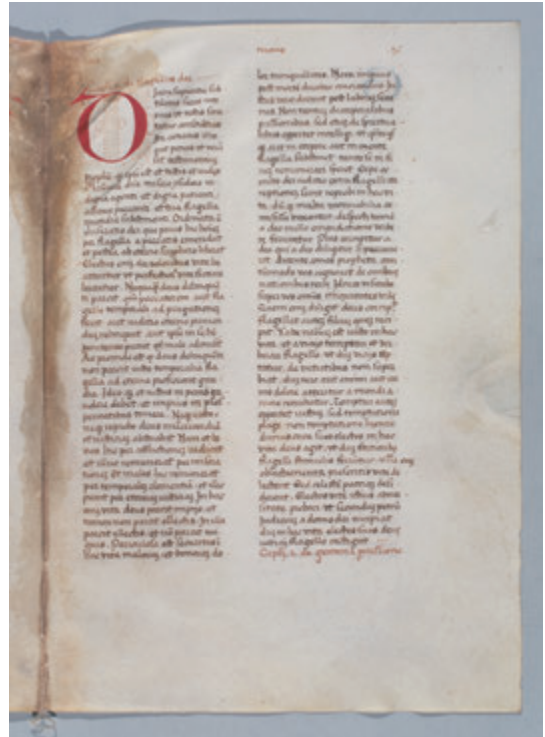
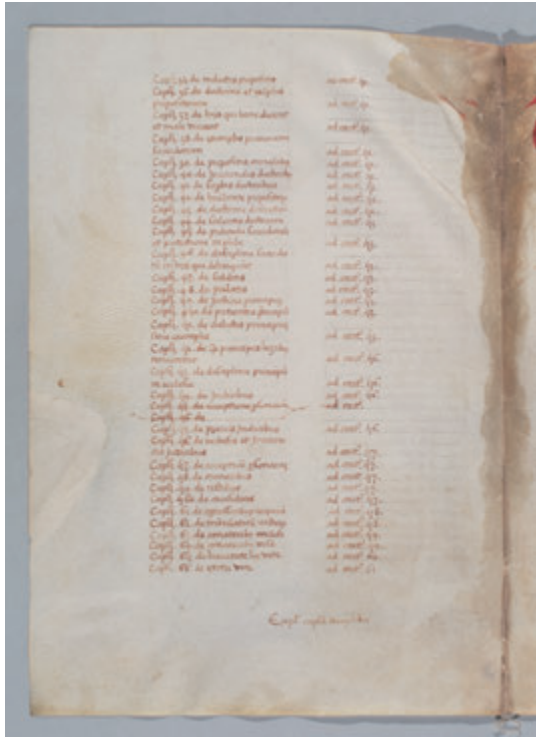
聖書や註解書などの、複数の書や巻にわたる大部な書物では、該当箇所を見つけやすくするために、上部の欄外余白に標題や巻数を記すことが一般的である。これらは、インクの色を変えて赤や青で記されることが一般的で、写字生が本文の写字を終えた後に、朱書きを専門とする職人（rubricator）が担当することが多い。こ

の聖書註解書の零葉では、そのための指示が鉛筆でごく薄く書き入れられている。表に 'iiij'、裏に 'lib'（第4巻の意味）と記されている。下部の余白に記されている 'De Camberone' は、この写本が、ソナム（フランス）のカンプロンにあったシトー会修道院の所蔵であったことを示唆している。

4. セビリャのイシドルス『命題集』（イタリア、15世紀後半）羊皮紙 ビフォリウム2葉

Isidore of Seville, *Sententiae* (3.1.1–3.2.10). Italy, 2nd half of the 15th c. 269×188 (191×120) mm. Parchment. 2 bifolia (consecutive leaves). Double column; 42 lines to a column; written in Humanistic cursive formata script (brown ink).

[170X@9@18/84]



(4: fols 1v–2)

彩飾画家のための下書き

セビリャのイシドルス『命題集』第3巻の冒頭及び直前の目次。目次には対応する葉がアラビア数字で記されている。本文のページには、朱書き職人や彩飾画家のための下書きが薄いインクで書かれている。上部の余白には 'libertercius' と欄外標題が書かれ、また朱書きされることとなる章のタイトルも、'Capl^o3 [Capitulum] i de flagellis dei' と下書きが読める。また、彩飾イニシャルを描き入れるためにあらかじめ空けてある7行分のスペースには、飾り文字の輪郭が薄く描き入れてある。しかし、その下書き通りに彩飾イニシャルが描かれることはなく、大きな大文字の 'D' が赤で、恐らくはしばらく後になってから上書きされている。

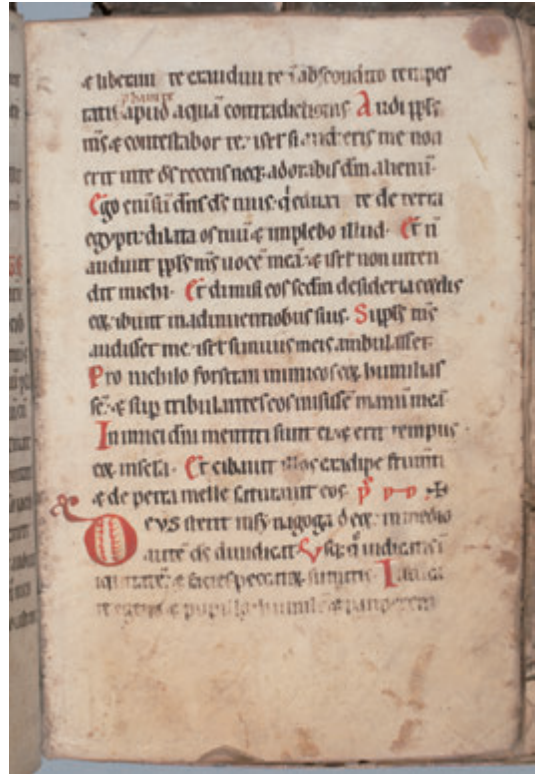
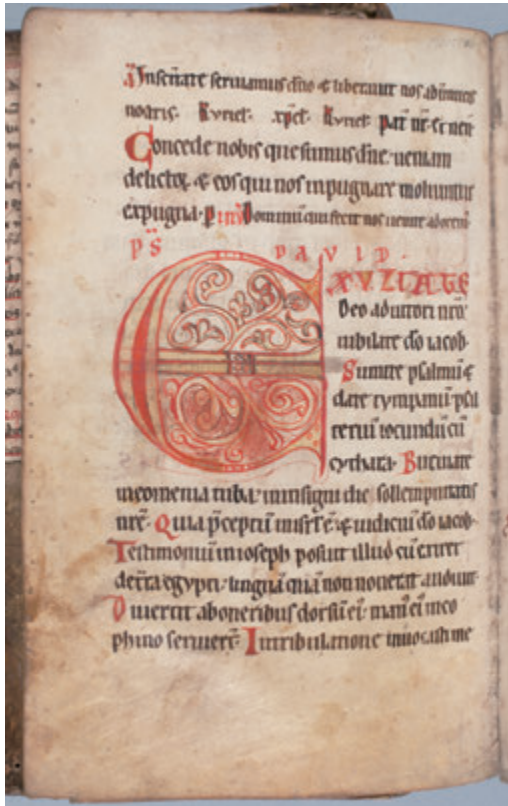
セビリャのイシドルスは、西ゴート王国が支

配していた時代のスペインのセビリャで大司教を30年以上にわたって務め、633年の第4回トレド公会議では中心的役割を果たした。全ての司教座都市に神学校を設立し、聖書の言語であるヘブル語とギリシャ語、七自由学芸の学習を義務づける教令を発して、ローマ帝国崩壊後、ゴート族の支配によって消滅の危機にあった古典の学問伝統を守ろうとした。『命題集』は、『語源論』と並ぶイシドルスの代表作で、中世を通じて広く活用された。西洋中世の知のネットワークを体現したようなこれらの著作故に、セビリャのイシドルスは今日では教皇ヨハネ・パウロ2世によって、インターネットの守護聖人とされている。

5. 聖務日課書（南ドイツ、12世紀） 羊皮紙断片 28葉

Breviary. Southern Germany, 12th c. 255×168 (185×130) mm. Parchment. Fragment of 28 leaves. Single column; 19 lines; ruled in blind; written in late Caroline script. 7-line painted initial 'E' in red and pale green (fol. 1v). Bound in contemporary pigskin over board.

[120X@511@1]



(5: fols 1v-2r)

中世写本のマテリアリティ

この写本は12世紀に南ドイツのシトー会修道院で制作されたと考えられ、後期カロリング体で書かれている。28葉のみが現存する断片だが、板に豚革で装丁したオリジナルの製本をとどめており、中世の書物の形態を知る上で貴重な資料である。背が破損していることが幸いして、当時の折丁のかかり方をつぶさに確認することができる。表紙には留め金のための金具跡も残っており、見返しに補強材として祈祷書写本の零葉が再利用されている様子もわかる。さ

らに紙葉には、各詩篇の冒頭のページに貼られた羊皮紙の切れ端を利用したつまみ、転写に先だって羊皮紙に鉄筆で罫線を引くための針穴が残っている。断片は『詩篇』80篇の冒頭から始まっており、赤と黄緑のアラベスク文様の7行分の高さの装飾イニシャルは'E' (=EXVL-TATE) である。書物の制作は、獣皮や木の板や金属を素材とした、もの作りに他ならないことを伝えてくれる。

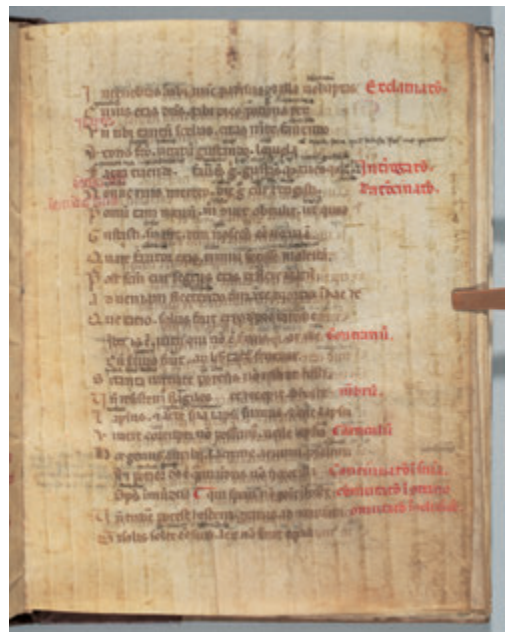
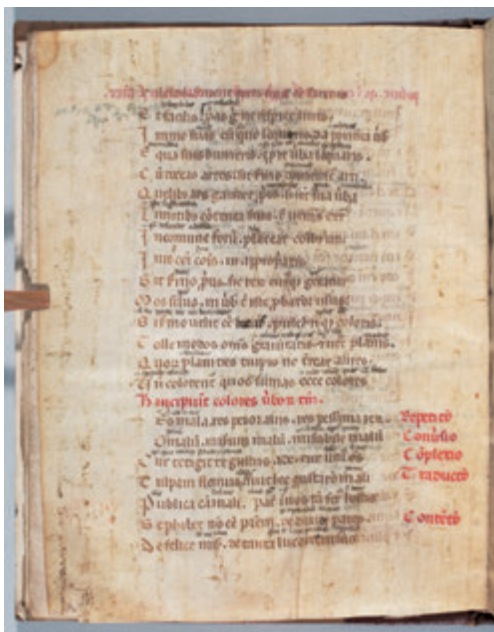
6. ジェフリー・オヴ・ヴィンソフ『新詩法』（イタリア中部、おそらくヴィテルボ、14世紀前半）
羊皮紙 48 葉

Galfridus de Vinosalvo [Geoffrey of Vinsauf]. *Poetria nova*. Central Italy [probably Viterbo], 1st half of the 14th c. 212×165 (168×103) mm. Parchment. Ff. i+48+ii. Single column; ruled in blind; written in Gothic miniscule script; marginal and internal notes in 14th- and 15th-c. cursive and miniscule. Many of the leaves palimpsest. Collation: 1-2⁸ 3¹² 4-5¹⁰.

[120X@972@1]



(6: fol.1)



(6: fols 34v-35)

パリンプセストー羊皮紙の再利用

本書に使われている羊皮紙の多くはパリンプセストと呼ばれるリサイクル紙である。中世を通じて羊皮紙は貴重品だったので、不要になった羊皮紙の表面から書かれた文字を洗い流したり削り取ったりして白紙に戻し、二度、三度と再利用することが行われていた。しかし処理が不十分だと、時間の経過とともに、消されたはずのテキストが浮かび上がって判読可能になり、ごく稀にだが、それが新発見の貴重な資料のこともある。有名な例としては、13世紀の祈祷書に用いられていたパリンプセストから、アルキメデスの未発見原稿が見つかったことがあった。

本写本でも、紫外線ライトを使用したりデジタル画像処理をしたりすることで判読可能な箇所がかなりあり、14世紀初期の書体で書かれた公証文書や13世紀末から14世紀の書体による法律文書の羊皮紙を再利用したことがわかる。特に、fols 39v-49vはイタリアのヴィテルボの書記官がつけていた支出台帳で、「ヴィテルボ市の書記官、アンジェロ・ダ・ナルニ修道士によって、1316年3月になされた支払い」(Impense facte per fratrem Angelum de Narnia, cancellarium comunis civitatis Viterbi de mense marcii

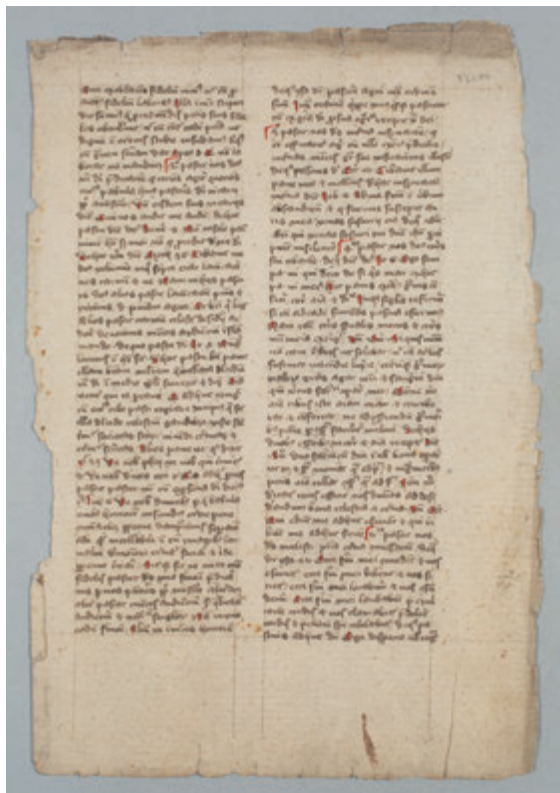
1316…')と読み取れる。このため、本書は14世紀初期にヴィテルボで書かれたと推測できるのである。

『新詩法』(c. 1200-1202)は詩作の原理や修辞法をまとめた修辞学の提要で、6歩格2116行からなるラテン語の韻文で書かれている。著者のジェフリー・オヴ・ヴィンソフについては、イギリス人であることとパリやローマに滞在したという程度のことしかわかっていない。しかし、この作品がローマ教皇インノケンティウス3世(在位1198-1216)に献呈されていること、また、修辞の具体例のひとつとして、ジェフリーの自作と思われるイングランド王リチャード1世の死(1199年没)を悼む詩が挙げられていることから、宮廷や教皇庁と浅からぬ関係があった人物と推察される。『新詩法』は、同じくジェフリーが記した『詩作法指南』とともに修辞学の教科書として大学等で活用されて人気を博し、現在でも200点以上の写本が現存している。ジェフリー・チョーサーは『カンタベリー物語』のなかで、「卓越した尊敬すべき大先生」(VII. 3347)とジェフリー・オヴ・ヴィンソフに呼びかけて、上に述べたリチャード1世への哀悼文のパロディーも展開している。

7. ラテン語の神学書（ドイツ、15世紀）紙 零葉（透かし模様入り）

Theological Text in Latin. Germany, 15th c. 286×197 (213×140) mm. Paper. Single leaf with watermark (bull's head with rayed staff rising between the horns). Double column; 43 lines to a column; written in black ink in cursiva libraria script.

[170X@9@18/91]



(7: watermark)

透かし模様入りの紙の使用例

紙の製法は13世紀後半にイタリアに伝わり、羊皮紙よりも安価だったため、15世紀には紙もしばしば支持素材として使われている。紙には、生産者のトレードマークとして透かし模様（watermark）が入れられていることが多い。このラテン語の神学書に用いられた紙には、角の

ある牛の頭のモチーフの透かし模様を確認することができる。透かしのデザインから、紙の生産地や時期を同定することも時には可能で、それは写本が書かれた時期を推測する助けともなるのである。

8. 「ブリテン王の系譜」(ロンドン、1461-71年) 羊皮紙 卷子本

Genealogical Roll of the Kings of Britain. London, 1461-1471. 7670×320 mm. Parchment. 1 roll.
Probably one parchment missing at the beginning. The arms of Thomas Wriothesley (d.1534) at the foot.

[170X@11]



長い巻物の写本

写本の形状には冊子(codex)の他に卷子本(roll)がある。羊皮紙以前に広く用いられていたパピルス紙も強靱で書きやすい素材であったが、繊維の性質上折り曲げることができなかつたため、パピルス紙に書かれた書物は原則として卷子本である。羊皮紙の卷子本も中世を通じて制作されていて、系図、年代記、携帯用のガイドブック(巡礼案内)などの用途に用いられている。この写本は、14枚の羊皮紙を繋げて、7メートル以上の長い巻物に仕立てている。

内容はイングランド王家の系図で、最後はエドワード4世(在位1461-83)で終わっていることから、薔薇戦争の最中にエドワードの王位継承の正当性を裏付けるという政治的目的で作られたと推察される。同種の写本は複数存在しており、ブリテン島を最初に統治したとされるブルータス王(ローマ建国の祖アエネアスの子

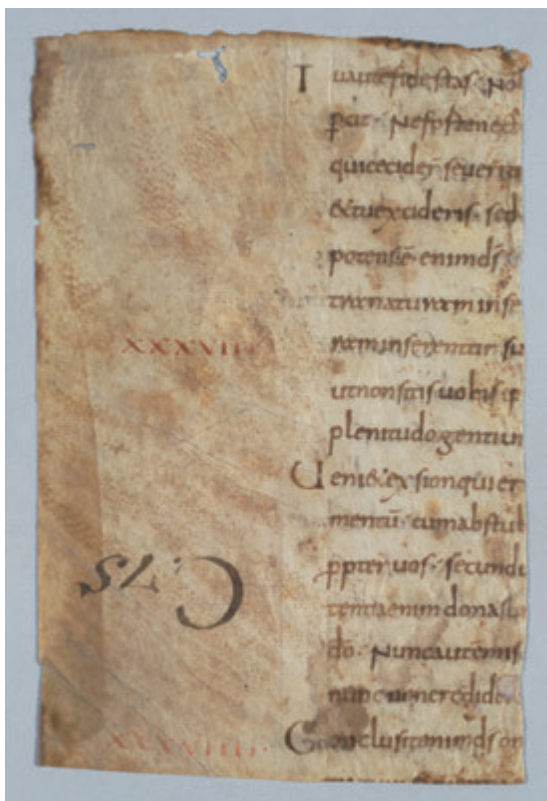
孫)から始まっている場合が多い。しかしこの写本は、ローマ帝国がブリテン島を支配する以前の伝説上の王Helyとその長男で王位を継承したLudから始まっているので、冒頭の1枚が欠落している可能性がある。系図は王冠を配した丸枠のなかに王の名を記したものを、わかりやすく色分けされた線でつないだもので、時に枝分かれしつつ15世紀まで途切れることなく続いている。5世紀から9世紀まで続いたアングロ・サクソン七王国時代には7本の線が並行して描かれている。さらに、教皇や神聖ローマ皇帝、ウェールズ王家、ロロからはじまるウィリアム征服王の系図も並んで描かれている。末尾近くには、この写本の所有者であったと思われるトマス・リズリー(1534年没)の紋章が描き加えられている。

Ⅱ. 聖書 (The Bible)

9. ラテン語聖書 (ベルギー、9世紀第2四半期) 羊皮紙零葉

Latin Bible (Romans 10:15–11:5, 11:20–32). Belgium, 2nd quarter of the 9th c. 157×105 mm. Parchment. Fragment. 16 lines; written in Caroline script (brown ink). Passages on verso are numbered 'xxxviii' and 'xxxviii' in red.

[170X@9@18/1]



慶應義塾図書館が所蔵する最古の西洋中世写本

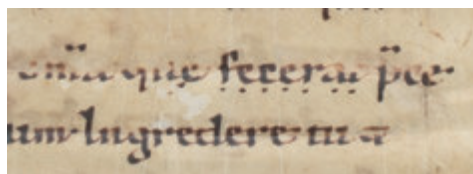
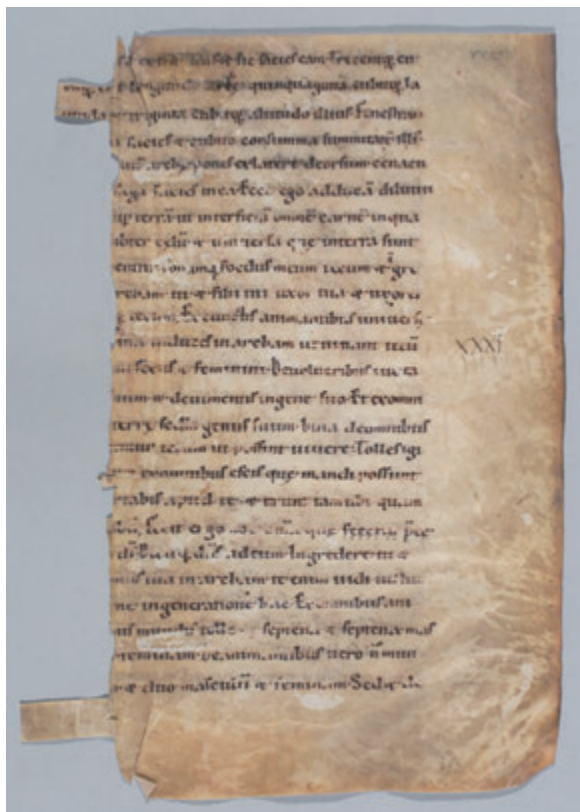
新約聖書の『ローマの信徒への手紙』(10:15–11:5, 11:20–32) が書かれた断片で、慶應義塾図書館が収蔵する西洋中世写本のなかで制作時期がもっとも古い写本である。この断片には、写本学者ベルンハルト・ビショフが1976年にアメリカの書誌学者で古書業者のバーナード・ローゼンタールに宛てた手紙と一緒に保管されている。それによると、この断片は9世紀第2

四半期にトゥルネー (ベルギー) 郊外のサン・タマン修道院のスクリプトリウムで写字されたものである。小文字はカロリング朝体だが、大文字はアンシャル体で書かれている。アンシャル体は4世紀にイタリアで考案された書体で6世紀頃まで広く使われ、その後も9世紀頃まで限定的に使用されていた。欄外に 'xxxviii, xxxviii' という章番号が朱書きされている。

10. ラテン語聖書（ネーデルランド？、10世紀後半） 羊皮紙零葉

Latin Bible (Genesis 6:14-7:14). Low Countries (?), 2nd half of the 10th c. 296×178 mm. Parchment. Fragment. Single column; 25 lines; written in Caroline script (black ink).

[170X@9@18/2]



(10: 部分拡大)

写字生による訂正指示がある聖書写本断片

『創世記』(6:14-7:14)の断片。製本の補強材として再利用されていたもので、カロリング朝体で書かれている。下から7行目に、写字生が誤りを修正した箇所が認められる。書き間違えは、直後でインクが羊皮紙にしみこむ前ならばペンナイフで削り取って書き直すことができる

が、その後は取り消し線や傍点によって誤りを正す。‘fecerat’ という単語の下に傍点が打たれているが、これは削除の指示である。羊皮紙の仕上げ処理が不十分だったのか、羊皮紙が波打っていて、裏面ではインクがにじんでいる。

11. ラテン語聖書（ドイツ、11世紀中期） 羊皮紙零葉2葉

Latin Bible (Ezekiel chap. headings, 1:1-2:3). Germany, mid-11th c. 330×213 mm. Parchment. 2 single leaves (trimmed) conjoint and consecutive. Double columns; 30 lines to a column; written in Caroline script (black ink); 7-line red initial 'E' with vine-scrolls and flowers (fol. 1v).

[170X@9@18/3]



カロリング朝書体の希少な聖書零葉

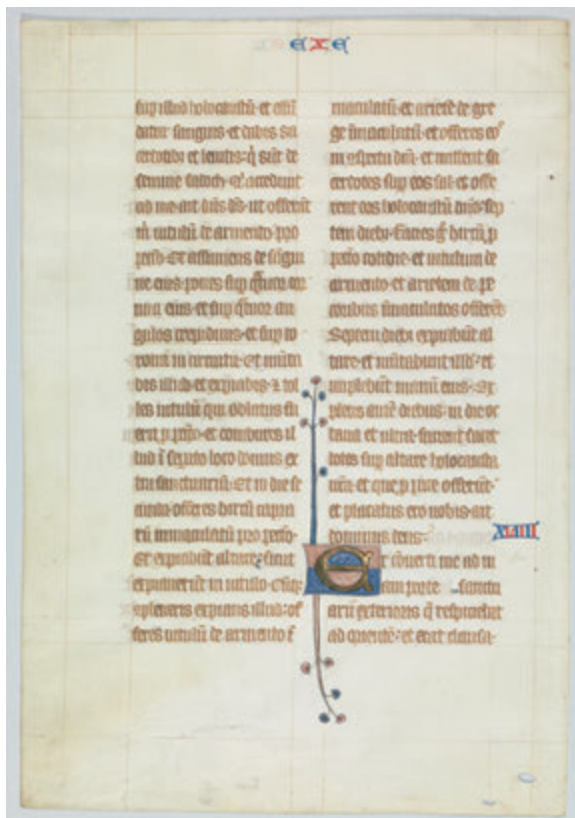
連続する2葉（fol. 1は半葉の断片）からなる聖書（『エゼキエル書』の見出しおよび1:1-2:3）の零葉。『エゼキエル書』の冒頭には、色褪せてしまっているが、ツタ文様で装飾された7行分の高さのイニシャル‘E’が赤で描かれている

（fol. 1v）。中世に標準的に使用されたウルガータ訳聖書の章区切りは、カンタベリー大司教で枢機卿だったスティーヴン・ラングトンが1203年頃に定めたものだが、この11世紀の聖書写本の章分けはそれとは異なっている。

12. ラテン語聖書（イングランド、1360年頃） 羊皮紙零葉

Latin Bible (Ezekiel 43:10-44:1). England, c. 1360. 441×310 (312×202) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 22 lines to a column; ruled and bounded; written in Gothic liturgical hand (brown ink); 2-line initial in burnished gold on blue and pink grounds. Cf. Matsuda (2001), pp.36-39; Manion, et al, pp.93-95; Sandler (1986), II, 146-7.

[170X@9@27]



豪華な朗読用大型聖書

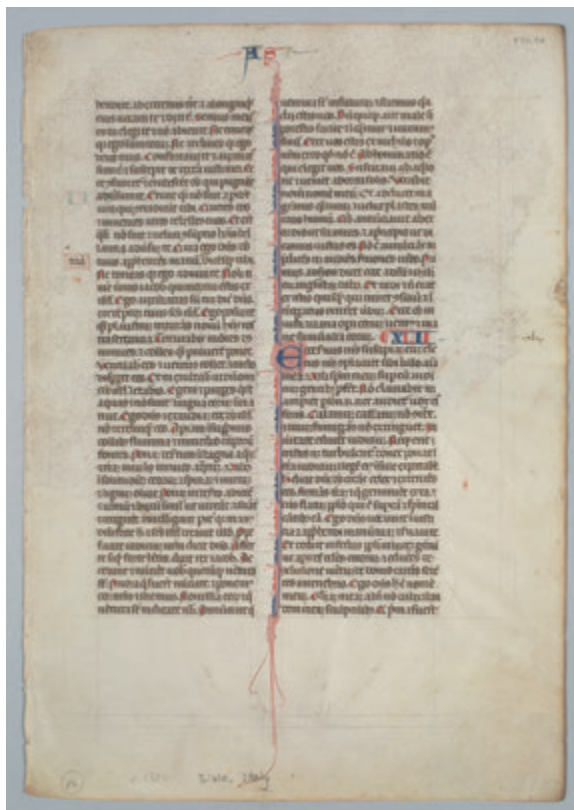
豪華な聖書写本の零葉（『エゼキエル書』43:10-44:1）で、上質の羊皮紙に贅沢に余白をとって、ゴシック体で茶色のインクで書かれている。この零葉は、その大型のサイズから判断すると、イングランドの修道院か教会で聖書朗読に使用されていた書見台用の聖書である。恐らく全4巻で、この零葉はその第3巻目の1葉（全部で413葉あったうちの第329葉）であったことが確認されている。過去の古書店の販売履歴や他の図書館の所蔵状況から、綴じ糸が切れて紙葉が欠落した状態にあった冊子が、20世紀初頭に古書店によって零葉単位で販売されたことがわかっている。現在は、オクスフォードのボ

ドレー図書館が48葉（Bodl. bibl. lat. b.4）を所蔵しているのをはじめ、慶應義塾図書館を含む世界各地の図書館や個人が、1葉から数葉ずつ所蔵している。来歴をたどると、この写本を1665年に所蔵していた古物蒐集家は、すでにその時点で紙葉が欠落していると記しており、イングランドで宗教改革後に不要となった中世写本が、バラバラになって徐々に散逸したことが推測される。他館所蔵の零葉には、各書の冒頭を飾る美しい物語イニシャルも見られ、Sandler（1986, II, 146-47）によると、14世紀後半に、中世イングランドの有力な貴族であったBohun家専属の画家によって彩飾された写本である。

13. ラテン語聖書（イタリア、14世紀初期） 羊皮紙零葉

Latin Bible (Isaiah 41:9-43:12). Italy, early 14th c. 330×230 (220×142) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 40 lines to a column; written in Gothic textura formata script (brown ink); 2-line initial in blue on red background at the beginning of each chapter.

[170X@9@18/58]



赤と青の線状装飾

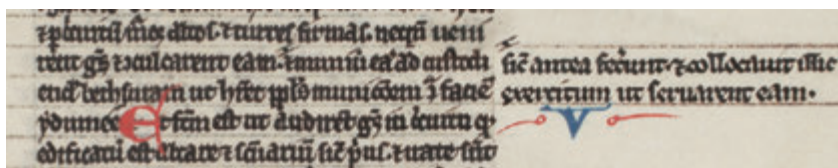
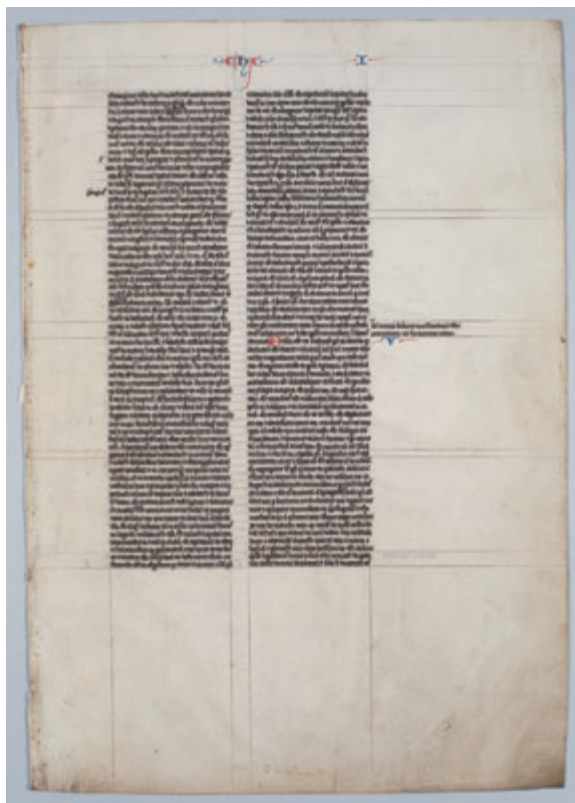
『イザヤ書』(41:9-43:12)の零葉。赤と青のインクで、各章冒頭の2行分の高さのフィリグラ（線状装飾）イニシャルが書かれ、コラムに沿ってページ上下の余白にまで伸びている。赤と青インクで1文字ずつ交互に記された上部

余白の欄外標題およびローマ数字の章番号とともに、全体としてシンプルだが美しいページ・レイアウトを作りだしている。慶應義塾図書館には恐らく同じ写本からの零葉がもう1点収蔵されている(170X@70@1)。

14. ラテン語聖書（パリ？、13世紀中葉） 羊皮紙零葉

Latin Bible (1 Maccabees 4:12-6:1). Paris (?), mid-13th c. 330×230 (202×110) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 60 lines to a column; ruled and bounded; written in a small Gothic script. From Otto F. Ege collection.

[170X@61@10@6]



(14: 部分拡大)

写字生による行の挿入

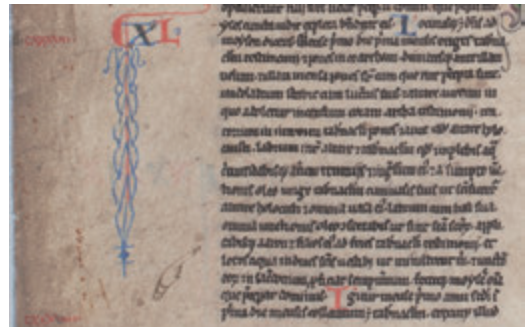
『マカバイ記 1』(4:12-6:1)の零葉で、とても広い余白が特徴的である。写字生が、転写時にうっかりして抜かしてしまっただけで4:60-61にかけての1行 (sicut antea fecerunt. & collocavit illic exercitum, ut servarent eam) を余白に補っている。

大文字の 'I' (insero=挿入する) によって挿入箇所が指示されている。同様の訂正が他にも何か所か認められる。オットー・エギー（展示書 60 番参照）旧蔵の零葉。

15. ラテン語聖書（イングランド、1220–40年頃） 羊皮紙零葉

Latin Bible (Exodus 37:16–Leviticus 1:14). England, c. 1220–40. 297×200 (194×125) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 52 lines to a column; written in early Gothic textura semi-quadrata script; 5-line initial in red, blue and green at the beginning of Leviticus. Penwork decoration in red and blue to chapter numbers. Incipit and explicit (verso) in red. 2 manicule pointing hands and some marginal annotations on verso.

[170X@9@2, Pl.7]



(15: 部分拡大)

さまざまな使用の痕跡が残された零葉

『出エジプト記』(37:16-)から『レビ記』(1:1-14)にかけての零葉で、読者による使用の痕跡がところどころに認められて興味深い。右コラム中央の『出エジプト記』の末尾に赤字で‘Explicit exodus incipit leuiticus’と記され、続いて、『レビ記』の始まりとなる、5行分の高さの赤、青、緑の装飾イニシャル‘V’が書かれている。

左コラムの赤と青で書かれた章番号‘XL’には、同じ色の飾りがついている。その下には、注目すべき箇所を指示するmaniculeと呼ばれる手指の記号が書き入れてある。また、右コラム下部には読者によるラテン語の書き込みがあり、罫線を引くために錐で開けた穴も鮮明に判別できる。

16. ラテン語聖書（フランス、13世紀中葉） 羊皮紙零葉

Bible (Prol. to 1 Maccabees–1 Maccabees 2:44). France, mid-13th c. 198×132 (168×112) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 64 lines to a column; written in small Gothic script; 11-line historiated initial of jousting knights probably representing Judas Maccabeus at the beginning of 1 Maccabees; 5-line initial in burnished gold, blue and green at the beginning of the Prol. to 1 Maccabees.

[140X@20@1]



(16: 部分拡大)

本文と対応する物語イニシャル

旧約聖書続編『マカバイ記1』(序-2:44)の零葉。『マカバイ記1』の冒頭は、11行分の高さの物語イニシャル‘C’で始まっていて、文字のなかに、槍を持って突撃する、甲冑に身を固めた中世の騎士の姿が描かれている。この挿絵はユダ・マカバイの姿を描いたもので、『マカバイ記1』(3:3-4)の「彼は、巨人のように、胸当てを着け、武具に身を固めて、戦場に臨み、剣をもって、陣営をまもった。その働きは、獅子にも似て、獲物にほえかかると獅子のようだ」という描写に対応していると思われる。ユダ・マカバイはユダヤの独立戦争を指揮した紀元前2

世紀の英雄だが、中世では、騎士道精神を完璧に体現した「九偉人」(Nine Worthies)のひとりに数えられていた。「九偉人」とは、古代からヘクトル、アレクサンドロス大王、カエサル、旧約聖書からヨシュア、ダビデ王、ユダ・マカバイ、キリスト教時代からアーサー王、シャルルマーニュ、第一回十字軍を率いたゴドフロワ・ド・ブイヨンの合計9名である。ユダ・マカバイが中世の騎士姿で描かれているのはそのためである。こうした物語イニシャルは、本文への視覚的導入の役割を果たしていると言える。

17. ラテン語聖書（パリ？、13世紀中葉） 羊皮紙零葉

Latin Bible (Judges 18:30–21:8). Paris (?), mid-13th c. 202×145 (170×114) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 64 lines to a column; written in Gothic textualis formata script (brown ink). [170X@9@18/38]



聖書写本に共通するパラテキスト

今日でも聖書は、卓上用から携帯用までの幾つかのサイズで刊行されているが、中世の聖書の写本にも書見台用の大型のものから学者や大学生が参照用に携行するポケット・バイブルまで、さまざまなサイズがあった。これは比較的小型の聖書だが、2欄構成で、赤と青のインク

を交互に使って章番号や欄外標題を書き入れるというページ・レイアウト上の慣習はサイズに関係なく共通している。13世紀のパリでは、今日の文庫本サイズの、146×95 mm程度のさらに小型の聖書も数多く作られているが、こうしたパラテキストは踏襲されている。

18. 註釈付ラテン語聖書（フランス、13世紀中期） 羊皮紙零葉

Latin Glossed Bible (Psalms 21:7-14). France, mid-13th c. 301×200 (213×127) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 51 lines to a column; written in Gothic textura script; gloss (brown ink) encompassing the text (black ink); lemmata underlined in red.

[170X@9@18/31]

19. 註釈付ラテン語聖書（フランス、13世紀中期） 羊皮紙零葉

Latin Glossed Bible (Luke 2:22-25). France, mid-13th c. 315×214 (210×134) mm. Parchment. Single leaf. Three columns with gloss flanking the text; 51 lines to a column; written in Gothic textura formata script (black ink); running titles and paraph marks in alternately red and blue letters.

[170X@9@18/32]



(18)



(19)

註釈付き聖書のページ・レイアウト

聖書註釈は中世のスコラ学の基本だったので、本文に註釈を付した註釈付き聖書 (glossed Bible) の写本も数多く作られた。本文と註釈は文字の大きさや時には書体の違いで区別され、レイアウトにも工夫がなされている。(18)の零葉(『詩篇』21:7-14)では本文を取り囲んで註釈が書かれ、本文と対応する語句には赤線が引かれている。

(19)の零葉(『ルカによる福音書』2:22-25)は3つの欄で構成されたページで、中央が聖書本文である。註釈は左右の欄と、聖書本文の行間に記されている。註釈は、12世紀に編纂されたグロッサ・オルディナリアと称されるもので、これは、教父による代表的な註釈を集めた、中世においてもっとも標準的に用いられた聖書註釈である。

Ⅲ. 暦 (The Calendar)

20. 10月と11月の暦(ドイツ、12世紀前半) 羊皮紙断片

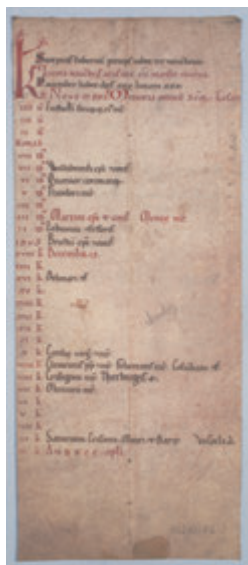
Calendar (entries for October and November). Germany, 1st half of the 12th c. 340×140 mm. Parchment. Fragment. Single column; written in Caroline script in black and red.

[170X@9@18/6]

21. 典礼書 5月から8月の暦(ドイツ、15世紀前半) 羊皮紙零葉

Calendar from a service book (May–August). Germany, 1st half of the 15th c. 285×203 mm. Parchment. Single leaf. Double column; written in Gothic textura formata script (in black and red ink).

[170X@9@18/98]



(20)



(21)

教会暦

(20) 12世紀前半に制作された暦の断片。冒頭の3行の詩行は、その月の星座、不吉な日(Egyptian Days)、そして月の日数に関する内容で、中世を通じて暦の冒頭にしばしば見いだされる。中世初期にはベーダ(672/73–735)の暦学書(*De Temporum Ratione*)に引用されているが、ローマ時代末期の著述家アウソニウス(310–c. 393)にまで溯るとされる。

暦本体は現代とは異なりローマ暦である。各月には基準となる日としてそれぞれ、Kalendae(カレンダエー各月の1日)、Nōnae(ノーナエ一月によって5日または7日)、Īdūs(イードゥース:月によって13日または15日)があり、この3つの基準日から逆算して、たとえば「ノーナエの3日前」のように日を表現した。こ

の暦ではNonasとIdesが記されていて、そこから逆算してローマ数字がふられている。

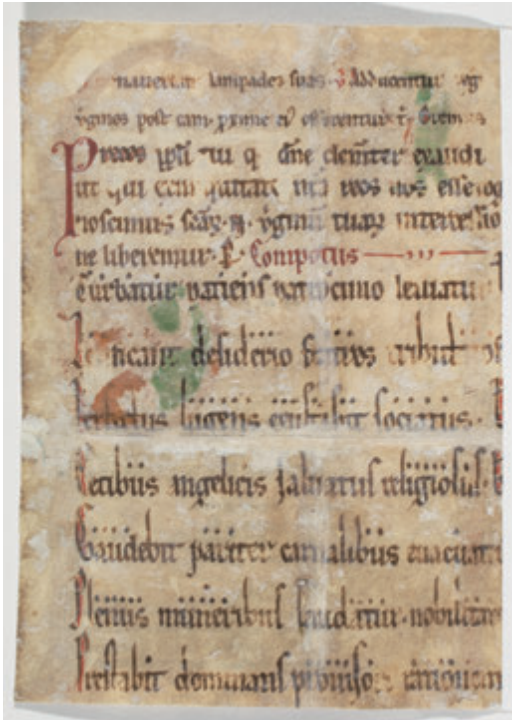
暦には、聖人以外にBerthradis, Wastinot(Wastmot), Theutbergisという3名の命日が記されている。また、太陽が12月の磨羯宮(やぎ座)に入る日が‘December’として示されている。

(21) 15世紀前半の暦で、月ごとに1欄なので、この零葉には表と裏で4ヶ月の暦が記されている。暦自体は主日字と祝日の2列のみのシンプルなものだが、重要な祝日は赤で記されていて、司教で殉教者のコンスタンティヌスの祝日、聖母マリア被昇天、ヨハネの斬首などがそれにあたる。朝課での朗読の回数も指示されているので、恐らく典礼書用である。

22. 典礼書 1月の暦（南西（？）ドイツ、13世紀初期） 羊皮紙零葉

Liturgical book (Calendar of January) South-west (?) Germany, early 13th c. 178×133 mm. Parchment. Single leaf. Single column; 13 lines; written in formal bookhand (brown and red ink); ruled in blind. A large KL monogram and the sign of the zodiac Aquarius in gold in green and yellow background.

[140X@56@1]



(22: recto)



(22: verso)

宝瓶宮の挿絵をとまなう1月の暦

恐らく詩篇唱集か暦書 (Kalendarium) の冒頭の暦からの1葉。暦の左端の列には、ゴールデン・ナンバー、主日字、ローマ暦が黒と赤で書かれている。トリアかコンスタンツの教区の暦と思われるが、祝日のヒエラルキーが示されていないので、一般信徒用の暦かもしれない。祝日以外にも、'Sol in Aquarium' と太陽が宝瓶宮(みずがめ座)に移る日が記されている。月暦図(宝瓶宮)として、水瓶を手にする人物像が緑の地に金で描かれている。

表面には、Comptus (計算法) と題されたラ

テン語の詩が記されていて、その内容は、主の聖誕の日から四旬節までの期間の計算法である。この詩は、アルザス地方のホーエンブルク修道院の女子修道院長ヘルラデ・フォン・ランツベルク (Herrad von Landsberg, c. 1130-1195) の『ホルトゥス・デーリキアールム (歓喜の庭)』に登場する。『ホルトゥス・デーリキアールム』は、修道女たちを念頭において執筆された、キリスト教道徳、教義、科学知識などを集めた挿絵入りの実用百科である。

23. 時禱書 1月と2月の暦（ルーアン、1490年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of January and February in French). Rouen, c. 1490. 160×110 (120×93) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 17 lines; written in Gothic book script in gold, red and blue; ruled and bounded in red. Bas-de-page illustrations of feasting (the labour of the month for January) and Aquarius on recto and warming in front of fire (for February) and Pisces on verso.

[170X@9@31]



(23: recto)



(23: verso)

1月と2月の暦

ページ下部に月暦図が描かれた1月（表）と2月（裏）の暦。真冬の1月と2月の月暦図のモチーフは、いずれも室内の情景である。新年の宴席の場面（1月）と暖炉の火で暖まる男の姿（2月）が、それぞれ宝瓶宮と双魚宮の星座図と並んで描かれていて、どちらも定番のモチーフである。

この写本は、15世紀末に北フランスの書物生産の中心都市であったルーアンの工房で製作されたと推察される。挿絵の素朴だが力強いスタイルは、15世紀後半にルーアンで製作された『プレイフェア時禱書』（ロンドン、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館蔵）のそれに似

ている。暖をとる男性の姿勢をはじめ、椅子や暖炉の形状などの細部にも類似点が認められる。中世末の工房では模範となる細密画のスタイルや細部を真似ることで、分業によって効率よく時禱書を制作していた。本写本もそうして生産された数ある時禱書の一点であったと思われる。

フランス語で記された暦の記載項目は重要度に対応して金、青、赤の三色で書き分けられているように見えるが、赤と青は単に交互に色を変えているだけで、典礼上のランクの違いに対応している訳ではない。

24. 時禱書 3月の暦（フランス、15世紀後半） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of March, in French). France, late 15th c. 162×114 (90×55) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 16 lines; written in Gothic book hand in alternating red and blue; ruled in red. Three-quarter border, with the lower section with the sign of Aries and the fore-edge portion with the labours of the month (pruning).

[140X@62@1]



3月の暦—葡萄の木の手入れ

暦は、ゴールデン・ナンバー、主日字、祝日の3列で、聖人の祝日はフランス語で書かれている。裏面で3月25日のマリアへのお告げの祝日（受胎告知）のみ、‘Notre dame’ と金文字で記されているが、それ以外の祝日は全て赤と青を1行ずつ交互に用いて記入されているので、典礼上の重要度の違いを反映した区別ではない。一般信徒がプライベートな祈祷のために用

いた時禱書においては、こうした典礼のための情報は不要なので、むしろ装飾のために複数の色を使い分けられている。

右のボーダーには葡萄の木を剪定する場面が描かれているが、これは3月の典型的な「月々の仕事」である。下部には白羊宮を表す羊が描かれている。

25. 時禱書 4月の暦（フランス（パリ？）、1500年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of April) France (Paris?), c. 1500. 164×113 (47×60) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 10 (recto) and 22 (verso) lines; written in Gothic book hand mostly in alternating red and blue; ruled in red. Three-quarter border populated with figures of saints; recto with arch-topped miniature with the labour of the month for April (gathering flowers) and the sign Taurus.

[140X@63@1]



(25: recto)



(25: verso)

4月の暦—花摘みと4月の聖人たち

表面の上部には4月の月暦図が金牛宮とともに描かれている。4月には決まった農作業が割り当てられていないため、ロマネスク写本では手に花を持った擬人像がしばしば登場するが、中世後期になると、庭や野での花摘みや、花を手にしての求愛の場面が一般的となる。女性が庭で花を摘み花輪を編む場面は、4月の典型的なモチーフといえる。

表と裏の欄外には4月が祝日の聖人像が描かれており、それぞれアトリビュートや衣装によって同定が可能である。表面には4名の聖人が描かれている。右上はエジプトのマリア（祝

日は4月3日）で、全身を髪の毛に覆われた姿ですぐにそれとわかる。中央は4月の暦に登場することは希なヒエロニムス（4月6日）で、枢機卿の服装で描かれている。その下には歯を引き抜かれる拷問を受けた聖アポロニア（4月7日）が、アトリビュートの拷問具（やっこ）と書物を手にして描かれている。下部の人物は、8世紀にフランク王国で伝道し殉教したゲルマニアの大司教聖ボニファチウス（4月4日）で、司教冠をかぶり司教杖を手にしたいでたちでそれとわかる。

裏面に描かれている3名のうち一番上の修道

女は、9世紀に生きた聖オポルチューヌ（4月22日）である。オポルチューヌはノルマンディーのMontreuilの女子修道院長で、病のときに聖母マリアのヴィジョンを視たとされる。その聖遺物はノルマン人の海賊の来襲を避けるために内陸のMoussy-le-Neuf（イル・ド・フランス）の司教区に移送され、結果としてイル・ド・フランスでの崇敬につながった。三日月型の聖遺物匣におさめられた肋骨は、万能薬として喉の痛み、脇腹の痛み、心迫に効果があるとされる。パリの典礼方式を特徴付ける聖人である。

中央のライオンを従えた人物は福音書記者聖マルコ（4月25日）である。マルコは4月を代表する聖人で、唯一金文字で記されている。もう1名の司教姿の人物はサントの聖エウトロピウス（4月30日）と考えられる。聖エウトロピウスは3世紀から4世紀にかけての聖人で、サントの初代司教とされる。伝記は不明な部分が

多いが、一説ではペルシャ生まれで、キリストが5つのパンと2匹の魚を増やして5000人に食物を与えた奇蹟（『マタイによる福音書』14:13-21他）に与った5000人の一人であったとされる。もう一名は恐らくアレクサンドリアの聖レオニダス（4月22日）である。

このように暦のボーダー装飾としてその月の聖人の姿が描かれることは、豪華な時禱書や典礼写本においてはときどき認められるが、この零葉のように工房制作と思われる時禱書写本では珍しい。同様のページ・デザインは、むしろ16世紀初期に盛んに印行された活版印刷による時禱書に認められ、この写本もその欄外装飾を模倣している可能性がある。写本と印刷本が共存していた15世紀後半から16世紀前半においては、印刷本のページデザインを参考にして写本の時禱書が作られることも決して珍しいことではなかったのである。

26. 時禱書 6月の暦（北フランス、パリ？、1460年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of June in French). Northern France (Paris?), c. 1460. 130×98 (70×49) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 18 lines; written in Gothic book hand mostly in alternating red and blue; ruled in red. Quarter-page panel border, flanking the labour of the month for June (recto; threshing) and the sign of Cancer (verso).

[140X@60@1]



(26: recto)



(26: verso)

6月の暦—干し草刈りと巨蟹宮

6月の典型的な「月々の仕事」は大鎌で干し草を刈る場面である。青を基調としたツタ文様は、ルーアンに代表される北フランスの工房で制作された時禱書の典型的な装飾である。暦は、ゴールデン・ナンバー、主日字、ローマ暦、

祝日の4列で、金、赤、青の3色を用いた本格的なものだが、色は装飾に用いられていて、祝日の典礼上の重要度には対応していない。裏面のエビのような絵は6月の星座の巨蟹宮である。

27. 時禱書 7月の暦（フランス、15世紀後半） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of July in French). France, late 15th c. 160×115 (91×64) mm. Parchment, Single leaf. Single column; 16 lines; written in Gothic book hand in gold, red, and blue; ruled in red. Quarter-page panel border, flanking the labour of the month for July (recto; reaping) and the sign of Leo (verso).

[170X@9@21]



(27: recto)



(27: verso)

7月の暦—麦刈りと獅子宮

暦はゴールデン・ナンバー、主日字、ローマ暦、祝日の4列で構成され、フランス語で記されている。暦に記される祝日は常に同じとは限らず、記入の密度は時禱書毎に異なる。この零葉では空欄も多く、たとえば表面の7月前半の暦では、‘Saint tybault’（7月1日—11世紀の隠修士、プロヴァンの聖ティボー）、‘saint proces. s martini.’（7月2日—1世紀にローマで殉教した聖プロケッスと聖マルティニアヌス）、‘s martin’（7月4日—トゥールの聖マルティヌスの聖遺物がトゥールに移転された祝日）、‘Saint thomas’（7月7日—聖トマス・ベケットの聖遺物移転の祝日）、‘les vij freres’（7月10日—「7人の兄弟」は聖フェリキタスの息子たちで2世紀

にローマで殉教した）、‘saint benoit’（7月11日—聖ベネディクトゥスの聖遺物の一部が7世紀にイタリアのモンテカシーノからパリ郊外のフラリー修道院に移転された祝日）、‘saint bertin’（7月15日—7世紀の伝道者で司教の聖ベルタンの聖遺物移転の祝日）が記入されている。共通の祝日である聖プロケッスと聖マルティニアヌスの祝日は金で書かれている。聖トマス・ベケット（1118–1170）はイングランドのカンタベリー大司教で殉教者だが、パリで教会法を学んだ縁でパリでも人気があった。この祝日が記されていることから、恐らくパリの典礼様式の時禱書と思われる。

28. 時禱書 8月の暦（パリ、1450年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of August in French) Paris, c. 1450. 175×128 (102×69) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 16 lines; ruled and bounded in red; written in Gothic book hand. Quarter-page panel border and a roundel depicting the labour of the month for August (threshing) on the lower margin of the recto.

[170X@74@1]



8月の暦—脱穀

8月の代表的な労働は脱穀で、納屋で作業に勤しむ様子が下部の丸枠のなかに描かれている。暦はゴールデン・ナンバー、主日字、ローマ暦、祝日の4列で構成され、フランス語で記

されている。主イエスの変容（8月6日）や聖母マリアの被昇天（8月15日）などの主要な祝日は金で記されるが、それ以外は赤と青を交互に用いて書かれている。

29. 時禱書 7月と8月の暦（北フランス、1475年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of July and August in French) Northern France, c. 1475. 150×100 (117×58) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 33 lines; ruled in red. Quarter-page panel border contains an intricate rinceau floral motif with acanthus leaves and flowers, flanking the labour of the month for July (recto; reaping and Leo) and August (verso; threshing and Virgo).

[170X@59@1]



(29: recto)



(29: verso)

7月と8月の暦—麦刈りと脱穀

「月々の仕事」と黄道十二宮の図像が、同じ挿絵のなかに描かれている。7月の「仕事」としては麦刈りや干し草刈りが一般的で、麦刈りの場面の前景に獅子宮（しし座）を示す獅子が描かれている。8月は脱穀の場面と乙女座を示す乙女の組み合わせである。

暦の記載項目は重要度を反映して金、青、黄

の三色で書き分けられていて、金と青はラテン語だが黄はフランス語である。マグダラのマリアの祝日（7月22日）と聖ヤコブの祝日（7月25日）は金で記されている。7月の暦に記されている祝日は、同じく7月の展示書27番と比べるとかなり違いがある。

30. 時禱書 9月の暦（フランス、1500年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Calendar of September) France, c. 1500. 167×114 (140×86) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 17 lines (recto), 15 lines (verso); written in lettre bâtarde (mostly in red ink). Bas-de-page illustrations of the labour of the month (man treading grapes; recto) and Libra (verso).

[140X@58@1]



(30: recto)



(30: verso)

9月の暦—葡萄酒造り

樽のなかで葡萄を踏む場面は、9月の典型的な「月々の仕事」で、裏には9月の星座の天秤宮が、中世の要塞都市を遠望できる風景を背景に描かれている。欄外の草花文様は15世紀後半に北フランスで制作された写本の典型的な様式で、類例は同時期にパリヤルーアンで制作された写本にしばしば見いだされる。

暦はゴールデン・ナンバー、主日字、ローマ暦、祝日の4列で構成され、ラテン語で記されている。7月1日が祝日の聖ジルは、7世紀にプロヴァンス地方に修道院を創設した隠者で、今

日聖ジル修道院として知られるこの修道院は、サンチャゴ・デ・コンポステーラの巡礼路の途上にあり、それ自体中世では極めて人気の高い巡礼地であった。聖アントニウス（7月2日）に続いて、7月3日の聖ルプス（710年没）はフランス中部のシャロン＝シュル＝ソーヌの司教で、パリ式の典礼に登場する。表に記されている9月前半の暦では、8日の聖母聖誕の祝日と14日の聖十字架の称讃の祝日が、共通の祝日として赤で記されている。

31. 聖務日課書 11月と12月の暦（南ネーデルランド、13世紀後半） 羊皮紙零葉

Breviary (Calendar of November and December) Southern Netherlands, 2nd half of the 13th c. 120×100 mm. Parchment. Single leaf. Single column; 31 lines; written in small regular Gothic hand; roundel of the labours of the month, a man killing an ox (recto; November) and a man baking bread (verso; December).

[140X@54@1]



(31: recto)



(31: verso)

11月と12月の暦—クリスマスの準備

家畜を屠って血を抜き、蒸し焼きや塩漬けにすることは、クリスマス前の重要な仕事である。家畜は通常は豚で、11月に豚を森に連れて行って団栗を食べさせて太らせ、12月に豚を屠る場面が描かれるか、あるいは11月に豚を屠って、12月には料理する場面か宴席の場面が描か

れることが一般的である。この13世紀後半の聖務日課書冒頭の暦では、11月には牛を屠る場面が描かれ、12月にはオープンでパンを焼く場面が描かれており、これらは月暦図の図像としてはどちらも比較的珍しい。

IV. 典礼書 (Liturgical manuscripts)

32. 詩篇唱集 (イタリア南部、11世紀) 羊皮紙 ビフォリウム

Psalter (parts of Psalms 21, 25, 26). Southern Italy, 11th c. 201×291 mm. Parchment. Bifolium (trimmed). Single column; 17 lines (of 18); written in Beneventan script; ruled in blind. Recovered from binding. Cf. Brown (1988), p.617.

[170X@9@3]



希少な修道院書体で書かれた写本

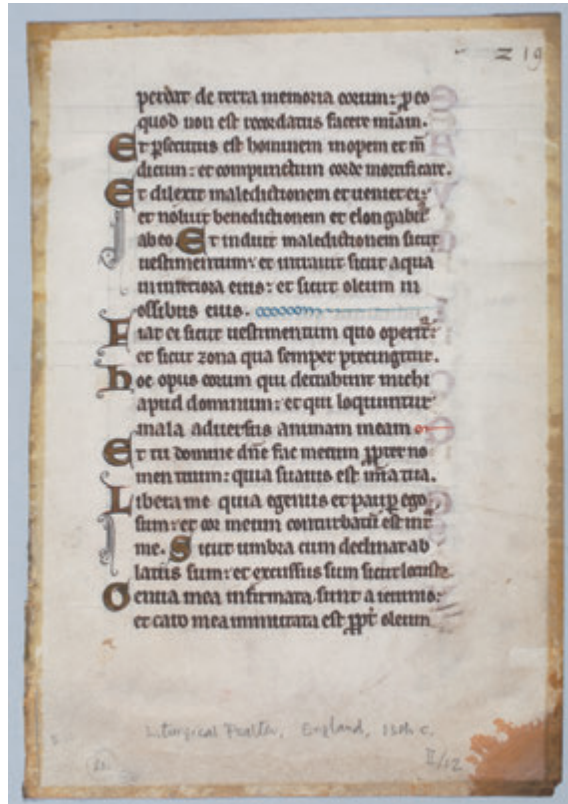
詩篇唱集(『詩篇』21, 25, 26の一部)のビフォリウム断片で、ベネヴェント書体で書かれている。この書体は8世紀半ばにベネヴェント(南イタリア)のベネディクト会修道院で生み出された独特の書体で、13世紀まで使用されたが、モンテカッシーノ、ベネヴェント、バーリなどの南イタリアとダルマチアの一部地域でしか使用されることはなく、現存する写本はきわめて少ない。柔らかな、丸みを帯びた輪郭の書体で、

幾つかの文字は独特の形状である。『詩篇』26篇冒頭のイニシャル‘D’(=Dns)は赤とオレンジの4行分の高さのイニシャルで書かれている。それに続く一文、‘& salus mea quem timebo’の‘mea’にみられる、cを縦に2つ並べたようなe、ocのようにみえるa、さらにmが省略されるときは、数字の3のようなスーパースクリプトとして上部に書かれるなど、ベネヴェント書体独特の特徴が認められる。

33. 詩篇唱集（イングランド、13世紀第2四半期） 羊皮紙零葉

Liturgical Psalter (Psalms 108:15–31 followed by doxology and collect). England, 2nd quarter of the 13th c. 247×173 (168×110) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 23 lines; written in Gothic textura script (black ink); ruled and bounded in black.

[170X@9@18/34]



素朴な13世紀の詩篇唱集

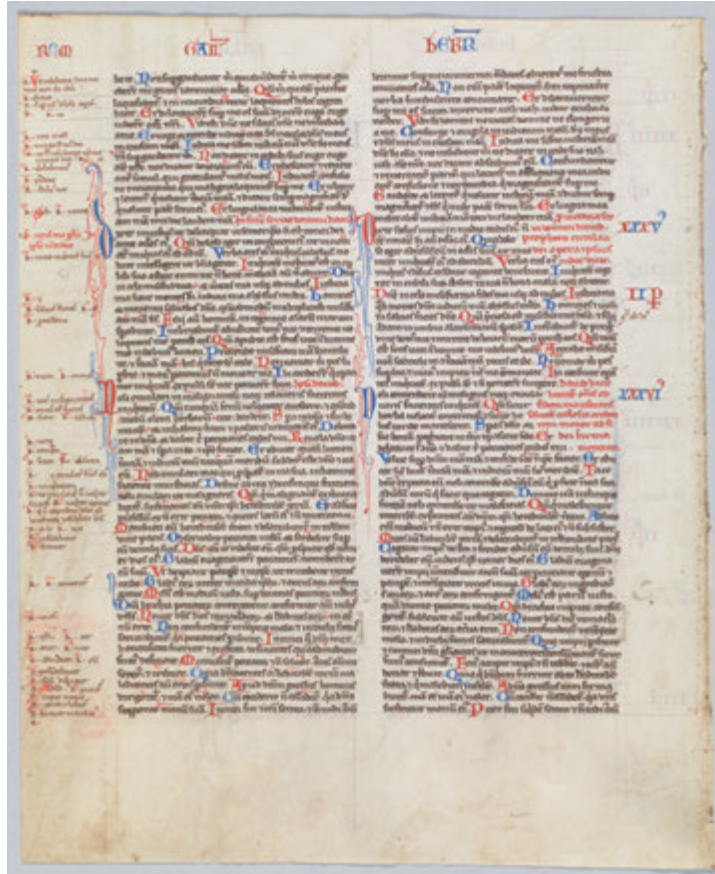
『詩篇』(108:15–31) および続く詠唱と集禱文。
13世紀の詩篇唱集はしばしば12世紀後半の書体を真似て書かれたとされる。この写本でも、カロリング朝小文字書体に似たゴシック・テク

ストゥラ体が用いられ、省略文字を殆ど使わずに書かれている。13世紀の素朴なイニシャルが印象的である。

34. 詩篇唱集（パリ、1250年頃） 羊皮紙零葉

Psalter (Psalms 32:18–36:25; Gallican and Hebrew versions in parallel). Paris, c. 1250. 259×210 (195×152) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 58 lines; written in small Gothic script. Marginal annotations from variants in Roman Psalter.

[170X@9@30]



並行詩篇

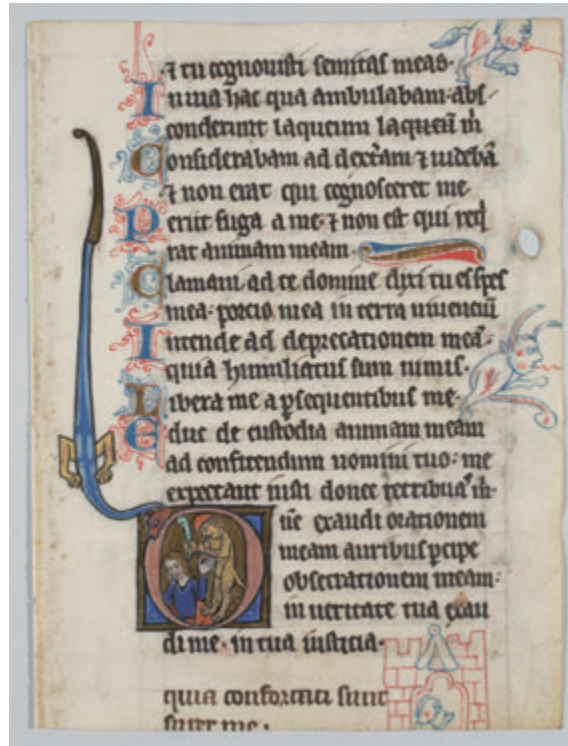
中世を通じて標準的に用いられた聖書は、ヒエロニムスが4世紀後半に完成させたラテン語訳、いわゆるウルガータ訳聖書である。ヒエロニムスは、聖書の訳文を完成させる過程において何度か『詩篇』を訳している。それらは、384年頃に完成された最初の訳（ローマ版と呼ばれる）、386–391年頃にギリシャ語から訳された第2版（ガリア版と呼ばれ、ウルガータ訳聖書に採用された）、そして晩年の392年頃にヘブル語

から新たに訳されたヘブル版である。この零葉は、『詩篇』32:18–36:25のガリア版とヘブル版を並列し、さらに欄外にローマ版の異同を記した並行詩篇である。同じような構成の詩篇としては、1150年頃にイングランドで制作された「Eadwine 詩篇唱集」（ケンブリッジ大学トリニティ・コレッジ MS R. 17. 1）が有名で、3つのバージョンを並列して示している。

35. 詩篇唱集（ベルギー、1250–1300年頃） 羊皮紙零葉

Psalter (Psalms 141:4–142:8). Belgium, c. 1250–1300. 178×133 (150×90) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 20 lines; written in Gothic script (black ink); ruled and bounded in black. 4-line historiated initial 'D' depicting a wild man and a lady; marginal drawings of chimera in penwork.

[170X@9@17]



グロテスクな彩飾イニシャルと欄外装飾

『詩篇』141篇冒頭の4行分の高さの物語イニシャル 'D' のなかに棍棒をもった野人と乙女の姿が描かれ、ドラゴンのアンテナ装飾が余白に伸びている。さらに欄外には、赤と青のペン線描による異形の生物が描かれている。典礼書の装飾には、しばしば本文とは一見全く無関係な、世俗的でときに冒瀆的ともうつるモチーフが用いられる。なかでも空想上のキメラ的生物は好まれたレパートリーで、スキオポデスなどの異形の種族、恐ろしく時に滑稽な姿のサラセン人、ドラゴンやグリフォンなどの怪獣、さらにはキメラ、グリルユス、バブインなどと称さ

れる半人半獣の生物たちが典礼書や時禱書の欄外余白に描かれ、敬虔な祈祷文の周縁を埋めている。人間と動物や鳥を合体させたハイブリッドな生物は場当たりの空想ではなく、合体の順序（人間、動物、植物の順）や分割の方法（頭など本来一つのものを二つに分かつ）は一定の法則に従っているのである。慶應義塾図書館には、同じ様式のペン線描と物語イニシャルを含む詩篇唱集の零葉がもう1点収蔵されていて、同じ写本の別な零葉である可能性がきわめて高い（170X@9@34）。

36. 詩篇唱集（ボローニャ？、1320年頃）羊皮紙零葉

Liturgical Psalter (Psalms 49–51). Bologna (?), c. 1320. 317×230 (252×175) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 32 lines to a column; written in Gothic textura rotunda script (brown ink). Calligraphic ornaments in blue and red featuring a heron-like bird on both pages.

[170X@69@2@2]



ペン線描による鳥のモチーフ

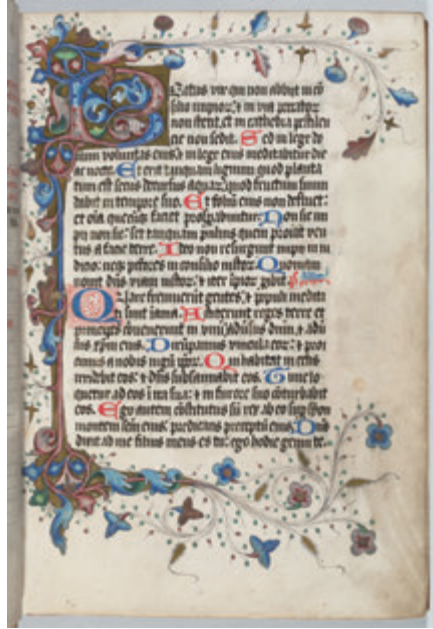
『詩篇』49–51篇。50篇冒頭の赤で描かれたイニシャル‘M’の上下に青の線で装飾が伸び、サギのような鳥が青と赤で、恐らくイニシャルを書き入れたのと同じ彩飾職人によって描かれて

いる。同じ写本の零葉（『詩篇』97:6–101:15）がもう1点、慶應義塾図書館には収蔵されていて（170X@69@2@1）、同じように、カラムの間や欄外に赤と青で鳥のモチーフが描かれている。

37. 詩篇唱集（ロンドン、1420–1440年頃） 羊皮紙 Ff. 115.

Psalter. London, c. 1420–1440. 264×183 (160×110) mm. Parchment. Ff. 115. Single column; 23 lines; written in anglicana formata script (black ink), with rubrics and much of the Calendar in red; ruled in blind. 8 four–line illuminated initials on gold ground, infilled with variously coloured closely curled leaves or flowers; some cadell initials to music pages. Original prickings on the outer margin of many leaves. Kyrie eleison and the Litany probably wanting after the Psalms. Contents: Calendar (fols 1–6v), Psalms with antiphons (fols 7–101), ‘Quicumque vult’ (Athanasian Creed, fols 101v–102v), Collects following litany (fol. 104), Office of the Dead, with musical notation (fols 105–115v). Bound in early 20th–century polished calf. Cf. Matsuda (2001), pp.50–55.

[120X@582@1]



(37: fol. 36)

15世紀ロンドンで制作された詩篇唱集

典礼で朗唱されるアンティフォナ付きの『詩篇』に、暦やアタナシウス信経、死者の聖務日課などが追加された詩篇唱集で、ソールズベリ方式の典礼が採用されている。『詩篇』は典礼暦に従って8部に分割されているが、それぞれの冒頭のページは、大型の彩飾イニシャルと欄外装飾で飾られている。詩篇唱集は13、14世紀に数多く制作されたが、15世紀になると時禱書の人気を押されて細密画を数多く含んだ写本は希となり、本写本のように彩飾イニシャルと欄外装飾のみによる装飾が一般的となった。

巻頭の暦では、たとえば降誕祭のような重要な祝日は赤、通常の祝日は黒で書かれ、典礼における具体的な指示も赤で記されている。暦に

は後世になって若干の訂正が加えられた痕跡が認められる。たとえば、12月29日の欄には聖トマス・ベケットが記されていたが削除されている。また、12月31日は、335年12月31日に没した教皇シルヴェステル1世の祝日だが、ここでは教皇(papa)という語が削り取られている。こうした改変は、ヘンリー8世がローマ・カトリック教会を離脱した後になされたもので、イングランドの典礼書や時禱書の暦には頻繁に認められる。また、1月7日の欄に‘Johannis Aspilon’という名前と1445年という日付けの痕跡が認められるが、この人物は、ヘンリー6世の命により1429年にロンドンで司祭をしていたJohn Aspilonであると推察される。

38. 詩篇唱集（イングランド南部、15世紀中期） 羊皮紙零葉

Psalter (Psalms 51). South England, mid-15th c. 271×181 (186×120) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 22 lines; written in Gothic textura formata script; ruled and bounded in black. 6-line aniconic initial 'Q'.

[170X@9@22]



(38: 部分拡大)

イングランドの特徴的な彩飾イニシャル

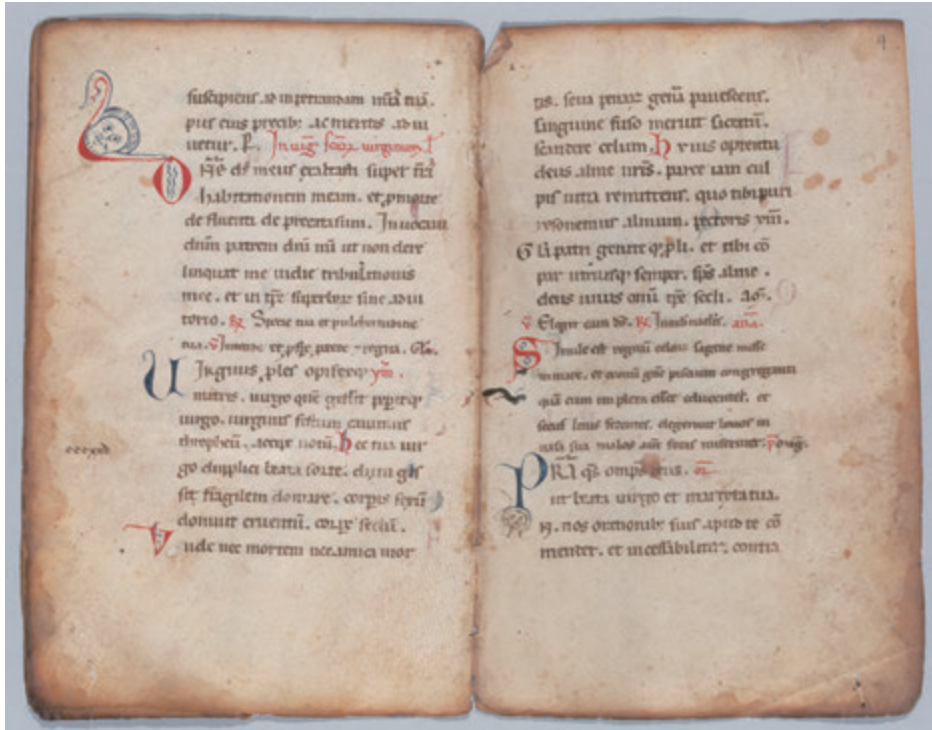
『詩篇』51篇冒頭の大きな‘Q’は、金の地に赤と青で葉文様を描いた、6行分の高さの彩飾イニシャルである。脇に小さく‘52’と書かれて

いるが、この数字は『詩編』の番号（ウルガータ訳聖書のナンバリングでは51篇）で、彩飾職人への指示として書かれたと思われる。

39. 聖務日課書（イタリア、13世紀初期） 羊皮紙4葉

Breviary (Common of saints, with services for confessor bishop (1–3v) and for virgins (3v–4v)). Italy, early 13th c. 238×158 (160×88) mm. Parchment. 4 leaves (1 and 4, 2 and 3 conjoint respectively; 2 and 3, 3 and 4 consecutive respectively). Single column; 19 lines; written in Gothic rotunda primitive script (brown ink).

[170X@9@18/25]



(39: fols 3v–4)

イエスの頭部を描いた欄外装飾

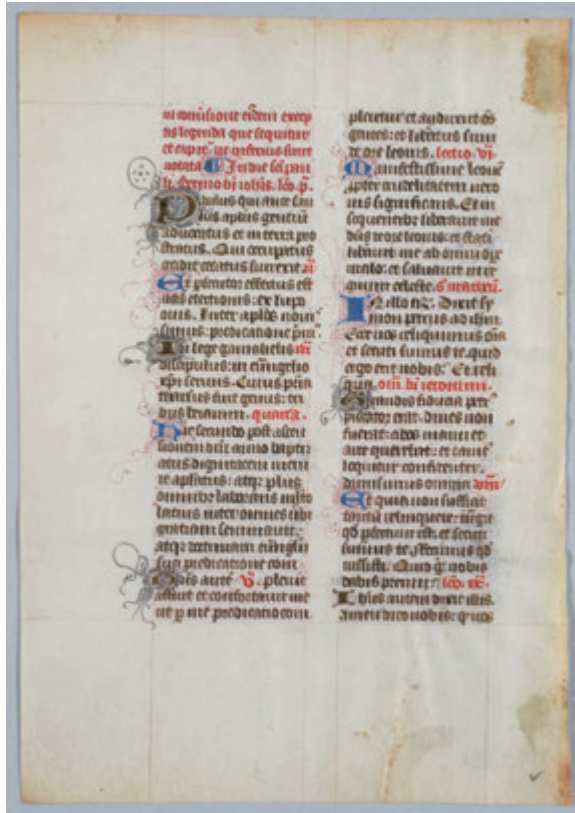
「聖人共通の部」の断片で、fol. 1と fol. 4、 fol. 2と fol. 3 がそれぞれ結合していて、本文は fol. 2と fol. 3、 fol. 3と fol. 4が連続している。ゴシック・ロトゥンダ体で書かれた本文では、赤文字

に青で装飾を加えたイニシャルと、青一色のイニシャルが交互に用いられている。'Domine'の'D'には、飾りとして欄外余白にイエス・キリストの頭部が同じインクで描かれている。

40. 聖務日課書（フランス東部、14世紀） 羊皮紙零葉

Breviary (Proper of the saints, Feast of SS Peter and Paul). Eastern France, 14th c. 161×112 (105×68) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 31 lines to a column; written in Gothic semi-quadrata formata script (brown ink); ruled and bounded in red. Another leaf from the same MS is in Dunedin Public Library (NZ) as Reed fragment 15.

[170X@9@2, Pl.13]



繊細な線状装飾で飾られたイニシャル

聖人固有文の零葉。本文は茶色のインクで書かれ、赤と青のインクによる線状装飾で飾られた、青と金のイニシャルが交互に登場する。

この零葉の元となる写本は、113葉のまとまった断片として1961年にオークション・ハ

ウスのサザビーズで売りに出され、その後、古書店を介して1葉ずつ販売されたと思われる。同じ写本の別な零葉が、ニュージーランドのDunedin Public LibraryにReed fragment 15として収蔵されている。

41. 聖務日課書（トゥール？、1470年頃） 羊皮紙零葉

Breviary (The Feast of the Ascension). Loire valley (probably Tours), France, c. 1470. 184×125 (120×82) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 30 lines to a column; written in Gothic textura semi-quadrata script. 6-line historiated initial of the Resurrected Christ in camaieu d'or on deep red ground, with the full-length illuminated floral border.

[170X@9@2, Pl.17]



(41: 部分拡大)

ジャン・フーケの様式の物語イニシャル

この零葉はロワール川流域のおそらくトゥールで制作されたと思われる。欄外余白に描かれた草花文様の装飾は、展示書55番のトゥールで制作された時禱書（160X@71@1）の欄外装飾に類似している。復活のキリストが描かれた6行分の高さの物語イニシャル‘Q’は、赤地に金のカマイユ（単色画法）で描かれている。これは、あらかじめ単色で塗られた表面に液体の金

の細い平行線で陰影をつけることで形を構成する技法で、トゥール出身の画家ジャン・フーケ（c. 1420–c. 1481）はこの線影を多用して、服の襷や髪に金彩を与えている。手法自体は15世紀初めにパリで誕生したが、トゥールでフーケが復活させ、世紀後半にフランスの主要都市へと広がっていったとされる。

42. ミサ典礼書（パリ？、1350–60年頃）羊皮紙零葉

Missal (Psalms 33.23–44.13). Paris (?), c. 1350–60. 228×164 (172×125) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 36 lines to a column; written in Gothic textura semi-quadrata script; ruled in brown. Decorated with slim stem borders with gold and coloured sprays whose ends are transformed into a dragon on both pages. 2-line foliated initials and many versals in gold and blue appearing alternately.

[170X@49@1]



(42: recto)



(42: verso)

ドラゴンのモチーフの欄外装飾

薄い乳白色の上質の羊皮紙に記された零葉。本文は『詩篇』の一部（33.23–44.13）で、朱書きされた見出し（ルブリカ）はフランス語で書かれている。左右両カラム共に、2行分の高さ

の彩飾イニシャルから、カラム全長に沿って棒状の小枝の装飾が上下の余白にまで伸び、先端はドラゴンのモチーフになっている。イニシャルには金と青が交互に用いられている。

43. ミサ典書（ネーデルランド、15世紀後半） 羊皮紙 ビフォリウム

Missal (Sanctoral, with masses for Prisca (1/18), Marius and Martha (1/19), Fabianus and Sebastianus (1/20), Agnes (1/21), Vincentius (1/22), Emerentiana (1/23), Conversion of St Paul (1/25)). Low Countries, late 15th c. 328×254 (240×165) mm. Parchment. Bifolium (consecutive). Double column; 35 lines to a column; written in hybrid script (black ink).

[170X@9@18/99]



赤と青の装飾イニシャル

本文は聖人祝日の部で一月の聖人のためのミサである。1世紀に殉教した乙女プリスカ（1月18日）、3世紀に殉教した一族のマリウスとマルタ（1月19日）、3世紀に殉教したセバスティアヌスと同じ教会に埋葬されている教皇ファビヤヌス（1月20日）、4世紀の処女殉教者アグネス（1月21日）、304年に殉教したサラゴサのヴィ

ンケンティウス（1月22日）、アグネスの乳姉妹とされる処女殉教者エメレンティアナ（1月23日）、さらに聖パウロの改心（1月25日）と続く。それぞれのミサの冒頭には、赤地に青、紫地に赤の、2行から4行分の高さの装飾イニシャルが交互に用いられている。

44. ミサ典書（ドイツ南西部、恐らくシュヴァーベン北部、15世紀後半） 羊皮紙断片

Missal (the opening of the Easter Sequence). South-West Germany, perhaps Upper Swabia, 2nd half of the 15th c. 190×140 mm. Parchment. Fragment. 11 lines; 6-line historiated initial 'V' (83×72 mm) depicting an angel holding a shield with a front half of a ram, the arm of the donor who is a member of the Magenbuch family of Swabia.

[170X@9@20]



紋章入りの物語イニシャル

復活祭のミサの続唱の冒頭を飾る大型の物語イニシャル 'V' で、盾を持つ天使が描かれている。盾に描かれている羊の前半身は、シュヴァーベンの Magenbuch 家由来の紋章で、おそらくこのミサ典書の寄贈者のものと思われる。

所有者や寄贈者の紋章を彩飾イニシャルや欄外余白に挿入することはしばしばなされた。装飾の様式は15世紀に同地域で制作された Walburg 祈祷書に似ているとされる (Geh and Römer, pp.130-2)。

45. 記譜付き続唱集（ドイツあるいはスイス、12世紀初期） 羊皮紙 ビフォリウム

Noted Sequentiary (sequences for the feasts of Holy Innocents (12/28), Epiphany (1/6), Purification of Mary (2/2), Easter, 2nd day of Easter, Assumption of Mary (8/15), Nativity of Mary (9/8), St. Michael (9/29), All Saints (11/1), St. Martin (11/13) and St. Andrew (11/30)). Germany, possibly Switzerland, early 12th c. 287×189 (160×120) mm. Parchment. Bifolium (trimmed). Single column; 28 lines; written in protogothic script (brown ink); ruled in blind. Early German neums in *campo aperto* with some heighting written above the text in red and brown ink.

[170X@9@7]



初期のネウマ記譜法による記譜付き続唱集

ミサ用の続唱集（アレレヤ唱に続いて唱われる続唱の楽譜をあつめたもの）で、プロトゴシック体で書かれている。12月28日の罪なき嬰兒殉教の日、1月6日の公現祭など11月までの主要な祝日の続唱が含まれている。歌詞の上

に、赤や本文と同じ茶色のインクで書かれた点や斜めの線は初期のネウマで、1音節に1音が対応している。ラテン語本文の上部からネウマまでの間隔を変えることで音の高低を表す音高ネウマである。

46. アンティフォナーレ（ドイツ、14世紀前半） 羊皮紙零葉

Antiphonal with musical notation (Temporal). Germany, 1st half of the 14th c. 430×318 (215×310) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 9 lines with musical notation; written in Gothic textura formata script (black ink).

[170X@9@18/112]

47. アンティフォナーレ（ドイツ、ライン地方、1500年頃） 羊皮紙零葉

Antiphonal. Rhineland, Germany; c. 1500. 479×341 (385×225) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 10 lines with musical notation; written in Gothic textura quadrata script; ruled in black. A large aniconic initial 'A' and inhabited border.

[170X@9/28]



(46)



(47)

大型のアンティフォナーレ写本

アンティフォナーレとは、聖務日課書のなかの唱われる部分を収めた聖歌隊（クワイア）用の聖歌集で、聖歌隊全員が同時に楽譜を見られるように、大きなサイズで写本が作られることが多い。(46)は聖節の部の零葉で、ペン線描による枝葉文様の欄外装飾で飾られている。(47)では、欄外に花や孔雀、さらに道化帽を被った

毛むくじゃらの野人が老けた赤子を抱いているグロテスク・モチーフなど、さまざまな装飾が脈絡なく描かれている。アンティフォナーレはそのサイズ故に、16世紀以降も写本が制作され続けたので、大型の彩飾イニシャル‘A’とともに、これらは工房が所有していた既存の手本にしたがって描かれたと思われる。

48. 福音書朗読集（ドイツ、12世紀後半） 羊皮紙零葉

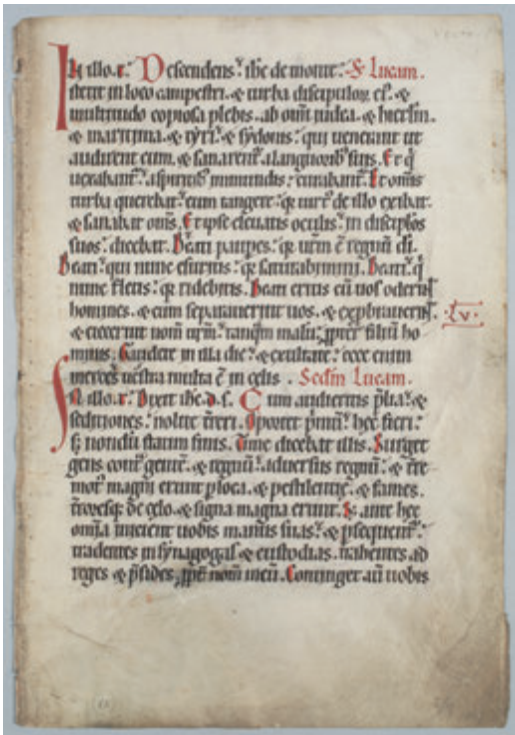
Gospel Lectionary (Common of Saints, for Martyrs, Luke 6:17-23, 21:9-19, Matthew 10:16-22, 24:3). Germany, late 12th c. 347×241 (243×169) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 24 lines; written in black ink in protogothic script; ruled in black.

[170X@9@18/7]

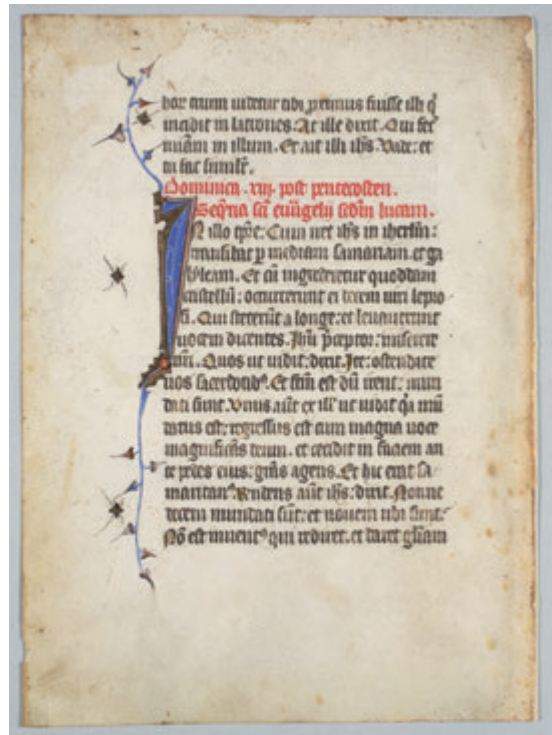
49. 朗読集（フランス、14世紀後半から15世紀前半） 羊皮紙零葉

Lectionary (Domenica xiii post Pentecosten, based on Luke 5:17). France, late 14th or early 15th c. 278×201 (176×106) mm. Parchment. Single leaf. Single column: 21 lines; written in Gothic semi-quadrata formata script; ruled in black. 8-line flourished initial 'I' in gold and blue.

[170X@9@24]



(48)



(49)

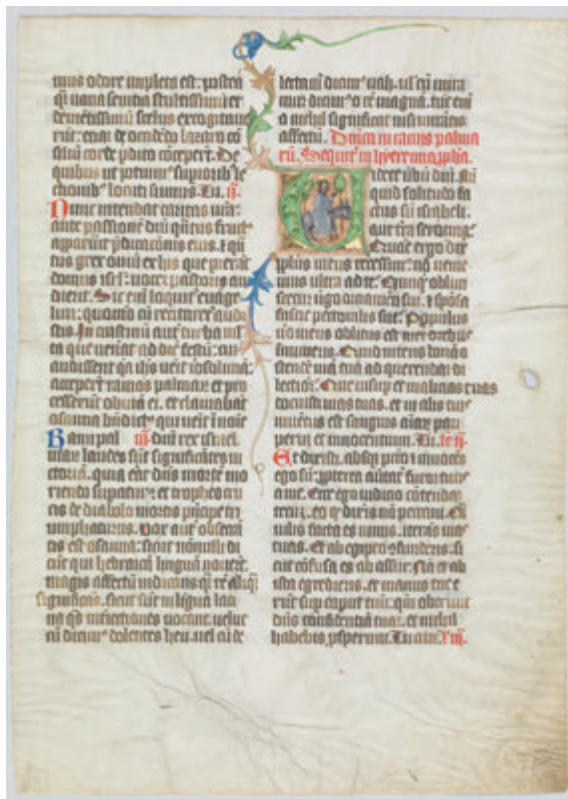
朗読集の写本零葉 2点

典礼書にはさまざまな種類がある。(48)は福音書朗読集で、典礼で朗読される福音書の章句をまとめた書物である。この零葉は12世紀後半のプロトゴシック体で書かれており、文字の大きさから判断すると書見台用である。聖人共通の部の『ルカによる福音書』と『マタイによる福音書』の一部を含む。

(49)の朗読集は、朝課でなされる朗読を、典礼季節や祝日にしたがって配分してまとめた書物である。この零葉は聖霊降臨後第13主日の朗読で、『ルカによる福音書』の一部が記されている。冒頭の 'I' は、本文8行分の高さのある、金で縁取られた青の大きな彩飾イニシャルで、上下の欄外余白まで装飾が伸びている。

50. 朗読集（南ドイツ、あるいはオーストリア、15世紀中期） 羊皮紙零葉

Lectionary (reading from Jeremiah 2:31 for Matins on Palm Sunday). South Germany or Austria, mid-15th c. 442×310 (322×240) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 32 lines to a column; written in Gothic script (brown ink); ruled in blind; 5-line historiated initial 'V' depicting Christ on an ass. [170X@64@1]



(50: 部分拡大)

ロバに乗ったキリストの物語イニシャル

聖枝祭（シュロの主日）の朝課の朗読（『エレミヤ書』2:31）を含む零葉。聖枝祭はイエスのエルサレム入場を記念する祝日で、福音書には「弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、ロバと子ロバを引いて来て、その上に服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、

ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた」（『マタイによる福音書』21:7-8）と記されている。その記述に対応して、冒頭の5行分の高さの物語イニシャル‘V’のなかには、ロバに乗ってエルサレムに入場するキリストが描かれている。本文に対応する物語イニシャルの例は、展示書16番の聖書にも見られる。

V. 時禱書 (The Book of Hours)

51. ラテン語時禱書 (ルーアン、1465–85 年頃) 羊皮紙 Ff. 103.

Book of Hours in Latin (Use of Rouen). Rouen, c. 1465–85. 178×119 (104×70) mm. Parchment. Ff. 103. Single column; 14 lines; written in Gothic hand (dark brown ink). Collation : 1–2⁶, 3–5⁸, 6⁷ (of 8, lacking i), 7–13⁸. Illustrations : Annunciation (fol. 13), Nativity (fol. 32), Adoration of the Magi (fol. 39), Presentation in the Temple (fol. 41v), Flight into Egypt (fol. 44), Coronation of the Virgin (fol. 49), Crucifixion (fol. 54), David in penance (fol. 60), Burial service in a churchyard (fol. 75v). Small late 16th- or early 17th-century etchings of twelve months after Adriaen Collaert's series based on Hans Bol's drawings are pasted on the lower margins of the calendar pages. Cf. Matsuda (2001), pp.90–97.

[120X@680@1]



(51: fols 12v–13)

月曆図の版画が貼られた 15 世紀の時禱書

103 葉からなる時禱書だが、恐らく「羊飼いへのお告げ」の細密画が描かれていたと思われる「聖母の時禱」第三課冒頭の 1 葉が欠落している。ルーアン方式の典礼が採用され、暦には聖マクレー、聖ウーアンなど、ルーアン市の地元の聖人の祝日が記されている。半ページ大以

上の細密画は全部で 9 点現存しており、それぞれ主要な祈祷文の冒頭を飾っている。主題は標準的なもので、「受胎告知」、「キリスト生誕」、「三王の礼拝」、「神殿奉献」、「エジプト逃避」、「聖母戴冠」、「十字架上のキリスト」、痛悔詩篇冒頭の「ダビデ王」、「死者の聖務日課」冒頭の

「墓地の埋葬」である。

ルーアンは北フランスにおける中心的な書物生産地である。1460年代に活躍した「ルーアン市助役団の画家」(Master of the Échevinage of Rouen)として知られる絵師がいて、15世紀後半の工房はそのスタイルを踏襲して、時禱書をはじめ様々な典礼書を分業で制作していた。ルーアンで制作された時禱書の細密画には、構図や細部のモチーフに多くの共通点が見られるが、それは同じ手本を用いた結果である。本書もそうした工房のひとつで制作されたものである。

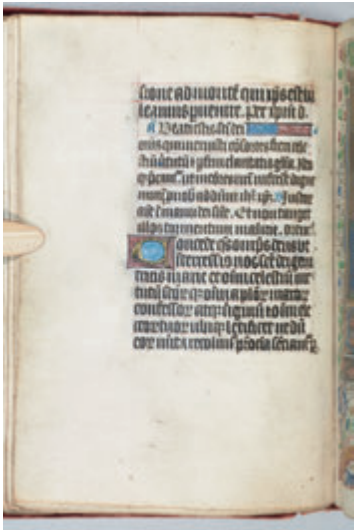
冒頭の暦には月暦図が描かれていないが、か

わりに後世の所有者が12ヶ月を描いた小さな銅板画を貼り付けている。この銅板画は、16世紀末から17世紀にかけてアントワープで活躍した版画家のAdriaen CollaertがHans Bolの下絵に基づいて作成した「12ヶ月」の銅版画シリーズの縮小版である。また、暦の最終ページ(fol. 13)には、楕円形の巡礼バッジ(pilgrim's badge)が留められていた跡が残っている。巡礼バッジは、鉛などで作られた薄いもので、巡礼地で安価な土産物として大量に売られていた。所有者による使用の痕跡が残されている貴重な写本である。

52. ラテン語時禱書（ルーアン、1465-80年頃）羊皮紙 Ff. i+117+i.

Book of Hours in Latin (Use of Bayeux). Rouen, c. 1465-80. 176×119 (95×62) mm. Parchment. Ff. i+117+i. Single column; 16 lines; written in black ink in Gothic liturgical hand; ruled and bounded in red. Collation : 1^s 2^s 3⁴ 4⁷ 5-6^s 7⁴ 8^s 8⁹ 10⁸(lacks 5) 10⁸(lacks 2) 11-14^s 15⁷ 16⁵ 17⁶ (lacks 6). Illustration: Annunciation (5^{1r} [fol. 25]), Nativity (8^{1r} [45]), Coronation of the Virgin (9^{7r} [60]), Pentecost (10^{4r} [66]), David in prayer (11^{1r} [70]), burial service (13^{1r} [86]). 4 large illuminated initials with three-quarter illuminated borders. A series of alphabet added on the final blank (17⁵) in a contemporary hand.

[120X@1362@1]



(52: fols 44v-45)



(52: fol. 66)

ルーアンの工房で制作された典型的な時禱書

このラテン語時禱書はルーアンで制作されたが、典礼方式はルーアンではなく、同じノルマンディー地方にあって中世には重要な司教座都市であったバイユーの方式である。「受胎告知」、「キリスト誕生」、「聖母戴冠」、「ペンテコステ」、「ダビデ王」、「死者の埋葬」の場面を描いた6点の細密画が含まれる。

ほぼ同時期にルーアンで制作された展示書51番と挿絵の様式が似ている。特に、床の緑の

タイル、背後の壁を覆う赤あるいは青の地に金の文様の織物、生け垣の組み方、そして欄外装飾に用いられる青と黄の草花文様や壺のモチーフといった細部に類似点が顕著である。ルーアンは、15世紀から16世紀にかけて北フランスの中心的な書物生産地として栄えていた。実際に制作された工房は異なっている、全体で引き継がれていた様式が存在したと言える。詳しくは松田（2009）参照。

53. ラテン語時禱書 (ラングル [フランス]、1480 年頃) 羊皮紙 Ff. 127.

Book of Hours in Latin and French (Use of Rome). Langres, France, c. 1480. 190×135 (113×71) mm. Parchment. Ff. 127. Single column; 18 lines; ruled and bounded in red. Collation: 1⁶, 2⁶, 3⁴⁺¹, 4⁷(of 8, lacking 1), 5⁷(of 8, lacking 2), 6⁷(of 8, lacking 3), 7⁶(of 8, lacking 3, 7), 8⁷(of 8, lacking 3), 9⁵(of 6, lacking 1), 10⁴(of 6, lacking 1, 4), 11⁷(of 8, lacking 1), 12⁸, 13⁷(of 8, lacking 3), 14⁸, 15⁸, 16⁸, 17⁵(of 8, lacking 3, 6, 7), 18⁴(of 8?, lacking 4–6, 8), 19⁵, 20⁴, 21^{3+1(pastedown)}. Contents: after the standard contents of the Book of Hours, Devotion to the Virgin (fols 118–19v), Athanasian Creed (fols 121–23v), and ‘dicts des saints docteurs de la vertu du saint sacrement’ (fols 123v–26) are added by different hands. Illustrations: St John on Patmos (fol. 13), St Luke (fol. 14), St Matthew (fol. 15), St Mark (fol. 16v), Annunciation to the Shepherds (fol. 37), Trinity (fol. 114), St Anthony Abbot (fol. 115), Four Saints (SS George, Dionysius, Christopher, John the Evangelist; fol. 116). The MS was made for Anthoine Bruillat whose name and motto (‘Se mieulx non pis’) are written on fols 37 and 116. 16th-c. panelled brown leather binding.

[120X@1338@1]



(53: fol. 118)

所有者の銘が入った注文生産の時禱書

フランス中東部の都市ラングルで制作されたローマ式典礼の時禱書。冒頭の曆に、ラングルの守護聖人である聖マメスやラングル司教区の最初期（3世紀）の司教であったとされる聖デジデリウスの祝日が赤で記されていることから、ラングル教区で使われることが意図されていたと推察される。細密画のページの欄外装飾のなかに Anthoine Bruillat という名前がカルトゥーシュに囲まれて書き込まれていて、この人物が写本の注文主であったと推察される。個人の注文によって制作された豪華な写本で、元来十数点あったと推測される大型の細密画のうち、現存するものは「羊飼いへのお告げ」（fol. 37）と4人の聖人（fol. 116）の2点のみである

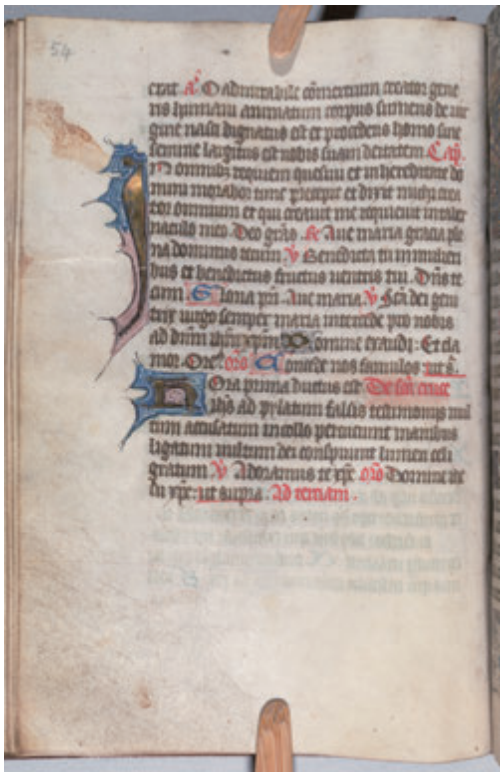
が、挿絵の完成度は高い。聖人は、（左から）聖ゲオルギウス、聖ディオニシウス、聖クリストポリス、福音書記者ヨハネで、欄外には注文主の名前と「より良ければ、より悪くはない」（Se mieulx non pis）という、ある意味で自明の理のモットーが記されている。このモットーは、15世紀に Cornod（フランシュ・コンテ）の領主であった Seyturier 家を使用したことで知られており、中世においてフランシュ・コンテはラングル司教区に属していたことから、所有者はそうした縁の人物であった可能性はある。

本書の装丁は写本の制作時期に近い16世紀の革装で、空押しの装飾はかなり摩耗しているが、近代初期の製本の姿を保っている。

54. ラテン語時禱書（南ネーデルランド、15 世紀中期） 羊皮紙 Ff. iii+81+i.iii.

Book of Hours in Latin (Use of Salisbury). Southern Netherlands, mid-15th c. 188×132 (127×83) mm. Parchment. Ff. iii+81+i.iii. Single column; 24 lines; written in angular late Gothic script (dark brown ink). 19 large illuminated initials with three-quarter illuminated borders. Collation: 1⁶ 2-5⁸ 6⁹ 7-9⁸ 10⁶ 11⁷ (lacking 1¹, 6⁷, 7², 7⁷ [fol. 1 and a leaf after fols 42, 49, 53]), pp.3-164 (modern pagination). 3 modern vellum flyleaves each at the beginning and the end. Bound by Rivière and Son in the late 19th or early 20th c.

[120X@1337@1]



(54: fols 27v-28)

エリザベス 1 世の侍女が所有していた時禱書

本写本は「フィトン時禱書」として知られ、15 世紀中頃に南ネーデルランド地方（おそらくブルージュ）で制作された。15 世紀から 16 世紀初期のネーデルランドでは、時禱書をはじめとする彩飾写本が工房での共同作業によって盛んに制作され、それらは輸出もされていた。本写本の典礼方式はイングランドの教会で広く採用されていたソールズベリ式で、この写本がイングランド向けに制作されたことがわかる。

本書には ‘francis (あるいは FRANCYS) feton, Thomas fettone, ELYZABETHE DAVEMPORT’ と

読める 3 名の署名が合計 4 カ所に見出される。この 3 名はいずれも 16 世紀にエリザベス 1 世に私室付き侍従・侍女として仕えていた人物で、さらに「自ら署名した」(by me) と記している francis feton については、女王の私室付き侍従という肩書きも併記されている。写本は、二人の Fetton (彼らは兄弟である) から、同じくエリザベス女王に仕えていた侍女の Elizabeth Davenport に譲られたと推察される。興味深い来歴を誇る中世後期の時禱書である。詳しくは松田 (2013) 参照。

55. ラテン語時禱書（トゥール、1480–90年頃） 羊皮紙 Ff. 174.

Book of Hours in Latin. Tours, c. 1480–90. 126×87 (71×51) mm. Ff. 174. Single column; 14 lines; written in lettre bâtarde script (brown ink); ruled and bounded in red. Lacking single leaves after fols 17, 33, 46, 88, 105, 113, 117, 2 leaves after 100, probably 6 leaves after 104. Illustrations: St John at Patmos, Luke, Veronica, Trinity, Michael, Gabriel, Annunciation, Visitation, Pentecost, Nativity, Annunciation to the Shepherds, Job in the dunghill. Bound in the 16th-c. calf gilt, later silver clasp and catch.

[160X@71@1]



(55: fol. 47v)



(55: fol. 90v)

トゥールの工房で制作された典型的な時禱書

174葉からなるこの写本には、全部で13点の細密画が現存しており、その主題は「受胎告知」、「エリザベトご訪問」、「生誕」、「羊飼いへのお告げ」、「ペンテコステ」など時禱書の標準的なものに加えて、「聖女ベロニカの布」や「三位一体」も含む。トゥールは一地方都市だったが、1403年からの約100年間はフランスの実質的な首都として機能していた。1444年にシャルル7世（在位1422–1461）がMontils-lès-Toursの城に居を構え、王位を継いだルイ11世（在位1461–1483）も続けて居住したからである。トゥールには宮廷人やブルジョワ出身の役人層が集まり、彼らが豪華な写本を注文する顧客となると挿絵画家たちも集まってきた。その一人が、15世紀を代表する画家で『エティエンヌ・シュバリエの時禱書』や『フランス大年代記』

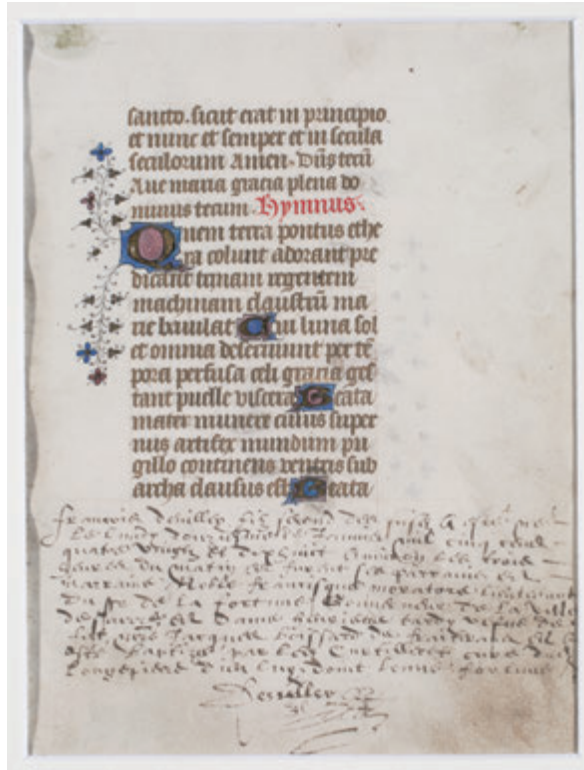
をはじめ、多くの細密画を制作した王室付きの画家ジャン・フーケ（c. 1420–c. 1481）である。フーケはトゥール出身で、イタリアなどに旅したが、後半生の1450年からは故郷に戻って活躍していた。15世紀後半に制作された時禱書にはフーケの影響が認められるものがあり、本写本もそのひとつである。フーケの様式を継承した直系の工房が存在したかは不明だが、フーケのもとで学んだ画家が独立して活動した結果、ロワール川地方の流派と呼べるものが出来上がったといえる。（Avril and Reynaud, p.149）

装丁は、16世紀の金箔押しで、銀の留め金は後世のものだが、おそらく同じような留め金がかもともついていたと思われる。このように小型で繊細な装丁がなされた時禱書は恐らく女性の所有であったと推察される。

56. ラテン語時禱書（フランス、15世紀後半） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Hymn from the Matins for the Hours of the Virgin). France, late 15th c. 250 ×160 (115×65) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 17 lines; written in Gothic hand (light brown ink). Records of the birth of one Francois (b. 12 Feb. 1598) and Anne (b. 16 Dec. 1599) Deuilley written in French in contemporary hand.

[170X@65@1]



備忘録として活用された時禱書

聖母マリアの時禱の朝課の賛歌の零葉。写本の時禱書は近世以降もしばしば何世代にもわたって一族で引き継がれ、プライベートな祈禱書としてだけでなく、一家の備忘録のようにも用いられた。暦や余白には、誕生日や結婚記念日、先祖の命日などの情報が書き込まれ、また白紙のページに縁が深い聖人への祈禱文が俗語で書き加えられることもある。こうした使用の

痕跡から近代初期の所有者の生活が読み取れるのである。

この零葉では余白に、Francois Deuilley（1598年2月12日生）とAnne Deuilley（1599年12月16日生）という2名の誕生に関する記録が、それぞれ表と裏に16世紀末のフランス語で記入されている。

57. ラテン語時禱書（гентあるいはブルージュ、1510–20 年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (the opening of the Sext for the Hours of the Virgin). Ghent or Bruges, c. 1510–1520. 206×148 (136×90) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 17 lines; written in Gothic textura quadrata script (black ink). 6–line decorated initial 'D' and the full trompe-l'oeil inhabited border in the style of the early 16th-century Ghent/Bruges workshop. Cf. Matsuda (2001), pp.138–141.

[170X@9@23]



(57: recto)



(57: 部分拡大)

騙し絵的な欄外装飾

この零葉はローマ式典礼の時禱書の一部で、聖母マリアの時禱の六時課の冒頭の一葉である。モチーフが地に影を落とすように描かれて立体的な効果を生む騙し絵（トロンプ・リュ）的な装飾技法は、シモン・ベニング（c. 1483–c. 1561）に代表される 15 世紀後半から 16 世紀初頭のフランダースの細密画の特徴である。ベニングはフランダースの細密画家の最後の巨匠で、カルロス 5 世をはじめとする王侯貴族や高位聖職者の依頼を受けて主に典礼写本の細密画を数多く手がけた。それらの多くは今日では欧米の主要図書館の至宝となっている。

ベニングの様式は 16 世紀初頭のгентやブ

ルージュの工房で踏襲され、この零葉の小鳥、花、苺、蝶などがあしらわれた装飾もそうした工房で描かれたものである。実際、下部中央で描かれている小鳥は、ベニングが「グリマーニ聖務日課書」の欄外に描いた小鳥と酷似している（全体解説 p.7 参照）。ベニングの様式は立体的に描かれた彩飾イニシャル 'D' にも表れている。その一方で本文中の彩飾イニシャルはより伝統的な様式で装飾されているので、本文部分が 15 世紀後半にフランスで書かれた後、16 世紀初頭にフランダースの工房に持ち込まれ、大型の彩飾イニシャルと装飾枠が描きこまれたと推測されている。

58. ラテン語時禱書（ルーアン？、1480年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin ('O Intemerata'). Rouen (?), c. 1480. 164×115 mm. Parchment. Single leaf. Single column; 17 lines (verso); written in Gothic script; illustration of the Virgin at her loom with two angels.

[140X@59@1]



(58: 部分拡大)

機を織る処女マリア

聖母マリアに救済への執り成しを乞う祈祷文「おお、けがれなき者よ」を飾る細密画の零葉。タブレット型の織機の前に座る女性はマリアである。機を織るマリアの両側には天使が控え、それぞれ食物を入れた籠と飲み物の瓶を手にしている。同じ図像は15世紀冒頭に制作された「ベリー公の大時禱書」にも登場する。これは聖母マリアの少女期のエピソードで、新約聖書の外典文書のひとつ「ヤコブ原福音書」には、マリアが3歳でエルサレムの神殿にのぼった後、「主の神殿で鳩のように保護されて、天使の手

から食物を受け取っていた」（『聖書外典偽典6』教文館、p.97）と記されている。さらに、「ヤコブ原福音書」に基づいて8世紀にラテン語で記された「擬マタイ伝」として知られる外典文書には、マリアは「神殿の処女」として日々を祈りと手仕事に捧げて暮らし、毎日時間を決めて機織りに専念したと詳しく記されている。1372年にマリアの神殿奉獻が祝日になると、機を織るマリアの姿がしばしば中世美術に描かれるようになる。

59. ラテン語時禱書（北フランス、1470-80年頃） 羊皮紙零葉2葉

Book of Hours in Latin (1: 'O Intemerata', 2: Canticle of Zachary, Luke 1:68-70 in the Lauds of the Office of the Dead). Northern France; c. 1470-80. 142×104 mm. Parchment. 2 single leaves. Single column; written in rounded Gothic script. Three-quarter flower and foliage border containing (1) a winged demon with a pitchfork and (2) a collared hound.

[170X@68@2@1-2]



(59:1)



(59:2)

欄外を飾る世俗的モチーフ

(1)「おお、けがれなき者よ」と(2)「死者の聖務日課」の賛課の零葉で、三方の余白をうめる草花文様のなかに、それぞれ刺叉を手にした悪魔(墮天使)と首輪をした猟犬が描かれている。こうした装飾モチーフは、挿絵画家の独創ではなく、多くの場合工房の見本帳に見いだされる図案に基づいたもので、典礼写本や時禱書の欄外装飾として繰り返し登場する(展示書58番参照)。中央のラテン語祈祷文とは一見無関

係なこうしたモチーフは、敬虔な祈祷の世界に、世俗的でときに冒瀆的なイメージで横槍を入れるようにうつる。しかしその一方で、こうした矛盾と多様性は、卑俗なもの存在によって逆に聖なるものを際立たせる、神の深遠な計画に他ならず、そうした中世的世界観がこのページ上の空間に展開されていると考えることも可能なのである。

60. ラテン語時禱書（フランダース地方、15世紀中期） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (probably the opening of the Office of the Dead). Flanders, mid-15th c. 148×105 mm. Parchment. Single leaf. Full-page miniature of the Last Judgement with the Resurrection of the Dead by a follower of the Master of Guillebert de Mets. The originally blank recto with an added 16th-century inscription in French. From Otto F. Ege collection.

[170X@61@10@2]



「最後の審判」の細密画

「死者の聖務日課」は、死後に煉獄に送られた魂の苦しみを軽減し、そこからの解放を早めるための執り成しの祈りで、日常的に唱えることで、祈祷者を突然死（およびその結果としての魂の地獄墮ち）から守るとされた。最後の審判に先だって死者が復活する場面を描いたこの細密画はおそらく工房で製作されたものだが、15世紀にジャン無怖公に仕えてフランダースで活躍した挿絵画家ギユベール・ド・メス（Guillebert de Mets; 1390/91-c. 1436）の様式を踏襲している。フランダースの工房では、細密画のページは独立した零葉として描かれ、後で写本の該当箇所へ挿入されて製本されることが一般的であった（Arnould and Massing, p.113）。裏が白紙なのはそういう理由である。

この零葉は、アメリカ人の蒐集家オットー・

エギー（Otto F. Ege, 1888-1951）の旧蔵品である。エギーは、それぞれ20～30点の中世写本の零葉で構成された「ポートフォリオ」と称した零葉集を、1936年から没年の1951年までに4度販売した。各ポートフォリオは40から200セット制作されたが、完本に近い写本の装丁を壊して零葉にばらすことで、それだけのセット数を確保したのである。それゆえにエギーは書物破壊者（biblioclast）として悪名高い。

展示書はポートフォリオを構成していた零葉ではないが、エギーが蒐集した零葉10点からなるコレクションのなかの1点である。コレクションは、1点を除いて、全て13～15世紀にイタリア、ネーデルランド、フランスで制作された時禱書の零葉で構成されている（展示書61, 88, 94番参照）。

61. ラテン語時禱書（イタリア北西部、おそらくフェラーラ、1480年頃） 羊皮紙零葉
 Book of Hours in Latin (the opening of the Office of the Dead). North-east Italy, perhaps Ferrara, c. 1480. 109×79 mm. Parchment. Single leaf. 4 lines, with the historiated initial 'R' depicting Death Personified as a corpse in a tomb; the recto blank. From Otto F. Ege collection.

[170X@61@10@4]

62. ラテン語時禱書（北フランス（パリ？）、1460年頃） 羊皮紙零葉
 Book of Hours in Latin (The Matins for the Office of the Dead). Northern France (Paris?), c. 1460. 130×98 (80×53) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 14 lines; written in Gothic bookhand; ruled and bounded in red. Illustration: Death with a spear menacing a lady wearing a conical hennin.

[140X@57@1]



(61: verso)



(62: recto)

「死者の聖務日課」を飾る死の擬人像

「死者の聖務日課」の冒頭には死と関連する図像が挿入されることが一般的で、それは埋葬、追悼のミサ、最後の審判、ラザロの復活、ディーヴェス（金持ち）と貧者、三人の死者と三人の生者、地獄、悔悛のヨブなどさまざまだが、死の擬人像もそのひとつである。

(61)「死者の聖務日課」朝課の冒頭で唱えられる『詩篇』94篇の招詞（‘Regem, cui omnia vivunt...’）冒頭の世界イニシャル‘R’のなかに、墓から起き上がる「死」の姿が描かれている。

オットー・エギー旧蔵。

(62) 15、16世紀に流行した「死と乙女」の図像である。槍を手にした「死」が、若さと美貌を謳歌している高貴な乙女に襲いかかっている、死は生の最中に突然に襲ってくるというメッセージを表している。乙女は、15世紀後半にフランスやブルゴーニュで流行した円錐形のエンアンを身につけている。展示書26番と同じ写本からの零葉。

63. ラテン語時禱書（ロンドン？、1425 年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (The Vespers for the Office of the Dead). London (?), c. 1425. 205×146 (119×82) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 23 lines; written in Gothic script; ruled and bounded in red; 7-line illuminated initial 'D' with full border in gold and colours.

[170X@9@29]



(63: recto)



(63: verso)

イングランド固有の装飾様式

「死者の聖務日課」の晩課。表面を飾っている彩飾イニシャル 'D' と欄外装飾は、釣鐘型の花と巻き上がった葉が特徴的な草花文様で、これ

はイングランド固有の様式とされる。一方で裏面はアカンサス葉の装飾で、こちらは15世紀のフランス、フランダースの典型的装飾である。

64. ラテン語時禱書（パリ、1470年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (St Denis and the Archangel Michael from the Suffrages). Paris, c. 1470. 140 × 92 (76 × 48) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 16 lines; written in lettre bâtarde script; ruled and bounded in red. Historiated initial 'D' with St Denis holding his severed head (recto) and 'O' with the Archangel Michael slaying a demon.

[140X@61@1]

65. ラテン語時禱書（北フランス、1500年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (St Margaret and St Barbara from the Suffrages). Northern France, c. 1500. 170 × 110 (100 × 62) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 18 lines; written in Gothic script (brown ink); ruled in red. Illustration: St Barbara with a prayerbook and a palm branch in front of the tower (recto); St Margaret with the cross and the dragon.

[170X@9@25]



(64: verso)



(65: recto)

「執り成しの祈り」の聖人像

時禱書の後半に位置する「執り成しの祈り」の零葉。「執り成しの祈り」では、天上のヒエラルキーに従って、神、三位一体、聖母マリア、大天使ミカエル、洗礼者ヨハネ、使徒、聖人、聖女の順に、全体で十数編の祈祷文が続き、各祈祷文の冒頭には対象となる聖人の細密画や物語イニシャルが描かれることが多い。

(64) 自分の首を抱えた聖ドニ（ディオニュシウス）（表）と大天使ミカエル（裏）を描いた物語イニシャルが描かれている。パリの守護聖人聖ドニは斬首されたが、首を抱えて説教しながら数キロ歩いたとされ、死んだ場所には礼拝堂が建てられ今日のサン・ドニ大聖堂となったと

される。

(65) 表面には、ニコメディアの聖女バルバラが、幽閉された塔の前で祈祷書と殉教を表す棕櫚の枝を手にして描かれている。裏面には、アンティオキアの聖女マルガレタが十字架を手にしてドラゴンとともに描かれているが、この図像の背景には、マルガレタを飲み込んだ竜が、十字架が喉につかえて彼女を無傷で吐き出した（あるいは、マルガレタが十字を切ると竜の腹が割けた）という伝説が存在している。二人の聖女はいずれもキリスト教迫害期の童貞殉教者で、アレクサンドリアの聖女カタリナが加わって、「聖三童貞」と呼ばれることがある。

VI. 学問と写本 (Learning and manuscripts)

66. アウグスティヌス『主と使徒の言葉』(イングランド、12世紀) 写本断片 Ff. 32.

Augustine. *Sermones de verbis domini et apostoli*. England, 12th c. 385×270 (280×186) mm. Parchment. Fragment of 32 leaves. Double column; 38 lines to a column; written in brown ink in late Romanesque hand (fols 1–30); and in early Gothic hand (fols 31–32). 7 large (3–line) illuminated initials with elaborate marginal extensions. Many leaves missing especially at the beginning. Contents: Augustine. *Sermones de verbis domini et apostoli* (fols 1–30), (Anon.) *De confessione qualis debet esse, qualiter et quot modis fit* (fols. 31–32). Sewn on 4 double cords and bound in the original binding of thick wooden boards, upper cover loose. Cf. Matsuda (2001), pp.30–39; Baba and McLynn.

[142X@43@1]



(66: fols 3v–4)



(66: fols 17v-18)

中世の装丁のオウグスティヌス説教集

後期のロマネスク体で書かれたオウグスティヌスの説教集の写本。既に多数の紙葉が、おそらく別用途に再利用するために切り取られていて、現在では後半に属する32葉しか残っておらず、表表紙が外れて装丁がむき出しになっている。『主と使徒の言葉』は7世紀後半に北イタリアで編纂されたオウグスティヌスの説教集で、マニ教やペラギウス派を反駁した説教を初めとして98篇の説教からなる。120点ほどの写本で現存している。

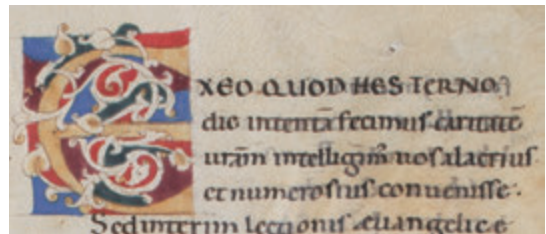
装丁は中世のもので、ヨークシャーのファウンテンズのシトー会修道院で制作された写本に類例が見られる。句読法もシトー会の写本の典型で、この大型の写本が公衆への朗読に使用されたことを示している。各説教の冒頭は赤、青、緑、茶色のアカンサス葉様式の3～4行分の高

さの彩飾イニシャルで始まるが、彩飾に金が用いられていない点は質素を旨としたシトー会の特徴と考えられる。また、折丁の順番を示すために補語 (catchword) ではなく折丁記号を用いている点も修道院制作の写本の特徴である。

巻末の2葉 (fols 31-32) には「告白について—それはいかなるものであるべきか、いかにしてなされ、いかなる異なったやり方でなされるか」というタイトルの散文が、初期のゴシック体で書かれている。このテキストは、13世紀におそらくはシトー会士のソーリーのスティーズン (Stephen of Sawley) によって記された『修練士の鏡』*Speculum Novitii* として知られる作品の一部で、後世に付け足されたものである (Baba and McLynn 参照)。

67. アウグスティヌス『ヨハネによる福音書講解説教』（イタリア、13世紀中期）羊皮紙零葉
 Augustine. *In Iohannis Evangelium Tractatus CXXIV*. (Hom. 11.15–12.5). Italy, mid-13th c. 430×309 (310×207) mm. Parchment. Single leaf. Double column; 44 lines to a column; written in black ink in Caroline script; ruled and bounded in blind; 5-line decorated initial 'E' with vine decoration. Cf. Boffey and Edwards, p.31.

[170X@9@18/109]



(67: 部分拡大)

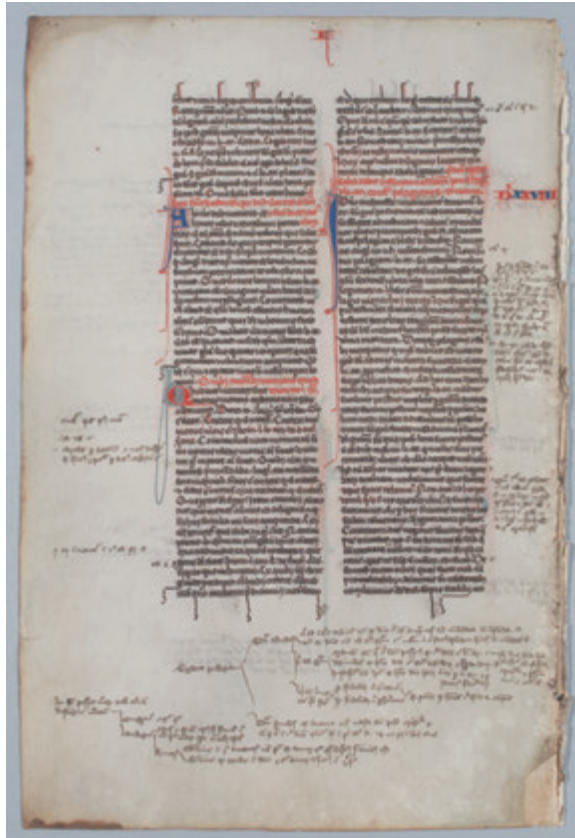
美しい彩飾イニシャル

カロリング朝体で書かれた、アウグスティヌスの『ヨハネによる福音書講解説教』の零葉。ページ上部の「アウグスティヌスの説教 ([h] omilia) 11番」と記された欄外標題にはアンシャル体が用いられている。5行分の高さの白の蔦文様の彩飾イニシャル 'E' が印象的である。こ

の写本も展示書 12 番や 40 番と同様に、近年まである程度の枚数の紙葉がまとまって存在していたが、古書店によって一枚ずつ売りに出されて、現在ではアリゾナ州の Norlin Library を初めてとして複数の図書館に分散して収蔵されている。

68. ペトルス・ロンバルドゥス『命題集四卷』第2巻（イングランド、13世紀後期）羊皮紙零葉
Petrus Lombardus, *Quatuor Libri Sententiarum*, Book II. England, late 13th c. 327×222 (200×125)
mm. Parchment. Single leaf. Double column; 50 lines to a column. written in Gothic hand; ruled
blind.

[170X@9@4]



中世の大学生の教科書

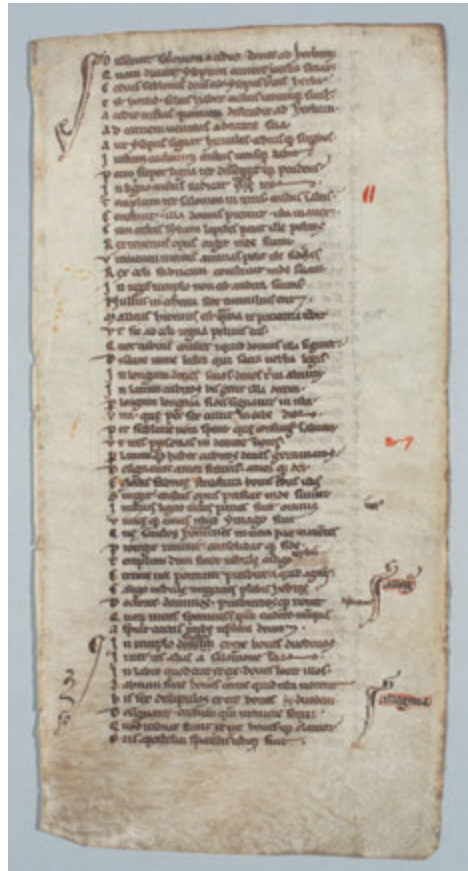
ペトルス・ロンバルドゥス（1096-c. 1164）はパリのノートル・ダム大聖堂付属学校の教授として教鞭を執り、1159年にはパリ司教に選出された。ロンバルドゥスが著したパウロの書簡や『詩篇』への註解は、中世の終わりまで聖書への代表的な註解書として利用されたが、それらにも増して多大な影響力があった著作が『命題集四卷』（1150年頃）で、中世の大学でもっとも広く利用された神学の教科書として、写本も数多く現存している。その内容は聖書や教父たち

の著作からの抜粋を系統的にまとめた神学の大全で、各巻はさらに細かく章に分類されている。余白を広くとったこの零葉は、中世の大学の教科書の典型的なレイアウトで、使用した学生によると思われる書き込みが欄外に多数認められ興味深い。下部の余白では、テキスト本文と関連して、ペラギウス派の誤謬について簡条書き風にまとめられている。慶應義塾図書館には他にも2点の『命題集四卷』の零葉が収蔵されている（170X@9@18/36; 170X@9@18/41）。

69. ペトルス・リガ『アウロラ』(イングランド、13世紀初期) 羊皮紙零葉

Petrus Riga, *Aurora* (3 Kings 117–216). England, early 13th c. 238×118 (195×70) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 50 lines.

[170X@9@35]



縦長の「ホルスター・ブック」

ペトルス・リガ(c. 1140–1209)はフランスのランスに生まれ、パリで大学生活を送り聖職者となった。代表作の『アウロラ』は、韻文で聖書をパラフレーズし、同時にセビリャのイシドルス『聖書の寓意』やペトルス・コメストル『スコラ神学の歴史』などを活用して本文に寓意的、教訓的註解を付した作品である。一般信徒の貴族にも教育目的で読まれた中世のもっともポピュラーな註解つき聖書物語で、250点以上の写本で現存している。この零葉は『列王記上』の117~216行で、ソロモンの神殿の解釈に関する内容である。欄外に2箇所、赤で寓意(allego-

ria)と指示されている。

この零葉の縦長の形状は紙葉の短辺を二つ折りにしたもので、この形状の写本は通常「ホルスター・ブック」(holster book)と呼ばれる。馬の鞍につけた物入れに収納しやすい形態で、また開いた本を片手で支えるのに便利であることから、托鉢修道士が説教をしたり、吟遊詩人が朗唱をするのに配慮した形状と見なされたことがあった。しかし、この形状の写本は簿記や備忘録をはじめとしてさまざまなジャンルで存在しているので、特定の用途や職業集団を前提としたものではないと思われる。

70. グラティアヌス『教令集』（イタリア、1200年頃） 羊皮紙 連続する2葉。

Gratinus. *Decretum* (Pars 2, causa 11, quaestio 1, cap. 41–causa 2, quaestio 3, cap. 20). Italy, c. 1200 (gloss, mid–14th c.). 383×260 (370×206) mm. Parchment. 2 leaves, conjoint and consecutive. Double column, framed with gloss; written in protogothic (black ink; Gratianus) and Gothic semicursive (brown ink; gloss) scripts.

[170X@9@18/120]



『教令集』の典型的なページ・レイアウト

『グラティアヌス教令集』は、12世紀に、ボローニャ出身の法学者グラティアヌスが教科書として編纂した教会法の法令集で、1918年までローマ・カトリック教会の教会法学者によって使用され続けた。正式な書名は『矛盾教会法令調和集』（*Concordia canonum discordantium*）であるが、一般に『グラティアヌス教令集』と呼ばれている。

プロトゴシック体で書かれた教令本文は見出しが赤で記され、段落の冒頭では赤と青の2行

分の高さのイニシャルが交互に用いられている。註釈は14世紀中期に書き加えられたもので、ゴシック・セミカーシヴ体で書かれている。

教令本文を四方から註釈が取り囲むページ・レイアウトは、多くの『グラティアヌス教令集』の写本に共通するもので、慶應義塾図書館が所蔵する15世紀のインクユナブラ版（バーゼル：ミヒャエル・ヴェンスラー、1481年）にも受け継がれている（請求記号 1102@289; Cf. F22）。

71. アエギディウス・ロマヌス『王制論』他（イングランド、15世紀第2四半期）羊皮紙 Ff. 203
Aegidius Romanus, *De Regimine Principum*, with *Secreta Secretorum*. England, 2nd quarter of the 15th c. 265×185 (170×120) mm. Parchment. Ff. 203. Double column; 37 lines to a column; written by several English hands. Contents: *De Regimine Principum* with a tabula by John Drayton (fols 1–177), *Secreta Secretorum* (fols 177v–199v), pseudo-Aristotle *De Pomo* (fols 199v–202). Bound in the 19th-c. russia leather over the original wooden boards. Cf. Matsuda (2001), pp.72–77.

[120X@432@1]



(71: fols 8v–9)

中世のポピュラーな君主論

著者のアエギディウス・ロマヌス（1242/47–1316）はアウグスティヌス律修参事会員で、イタリアでの活動を経て、パリ大学の神学教授、アウグスティヌス律修参事会総長、ブルジュ大司教などを歴任した。中世には、君主の教育のために、統治者としての心構え、平時と戦時における国家統治、さらに四枢要徳などの倫理を説く君主論のジャンルが存在した。そのなかでももっとも広く読まれたのが、フランスのフィリップ王子（後のフィリップ4世）の求めに応じてアエギディウス・ロマヌスが著した『王制論（君主の統治について）』（1280年頃）である。ラテン語版は350点以上の写本で現存し、1491年にはインクナブラ版も印行された。本写本には主題別索引が見いだされるが、これは15世紀前半にJohn Draytonというアウグスティヌス律修参事会員によって編纂されたことが奥書から知れる。

この写本には他にも2点の作品が含まれてい

る。そのひとつの『秘中の秘』（*Secreta Secretorum*）はもともと10世紀にアラビア語で著された百科事典的作品で、そのラテン語訳は、しばしば誤ってアリストテレス作とされて、中世を通じて多くの写本で流通していた。その内容は道徳から占星術、錬金術、医术まで幅広い。2点目は『林檎、あるいはアリストテレスの死について』（*De Pomo*）として知られる、死の床のアリストテレスと弟子たちとの対話編で、中世に書かれた偽作である。これら3つの散文作品はそれぞれ独立しているが、国家もひとつの身体であるのとらえるならば、広く心身の健康を主題とするという共通点が認められる。巻末の白紙には、1485年にイングランドで流行し多くの死者を出した粟粒熱に対する祈祷文が後世の筆跡で書き加えられている。この追加もこの写本の性質を反映したものと考えられる。

本写本は慶應義塾図書館に収蔵された最初の西洋中世写本で、1976年に購入された。

72. ボエティウス『哲学の慰め』（イタリア、14世紀後半） 羊皮紙 ビフォリウム

Boethius, *De Consolatione Philosophiae* (IV prose 6–IV poem 6.36, V prose 1–V prose 3). Italy, 2nd half of the 14th c. 228×329 mm. Parchment. Bifolium, not consecutive. Single column; 34 lines; written in Gothic rotunda script (brown ink).

[170X@9@18/55]



中世のベストセラー、『哲学の慰め』の零葉

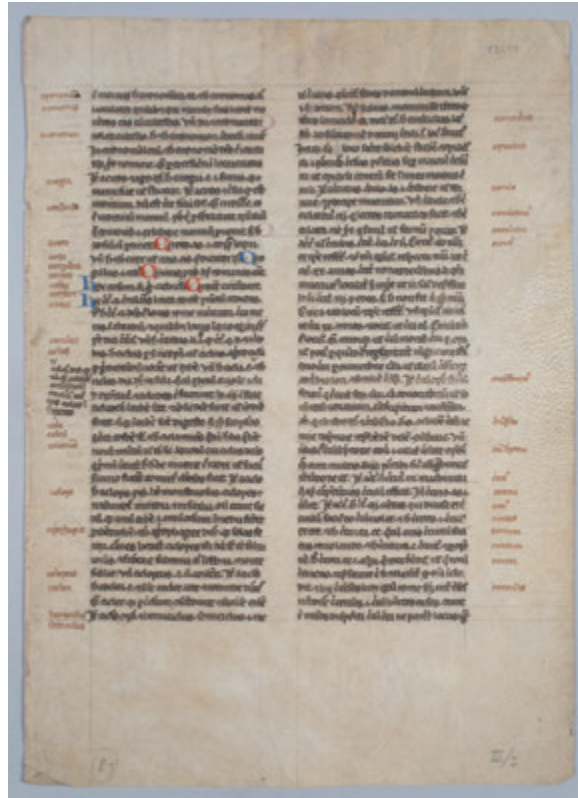
哲学者で元老院議員でもあったボエティウス（480–525）が逆反事件に巻き込まれて投獄され、獄中で著した『哲学の慰め』は、中世を通じて広く人気を保ち続けたラテン語作品のひとつであった。この零葉は、第4巻の散文6～韻

文6、第5巻の散文1～散文3に当たる。『哲学の慰め』は多くの俗語にも訳されており、英語圏ではアルフレッド大王による古英語訳、さらにはチャーサーの中英語訳がある。

73. ヨハネス・バルブス『カトリコン』（イタリア、1300年頃） 羊皮紙零葉

Johannes Balbus. *Catholicon* ('ciromanta' to 'colorus'). Italy, c. 1300. 310×222 (220×157) mm. Parchment. Single leaf. Double column; written in Gothic textura script (black and brown (entries) ink); ruled and bounded in black.

[170X@9@18/47]



グーテンベルクも印行したラテン語事典

ジェノヴァ出身のドメニコ会士ヨハネス・バルブスが1286年に完成させたとされる『カトリコンと称される文法大全』は、ラテン語の辞書で文法解説書だが、その広範な語義ゆえに、自由学芸に関する百科事典的な書物と言ってもよく、中世後期には広く利用された。この零葉は‘ciromanta’から‘colorus’の部分で、見出し語は

欄外に朱書きされている。その継続的な人気ゆえに、1460年という活版印刷術の最初期にはすでに印刷され、それにはグーテンベルクも関わっている。慶應義塾図書館にはこのインキュナブラ版の『カトリコン』の零葉も収蔵されている（170X@32@1; Cf. G4）。

74. 「1256-57年のシトー会規則集」(フランス、1260-1288年頃) 羊皮紙 Ff. 76.

'Cistercian Statutes of 1256-1257'. France, c. 1260-1288. 180×135 (137×94) mm. Parchment. Ff. 76. Single column; mostly 27 lines; written in Gothic bookhand (fols 1v-46v) and a variety of book and secretary hands (fols 46v-76v). Collation: a-f⁸g⁴h^{10,8}i⁶k¹l⁸ (lacks g¹, l^{1-3, 5-8}). Bound in a contemporary wallet binding of rough tawed skin.

[120X@746@1]



(fols 8v-9)

中世の装丁のままの「シトー会規則集」

1098年にシトー(フランス)に創設された修道院を発祥とするシトー会は、「新しい修道院」として修道生活の基盤となる厳格さと清貧に立ち返ろうとした。そのために、中世の修道会則の基盤となったベネディクト会則を遵守し、それをより徹底して実践するために総会で会則を定めて全ての修道院に通達した。この写本には、1256-57年に交付されたシトー会の規則(fols 1v-44v)とその後に追加された規則(fols 44-76v)が一冊にまとめられている。最初の規

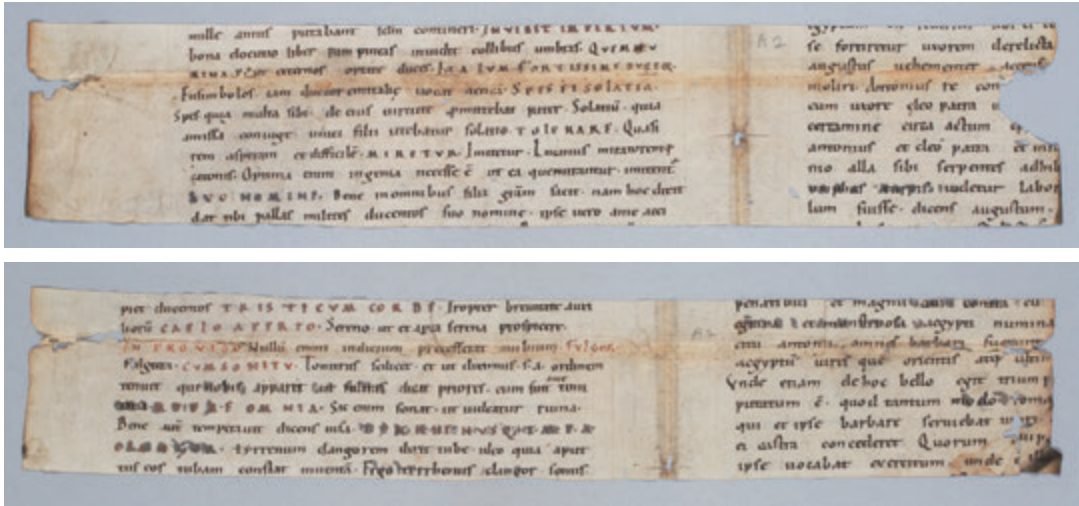
則集と1260年までの追加が同一の角張ったゴシック体で書かれており、一方で1261年以降は複数の異なる書体で書かれていることから、写本の主要部分は1260年に書かれたと推察される。

各折丁の最終ページには同時代の筆蹟で折丁記号が記されている。また、装丁は写本制作当時のもので、なめし革を用いて全体を包み込んでいる。中世の装丁を後世に伝える貴重な一冊である。

75. マウルス・セルウィウス・ホノラトゥス『ウェルギリウスのアエネーイス註解』（ドイツ、11世紀後半） 羊皮紙 ビフォリウム断片 2葉

Maurus Servius Honoratus, *In Vergilii Aeneidem Commentarii*. Germany, late 11th c. (a) 301×60 mm, (b) 302×54 mm. Parchment. 2 bifolium fragments. Single column; (a) 10 lines, (b) 9 lines; written in Caroline minuscule (black ink), with lemmata in red rustic capitals.

[170X@9@18/4]



(75a: 上 / 75b: 下)

希少な『アエネーイス』註解の写本断片

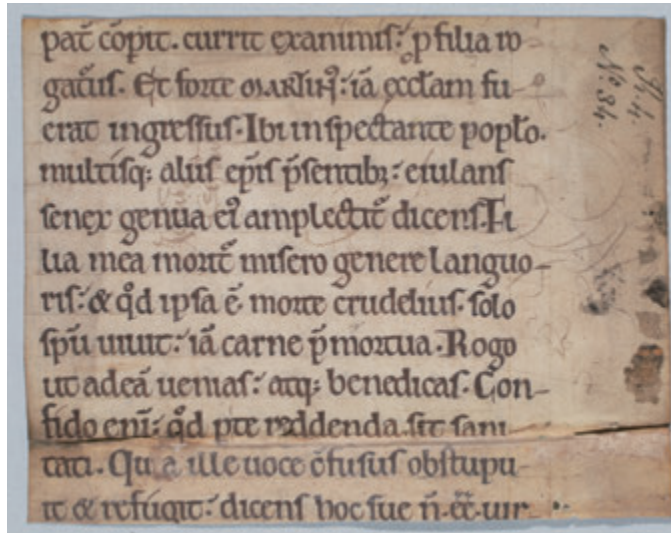
セルウィウスによる『アエネーイス』註解の写本断片で、1492年に刊行されたインキュナブラの装丁に補強材として使われていた。断片(a)には第8巻477-64行 (recto) と508-25行 (verso)、断片(b)には第8巻678行 (recto) と682-88行 (verso) への註解がそれぞれ記されている。

マウルス・セルウィウス・ホノラトゥスは4世紀後半から5世紀初頭に活躍した文法学者で、この作品はローマ帝国崩壊以前に書かれた唯一の『アエネーイス』註解として貴重である。

1600年にPierre Danielによって刊行されたが、中世の写本は極めて希少で、この様な小さな断片でも資料的価値は高い。見出し語は大文字のラスティック・キャピタル体で、一部は赤で書かれている。一方で解説はカロリング・ミニュスキュル (小文字) 体で書かれている。この断片は、9世紀後半にライヒナウで制作された写本 (現在はカールスルーエ、Badische Landesbibliothek 収蔵) から派生したもので、同じ系統に属する写本は他に3点しか現存していない。

76. スルピキウス・セヴェルス「聖マルティヌス伝」(イングランド、12世紀中期) 羊皮紙零葉
Sulpicius Severus. *Vita S. Martini* (parts of chaps 13, 16). England, mid-12th c. 90×117 mm. Parchment. Fragment (of a double-column leaf measuring c. 300×200 mm). Written in English protogothic script; ruled and bounded in black. Cf. Matsuda (2001), p.26-29.

[170X@9@2, Pl.3]



丁寧なプロトゴシック体の写本断片

トゥールの聖マルティヌス(316/336-397)はハンガリーのパンノニア出身のローマ軍兵士だったが、兵役を退いて修道士となり、後年はトゥールの司教となった。凍えている物乞いに自分が纏っていたマントを半分に引き裂いて与えたエピソードで知られている。伝記を著したスルピキウス・セヴェルス(c. 363-c. 425)はフランスのアキテーヌの出身で、マルティヌスと面識があり、その影響を受けて慈善と信仰の日々を送ったとされる。セヴェルスの「聖マルティヌス伝」は180点近くの写本が現存してい

ることから、中世においても人気があったことが推察される。

この写本はイングランドのプロトゴシック体で書かれた断片で、13章(表)と16章(裏)のそれぞれ一部が書かれている。Scahill(Matsuda, 2001, p.27)によると、断片の表が13章なのに対して裏は16章と、かなりの隔りがあることから、もともとの紙葉のサイズは大きめ(約300×250 mm)で、左右2欄で書かれていたことが推察される。

77. ペルシウス『風刺詩』(ドイツ、13世紀初期) 羊皮紙断片2葉

Aulus Persius Flaccus. *Saturae* (Prol. 1–12, I, 11–24). Germany, early 13th c. (a): 96×136 mm, (b): 96×137 mm. Parchment. 2 fragments. Single column; 12 lines with interlinear gloss; written in Gothic textura script (black ink; gloss brown ink); 3–line decorated initial 'N' with dot ornament.

[170X@9@18/27, 28]



(77:27)



(77:28)

点で装飾された大型イニシャル

アウルス・ペルシウス・フラックス (34–62) はエトルリアのヴォルテッラ出身の哲学者で、28歳で夭折した。『風刺詩』はペルシウスの唯一の作品で、長短短(ダクテュロス)の6歩格で書かれている。その文体は難解で知られ、ペルシウスしか用いていない単語も数多い。しかし、中世には、アウグスティヌスやヒエロニムスのような教父たちを皮切りに、12世紀にはソールズベリーのジョンなどにも読まれ、現存する写本も数十点を数える(ペルシウス/ユウエ

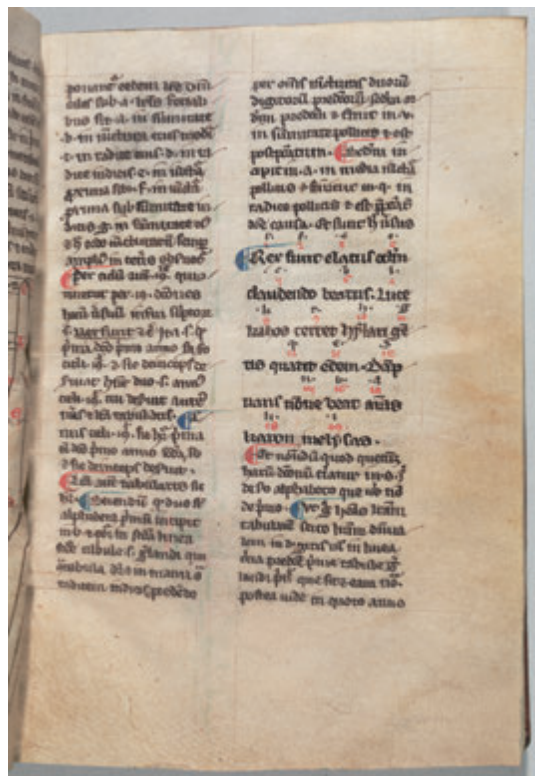
ナーリス『ローマ諷刺詩集』国原吉之助訳(岩波文庫, 2012), pp.396–402 参照)。この断片は、全部で6歌からなるこの作品の序歌および第6歌の一部分で、行間と欄外に註釈が記されている。

各詩行の最後の文字が大文字で、少し離して書かれているが、これは12世紀の詩の写本に一般的に見られる様式である。点で装飾したイニシャルは、中世初期のケルト様式の彩飾イニシャルを彷彿とさせる。

78. ヨハネス・デ・サクロボスコ『アルゴリズム』、『天球論』、『暦法』他（イングランド、13世紀後期）羊皮紙 Ff. 186

Johannes de Sacrobosco. *Algorismus, De sphaera, Computus, Quadrans vetus*, Robertus Anglicus's commentary on *De Sphaera*, etc. England, late 13th c. (commentary by Robertus Anglicus, late 14th c.). 185×133 mm. Parchment. Ff. 186. Double (129×90 mm) and single (110×71 mm) column; 19/20 lines to a column (a commentary by Robertus Anglicus in 34–37 lines). 4 treatises in black ink in late 13th–c. Gothic bookhand in 2 sizes; Robertus Anglicus's commentary in a late 14th–c. cursive hand (brown ink). Many pen-and-ink coloured drawings. Contents: Calendar, a set of solar tables, explanation of the tables of Gerlandus, and astrological tables, *Algorismus* or *Tractatus de arte numerandi*, *De sphaera*, *Computus lunaris*, *Quadrans vetus* (anonymous), Robertus Anglicus's commentary on *De Sphaera* (c. 1271). Bound in the 18th–c. polished sheep.

[170X@13@1]



(fols 11v–12)

中世のポピュラーな科学書

13世紀の科学者ヨハネス・デ・サクロボスコ（c. 1195–c. 1256）の代表作および関連する著作を一冊に収めたアンソロジー的な写本。暦、蝕、天体などの説明に多くの図表が用いられ、余白への書き込みも数多い。サクロボスコの著作としては、中世でもっとも読まれた算法論『アルゴリズム（算法について）』、天動説を解

説し、中世後期を通じて大学の教科書として使用された『天球論』、アラビア数字を用い、ユリウス暦の欠陥を指摘した『暦法』の3点が含まれている。加えて、暦、作者不詳の幾何学の提要（*Quadrans vetus*）、14世紀末に巻末に書き足されたロベルトゥス・アングリクスによる『天球論』註解（1271年頃）を含む。

79. 占星学、天文学等に関する写本断片（イングランド、13世紀中期） 羊皮紙4葉

Latin anthology of astronomical, astrological and other scientific texts. England, mid-13th c. 207×137 (173×100) mm. Parchment. 4 leaves (not consecutive). Single column; 34 lines; early English Gothic bookhand (dark brown and red ink); ruled in blind. 2 circular diagrams and 2 tables.

[170X@22@4@1~4]



丁寧な図表が入った科学写本の零葉

この4点の零葉は、ヨーロッパ中世の大学のカリキュラムを構成する自由学芸7科のうちの4学科（幾何、天文、音楽、算術）の概論とも呼ぶべき、丁寧に制作された科学写本の一部

である。風の十二方位と4元素や4体液との対応を示す図、四季とその身体への影響を示した図、太陽や月の周期に関する表で構成されている。

VII. 俗語写本 (Vernacular manuscripts)

80. 「ホプトン・ホール写本 (中英語宗教文学アンソロジー)」(ノーフォーク、15世紀前半) 羊皮紙 Ff. 43.

Religious Miscellany in Middle English ('Hopton Hall' MS). Norfolk, 1st half of the 15th c. 193×131 mm. Parchment. Ff. 43. Single column; 35–40 lines; written in small English anglicana formata script (brown ink); rubrics in red. 4–line initial in red and blue; 2–line blue initial on red background used throughout. Collation: 1¹², 2–3⁸ 4(lacking), 5¹, 6⁶. Contents: 'A form of confession on each of the seven deadly sins' (prose; fols 1–3v), John Gaytryge's *Lay Folks' Catechism* (verse; fols 3v–9v.), 'On the keeping of the law of God and a form of confession' (unpubl. prose; fols 9v–13r.), 'A Dialogue between Christ and Man' (verse, fols 13–13v.), 'Points best pleasing to God' (prose; fols. 13v–14), 'On divine mercy and against despair' (unpubl. prose, fols 14–19), *The Charter of the Abbey of the Holy Ghost* (prose, fols 19–28), Walter Hilton, *An Epistle on Mixed Life* (prose fragment; fols 28–28v.), 'An exposition on the Ten Commandments' (unpubl. prose, fols 29–37), 'A manual on prayer and fasting' (unpubl. prose, fols 37–43v.). Bound in old limp vellum wrappers which contains inside an English legal document dated 9 December 1659. Cf. Matsuda (2001), pp.56–65; Edwards (2005); Edwards (2008).

[120X@1156@2@1]



(80: fols 28v–29)

未刊行散文作品を含む貴重な中英語写本

「ホプトン・ホール写本」として知られるこの写本は、中英語で書かれた宗教散文および韻文のアンソロジーで、『平信徒のための教理問答』(*Lay Folk's Catechism*)、『精霊の修道院の憲章』(*The Charter of the Abbey of the Holy Ghost*)、ウォルター・ヒルトン作『実践と観想の生活』(*The Mixed Life*) (断片のみ)、「キリストと人間の論争詩」の他、未刊行の短い宗教散文数編で構成されている。全体を通じて、聖書や教父からの引用や抜粋が多く認められるが、教父に関する限り、大半がアウグスティヌス、ベルナルドゥス、グレゴリウス、ヒエロニムスに帰せられている。この4聖人は、中世後期の俗語の説教・教訓文学で典拠として引き合いに出されることが多いポピュラーな存在であり、正確な典拠と言うよりも権威付けのために名が挙げられていると考えられる。また、『精霊の修道院の憲

章』を除くと、ラテン語の章句が引用されていることは希である。このような特徴から、ホプトン・ホール写本は、一般信徒の読者層を想定して、彼らにキリスト教の基本的教理を教え、信仰実践のための手引きとして活用されるべく編纂されたと推察される。

この写本が「ホプトン・ホール写本」と称されるのは、1986年まで長らく、イングランドのダービー州南部に位置するホプトン・ホールに所蔵されていたからである。ホプトン・ホールはGell一族の住居で、その歴史は15世紀末まで遡れる。写本がいつからこの一族のもとにあったかは不明だが、写本制作後のかなり早い時期から所蔵されていたことも考えられる。慶應義塾図書館には1995年に収蔵されたが、このような全編が中英語の写本が市場に現れることは現在では極めて珍しい。

81. ウィクリフ派「旧約聖書」(イングランド、1400–1430年頃) 羊皮紙断片 35葉

Wycliffite Bible (Prol.–Deuteronomy) in Middle English. England, c. 1400–1430. 145×85 (100×60) mm. Parchment. Fragment of 35 damaged leaves. Single column; 31 lines; written by one scribe in small anglicana textura quadrata script. 6–line initial in red and blue. Collation: 1^s, 2^s, 3^s, 4^s (lacks 2), 5^s. The continuing part is now a part of Huntington Library MS HM 501. 5 separate gatherings contained in a folding case; each bifolium separately preserved in crepeline. Cf. Matsuda (2001), pp.46–49.

[170X@9@6]



「地下出版」されたウィクリフ派英訳聖書

この写本は、水を被ったためか損傷が著しいが、いわゆる「ウィクリフ派英訳聖書」の冒頭部分の断片である。聖書の翻訳に関する見解を含む旧約聖書への序文、『創世記』（興味深いことにノアの死で終わっている）、『申命記』の一部からなっている。ジョン・ウィクリフ(c. 1320–1384)は1370年頃から1381年までオックスフォードで神学を教え、1361年頃からラテン語で神学書を著したが、その内容が異端的とみなされて1380年代には検閲の対象となった。ウィクリフは死後の1415年に異端と断じられたが、彼の思想の影響を受けた人々(ウィクリフ派あるいはロラード派)は、ウィクリフの主張を反映したさまざまな作品を14世紀末から15世紀に主に英語で書き記している。なかでも最も広く伝播したのは英訳聖書と説教である。「ウィクリフ派英訳聖書」は英語による

初めての完訳聖書で、直訳に近い初期ヴァージョンとジョン・パーヴェイ(John Purvey)が中心となって改訂した後期ヴァージョンが存在する。本写本は、比較的多くの写本で現存している後期ヴァージョンである。トマス・アランデル大司教は、増大するウィクリフ派の脅威に対抗するため、英訳聖書や英語の宗教書を許可無く所有し読むことを禁じる教令を1409年に発布した。教令の実効については諸説あるが、検閲を逃れるためか、現存する「ウィクリフ派英訳聖書」の写本にはこの断片のような地味な小型本が多い。この断片の残りの部分は、カリフォルニアのハンティントン図書館が所蔵している(MS HM 501)。1925年にヘンリー・E・ハンティントンが購入したもので、HM 501は丁度慶應本の続きから始まっている。

82. バルトロマエウス・アングリクス『物性論』 ジョン・トレヴィザ英訳（イングランド、15世紀前半） 羊皮紙断片 2葉

Bartholomaeus Anglicus, *De Proprietatibus Rerum*, translated into Middle English prose by John Trevisa (Book V, chap. 1–2, Book XVIII, 62–65). England, 2nd quarter of the 15th c. (1) 250×275 (250×195) mm; (2) 330×290 (250×190) mm. Parchment. 2 fragments. Double column; 38–39 (of originally probably 46) lines to a column; ruled in light brown ink; written by a single scribe in anglicana formata script (brown ink). 3-line *champe* initials in gold, red and blue; alternating red and blue paragraph marks throughout the text. Cf. Takamiya (1988); Matsuda (2001), pp.66–71.

[170X@9@5/1~2]



(82:1)



(82:2)

中世の百科事典『物性論』の中英語訳

バルトロマエウス・アングリクス（1203以前–1272）はフランシスコ会士で、パリで活躍した。主著の『物性論（物事の性質について）』は、人間、自然界、地理、生物など、世界の諸相について纏めた百科事典的な著作である。英訳者のジョン・トレヴィザはコーンウォール出身で、オックスフォード大学で学んだ後、1370年代にグロスターシャーで聖職についたことがわかっている。『物性論』の英訳は1398年に完成された。本書以外にも、ラヌルフ・ヒグデン『ポリクロニコン（万国史）』、アエギディウス・ロマヌス『王制論』など、中世後期に広く読まれた散文作品を精力的にラテン語から英訳してい

る。

トレヴィザによる中英語訳は、断片や抜粋も含むと全部で11点の写本で現存している。慶應義塾図書館収蔵の断片は第5巻、1–2章と第18巻、62–65章の一部で、それぞれ人体の特徴（第2章は頭を扱う）とライオンなどの動物の性質を扱っている。

ラテン語原典は1472年に印行され、トレヴィザ訳もウィンケン・ド・ウォードが1495年に印行したのを皮切りに、16世紀にも2度印行されている。近代初期になっても人気を保ち続けた作品と言える。

83. 地券証書類（ウィンチェスター？、1462年） 羊皮紙零葉3葉

Cartulary in Latin and English. Winchester (?), 1462. (1) 590×250 mm, (2) 590×250 mm, (3) 650×250 mm. Parchment. 3 leaves. Single column; written in anglicana script. 2 9-line illuminated initials with floral borders and 9 2- or 3-line initials in gold with particoloured rose and blue filling, and paraph marks alternating (more or less) in gold and blue. Cf. Matsuda (2001), pp.84-89; Scahill (2010).

[170X@9@12/1~3]



(83:1r)



(83:2r)

彩飾イニシャルで権威付けされた地券証書

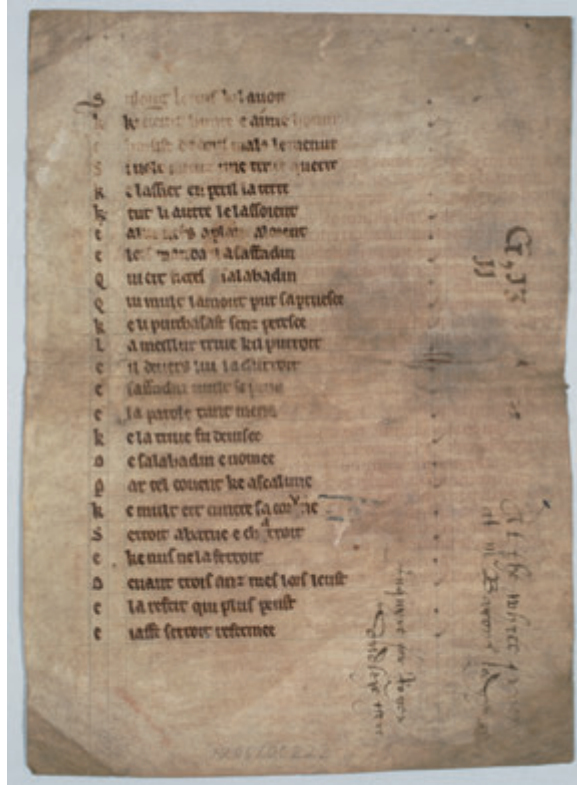
ハンプシャーの Appeshawe の土地とその地代をめぐる John Willames という人物がおこした反対請求にたいして、Raynold Andrewe という人物の権利要求を支持する文書類で、法廷での審問の記録、譲渡証書、証人の陳述などからなる。法廷審問はエドワード4世の治世の1年目(1461-62)におそらくウィンチェスターでなされ、この文書は論争が解決する前の1462年

に書かれたと思われる。ラテン語の文書だが、見出しや要約は英語でも記されている。証書としては、金箔を用いた彩飾イニシャルで贅沢に装飾されているが、これは証書に権威を与え、文書の信憑性を強調する仕掛けである。英語が法律文書に使用されるようになってからまだ間もない時期の写本であるため、英語史の資料としても有益である (Scahill 2010 参照)。

84. アンブロワーズ『聖戦記』（イングランド、13世紀後半）羊皮紙零葉

Ambroise. *L'Estoire de la guerre sainte* (ll. 11758–11805). England, late 13th c. 198×140 (143×60) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 42 lines; written in Gothic bookhand (brown ink); ruled in blind.

[170X@9@11]



希少な中世フランス語の韻文写本

中世フランス語の韻文作品の貴重な零葉。各行の最初の文字が離れて書かれているが、これはフランス語の韻文の写本には一般的にみられる慣習である。作者はイングランド王リチャード1世（獅子心王、1157–99）の宮廷に仕えた詩人（ジョングルール）で、王の第3次十字軍遠征を、メッシーナ、キプロス、アッカーの占領（1191年）などについて忠実、詳細に記録している。詩は脚韻を踏んだ1行8音節で、全体で12000行ほどの長さだが、この零葉はその最後

の部分である。

写本はヴァチカン図書館に1部現存するのみなので、この写本は、零葉だがそれ以外の唯一の写本として極めて貴重である。近代の印刷本の装丁の補強材として再利用されていたもので、欄外余白に‘At the white fryers at mr Bacons lodgyng’ ‘Inquyre for Roger dudleye there’ という17世紀の筆跡による英語の書き込みがあることから、イングランドで所蔵されていたと推察される。

85. ボードリ・ド・ブルグイユ『エルサレム史』のフランス語訳（フランス、14世紀前半）羊皮紙
零葉

French poem based on Baudri de Bourgueil, *Historia Hierosolymitana*. France, 1st half of the 14th c.
293×211 mm. Parchment. Single leaf. Double column; 46 lines to a column; written in Gothic script.
[141X@137@1]



『エルサレム史』仏語訳の貴重な写本

ボードリ・ド・ブルグイユ（1046-1130）はベネディクト会修道士で、ブルグイユ（フランス中央部）のサン・ピエール修道院の修道院長やブルターニュのドルの司教を歴任した。ノルマンディー公ウィリアムがイングランドの王位を継承した「ノルマン征服」（1066年）後の1世紀は、イングランドは北フランスの修道院と密接な関係を保っており、ボードリは、この時期にイングランドで活躍したフランス人のラテン語作家のひとりに数えられる。225編の詩や聖人伝を残しており、さらに第1次十字軍（1096-99年）に加わったあるノルマン人の実録、『フランク人と他のエルサレム巡礼者の事績』に触発されて、1095年のクレルモン公会議から1099

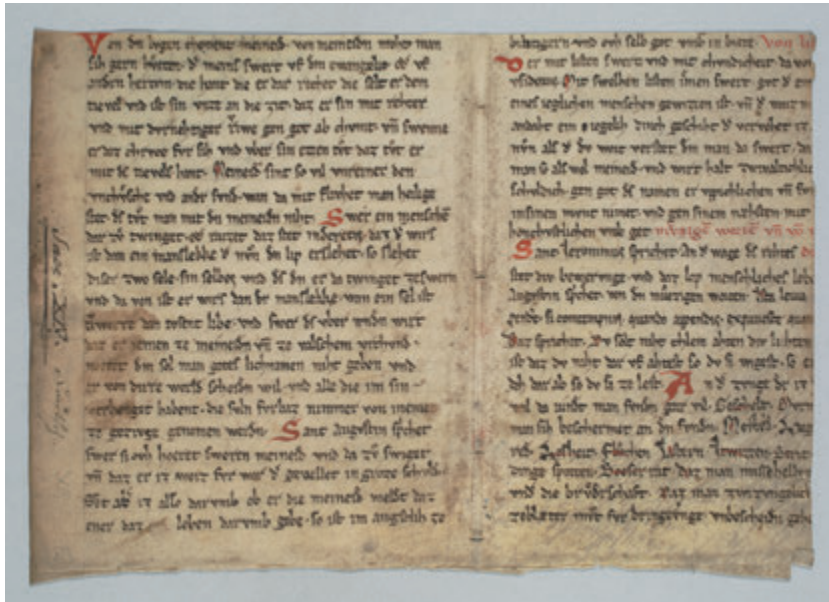
年のアスカロンの戦いまでの出来事を綴った聖地遠征記『エルサレム史』（*Historia Hierosolymitana*）を1108年にラテン語で著した。

『エルサレム史』は12世紀の終わりにフランス語の韻文訳が制作された。この零葉は14世紀前半に筆写されたもので、全体で19,000行ほどの長さがある作品のうち僅か90行のみだが、この作品のほぼ完全な写本が2点しか現存していないため、1葉のみでもとても貴重である。ビザンツ帝国のアレクシウス1世と第1回十字軍の指導者で死後には「九偉人」のひとりとされたゴドフロワ・ド・ブイヨン（c. 1060-1100）との関わりについて記した箇所である。

86. ドイツ語の教訓文学（ドイツ、14 世紀中期） 羊皮紙 ビフォリウム断片

Moral treatise in German (on falsehood and silence). Germany, mid-14th c. 145×210 mm. Parchment. Part of bifolium. Single column; 23 lines; written in cursiva libraria script (black ink).

[170X@9@18/46]



(86: fols 1v-2)

中世ドイツ語の宗教散文

中世ドイツ語の写本断片で、ヒエロニムスやアウグスティヌスを引用しつつ、虚偽と沈黙について論じている箇所である。後世の所有者が欄外に14世紀と、制作時期を書き入れている。慶應義塾図書館には、中世ドイツ語の写本としては他に、14世紀前半に書かれた宗教散文の写

本断片(170X@9@18/67)と15世紀の法律文書の断片(170X@9@18/78)、ドイツ語の行間訳が入った15世紀中期のラテン語詩篇唱集のビフォリウム1葉(170X@9@18/94)が収蔵されている。

87. オランダ語時禱書 (ユトレヒト?、1450 年頃) 羊皮紙零葉

Book of Hours in Dutch. Utrecht (?), c. 1450. 192×150 (88×62) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 19 lines; written in Gothic textura semi-quadrata script. A flourished initial 'I' with a long bar border ending with spray with gold berries and blue leaflets.

[170X@71@1]

88. オランダ語時禱書 (北ネーデルランド、1500 年頃) 羊皮紙零葉

Book of Hours in Dutch. Northern Netherlands, c. 1500. 122×89 (70×53) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 16 lines; 5-line illuminated initial 'D'. From Otto. F. Ege collection.

[170X@61@10@5]



(87: recto)



(88: verso)

全篇オランダ語の時禱書

時禱書を構成する祈祷文や聖書からの抜粋は通常ラテン語で書かれ、フランス語などの俗語が用いられるのは見出し文や暦の人名、一部の追加の祈祷文に限られる。しかし、ネーデルランド北部では、祈祷文をはじめ全てオランダ語に訳された時禱書写本が数多く制作された。

(87) 文頭には金と青のイニシャルが交互に用いられ、見出し文は金で書かれている。金で記されたイニシャル 'I' から金と青あるいは赤

を組み合わせた棒状の装飾が本文に沿って上下に延びて、どちらも金色の実がついた葉飾りで終わっている。余白が広い、豪華な写本零葉である。

(88) 小型の時禱書の零葉で、金で彩飾された5行分の高さのイニシャル 'O' と、ページ下部の金の葉飾り文様が特徴的である。オットー・エギー旧蔵。

89. ナジアンゾスのグレゴリオス、ヨハネス・クリュソストモス「ギリシャ語説教」(東地中海地方、11世紀後半) 羊皮紙14葉

Gregory of Nazianzus, John Chrysostom, Homilies in Greek. Eastern Mediterranean, 2nd half of the 11th c. 330×225 (233×180) mm. Parchment. 14 leaves. Double column; 28 lines; ruled in blind, written in Greek miniscule (brown ink); 12 2-line to 6-line initials in red including interlace and zoomorphic designs. Collation: 1⁸, 2⁶. Contents: Gregory of Nazianzus, *In Sancta Lumina, Oratio xxxix* (fols 1–10v), *In Sanctum Pasche et in Tarditatem, Oratio i* (fols 11–13r), John Chrysostom, *In Sanctum Pasche Concio* (fols 13–14v; incomplete).

[170X@9@32]



(89: fol. 1)

ギリシャ教父の説教集断片

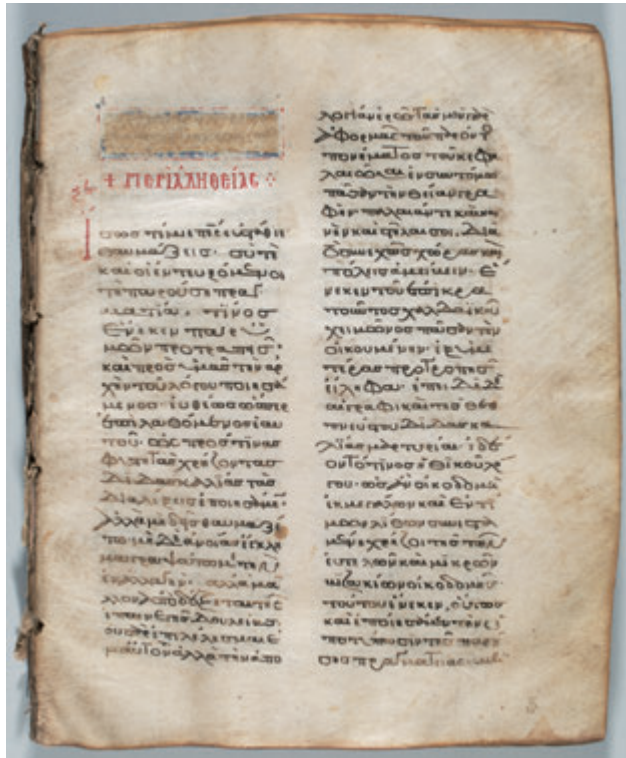
ナジアンゾスのグレゴリオス(329–389)とヨハネス・クリュソストモス(345/49/54–407)は、いずれも4世紀の東ローマ帝国で活躍したギリシャ教父で、正教会とカトリック教会の両方で聖人とされている。この写本断片には、ナジアン

ゾスのグレゴリオスの説教2編と、ヨハネス・クリュソストモスの説教1編の冒頭部分が含まれている。動物をかたどったデザインを用いた、さまざまなサイズの赤のイニシャルが用いられている。

90. 聖サバスのアンティオコス『パンデクテン』他（地中海東部、12-14世紀）羊皮紙 Ff. 112.

Antiochos of Saint Saba. *Pandects*. Eastern Mediterranean, 12th to 14th c. 310×245 mm. Parchment. Ff. 112. Double column; written in a miniscule hand (brown ink). Collation: $\iota\delta-\kappa\eta^8$ (lacks $\iota\epsilon 7, \iota\theta 5$). Contents: Antiochos of Saint Saba, *Pandects*, chap. 65-130 (fols 1-105), short items related to Antiochos (fols 105-109), poem on *Pandects* by Arsenios (fols 109-111), poem by Moschos Markoleon (fol. 111), short items by Gregory of Nazianzus (fols 111-12), short text by Maximos Confessor, on Abandonment (fol 112r-v). Cf. Rapp (2005).

[141X@127@1]



(90: fol. 1)

中世後期ビザンツのギリシャ語写本

ギリシャ語で書かれた中世後期ビザンツの写本で、7世紀の修道士アンティオコスによる著作を中心としたアンソロジーである。アンティオコスは、カッパドキアの聖サバス（532年没）によってベツレヘム郊外に創設されたラウラ（東方正教会の大修道院）に属する修道士であった。614年にササン朝ペルシャによってエルサレムが占領され、近郊にあった同修道院も略奪されたが、その時は辛うじて難を逃れたようである。

写本には、アンティオコスの代表作で622年

以降に執筆されたと思われる『パンデクテン』（fols 1-105）に続いて、アンティオコスによる祈祷文や演説、アンティオコスの簡潔な伝記、ナジアンゾスのグレゴリオスの短い著作等が含まれるが、それらの大半は『パンデクテン』に関連する内容である。「パンデクテン」とは、修道院生活に関する教義や戒律をまとめた総覧であるが、ペルシャ人の攻撃に晒され、しばしば移動を余儀なくされた7世紀の聖地の修道院では、こうした要約への現実的な需要があった。聖サバス修道院は、図書館と写字室を備えた重

要な修道院であり続け、11世紀には、アンティオコスを手本にした同種の総覧がニコンという名の修道士によって記されるが、その時も執筆の契機となったのはサラセン人のシナイ半島侵略であった。

本書は、ビザンツ帝国の地中海東部地方で修道院のために制作された写本で、書体から12世紀から14世紀の間に制作されたと推察される。中世のギリシャ語写本に特徴的なタイトバックの装丁になっている。

写本の最初の紙葉には中世の書体で $\iota\delta$ (= 14) というギリシャ文字の折丁記号が書き込まれており、写本が14番目の丁から始まっている

ことが明らかなことから、本書は前半部分が欠落した断片である可能性も考えられる。しかし、写本の冒頭には金彩をほどこした装飾があり、全130章からなる『パンデクテン』の丁度真ん中の65章から始まっていることからすると、本写本は断片ではなく、2巻本の写本の2巻目であったのではないかと思われる。また、写本にはモスコス・マルコレオン (Moschos Markoleon) という人物による短い詩も含まれていて、そのなかで、自らこの写本を「写して寄贈した」と述べていることから、この人物が写本の写字生か寄贈者である可能性が高い。

Ⅷ. 人文主義と写本 (Humanistic script)

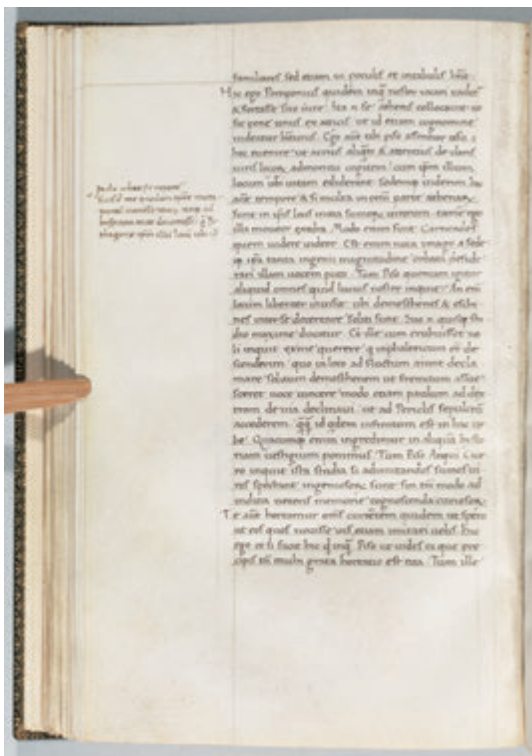
91. キケロ『善と悪の究極について』(フィレンツェ、1450–60年頃) 羊皮紙 Ff. 97.

Cicero. *De finibus bonorum et malorum*. Florence, c. 1450–60. 264×165 (175×100) mm. Parchment. Ff. 97. Single column; 33 lines; written in formal humanistic hand. Illuminated border to fol. 1 in the early style of Francesco d'Antonio del Cherico. Collation: 1⁸⁺¹ 2¹⁰⁺¹ 3⁸⁺¹ 4²⁺¹ 5⁴⁺¹ 6²⁺¹ 7⁸ 8² 9⁸ 10² 11⁹ 12² 13⁶⁺¹ 14² 15⁸⁺¹ 16² 17⁴ 18²; fols 53 and 58 misbound. Cf. Linenthal (2005).

[120X@1149@2@1]



(91: fol. 1)



(91: fol. 74v)

ヴェスプッチ旧蔵のキケロ写本

本書はキケロ(106–43 B.C.)の最晩年の哲学的対話篇で、倫理学の原理を扱った『善と悪の究極について』の写本である。巻頭ページの装飾は、15世紀後半にフィレンツェで活躍し、メディチ家のために多くの写本の装飾を手がけたフランチェスコ・ダントニオ・デル・ケリコ(Francesco d'Antonio del Cherico)の様式とされる。

本文の余白には、fol. 74vを初めとして、

ヒューマニストのジョルジョ・アントニオ・ヴェスプッチ(Giorgio Antonio Vespucci; c. 1434–1514)による書き込みがところどころに見られる。ヴェスプッチは当時のフィレンツェを代表する古典学者で、プラトン・アカデミーに所属し、マルシリオ・フィッチーノと親交が深く、蔵書家としても知られていた。また、フィレンツェで貴族の子弟を対象とした学校を開いており、生徒のなかには甥のアメリゴ・ヴェスプッ

チ（1454–1512）もいた。叔父の学識と蔵書はアメリカに大いに影響を与えたとされ、アメリカはウェルギリウスやペトルルカを好み、ラテン語の文章を抜粋した自筆の備忘録を作り、父親にラテン語の手紙を書くなどしてラテン語と親しんでいた。アメリカは1497年から1504年にかけて4度新大陸への航海をしたとされ、アメリカが、アメリカが用いていたラテン名 *Americus Vespucius* に基づいているのは周知の事実である。

ジョルジョ・アントニオはアメリカよりも長命で、晩年はドミニコ会のサンマルコ修道院に

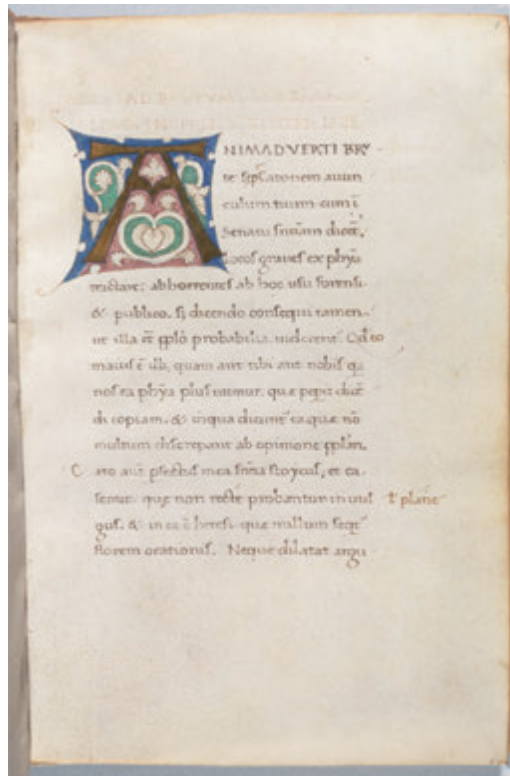
入り、本書も同修道院の所蔵となって18世紀までそこにあった。慶應義塾図書館所蔵となる前は、20世紀を代表する中世・ルネサンス写本のコレクターのひとり、ブライアン・クロン（Brian S. Cron; 1913–2002）が所蔵していて、クロンによる装幀や本書の来歴に関する注記が遊び紙に記されている。

15世紀を代表するヒューマニストの自筆の書き込みがあるこの写本は、イタリア・ルネサンスの古典研究の姿を伝える一級資料に他ならない。

92. キケロ『ストア派のパラドックス』、『スキューピオーの夢』(イタリア、15世紀後半) 羊皮紙 Ff. 31.

Cicero. *Paradoxa Stoicorum, Somnium Scipioni*. Italy, late 15th century. 178×120 (113×68) mm. Parchment. Ff. 31. Single column; 18 lines; written in humanistic script. Contents: *Paradoxa Stoicorum* (fols 1–20v), *Somnium Scipioni* (fols 21–31).

[120X@887@1]



(92: fol. 1)

キケロの小品のヒューマニスト書体写本

本書は、美しい人文主義書体で書かれたキケロの小篇2本—『ストア派のパラドックス』(*Paradoxa Stoicorum*)と『スキューピオーの夢』(*Somnium Scipioni*)—を収めた写本で、15世紀後半にイタリアで制作された。

『ストア派のパラドックス』は、ローマ史から具体的事例を取りあげて、ストア派の倫理観を字義通りに適応することから生じる矛盾を指摘した論考である。『スキューピオーの夢』は『国家について』の第6巻にあたるが、中世では断片的にしか伝わらなかった5巻までとは異なり、独立したテキストとして伝播していた。5世紀にはマクロビウスによる注解が書かれたが、こ

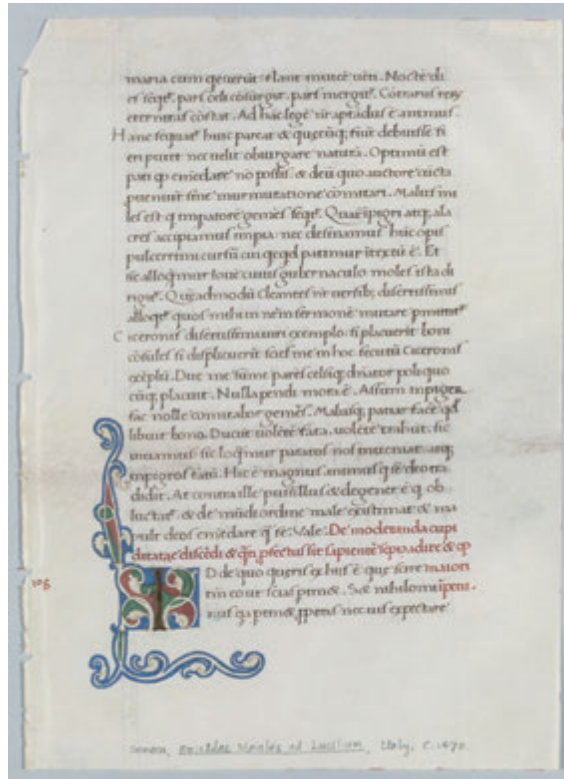
の注解を通じて『スキューピオーの夢』は中世を通じて最も広く読まれたキケロの作品となり、ダンテやペトルルカ、チョーサーにも影響を与えた。内容は、紀元前2世紀の軍人で政治家のスキューピオーの夢に養祖父の大スキューピオーが現れて、宇宙のヴィジョンを見せ、天体の調和や靈魂の不滅について教えるというものである。現世の諸事は取るに足らぬが、その一方で、祖国に奉仕する者の魂は肉体の牢獄から解放され、死後、永遠の至福を得ると教えらる。

本書は、『善と悪の究極について』の写本(展示書91番)と同様にブライアン・クローンの前蔵書であった。

93. セネカ『ルキリウス宛て道徳書簡』（イタリア、1470年頃）羊皮紙零葉

Seneca, *Epistolae morales ad Lucilium*. Italy, c. 1470. 286×207 (205×133) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 28 lines; written in the 15th–c. Italian Roman script, based on Caroline miniscule. 3–line illuminated initial ‘I’.

[170X@9@13]



カロリング朝書体を模したセネカの写本

ローマ帝国の政治家で哲学者のセネカ（c. 1 B.C–65）が62年に隠退したあとに書かれた124通の書簡が現存していて、それらは全てルキリウスという人物に宛てて書かれている。この人物はセネカより数歳若く、シチリアの総督を務めたとされる。セネカは『神慮について』も同じルキリウスに宛てている。

この零葉は、カロリング朝小文字体をモデル

とした15世紀イタリアのローマン体で、上質の羊皮紙に書かれている。ツタ文様で装飾されたイニシャル‘I’もカロリング朝の写本を模しており、たとえばアウグスティヌス『ヨハネによる福音書講解説教』の写本零葉（イタリア、13世紀中期）のイニシャルと類似している（展示書67番）。

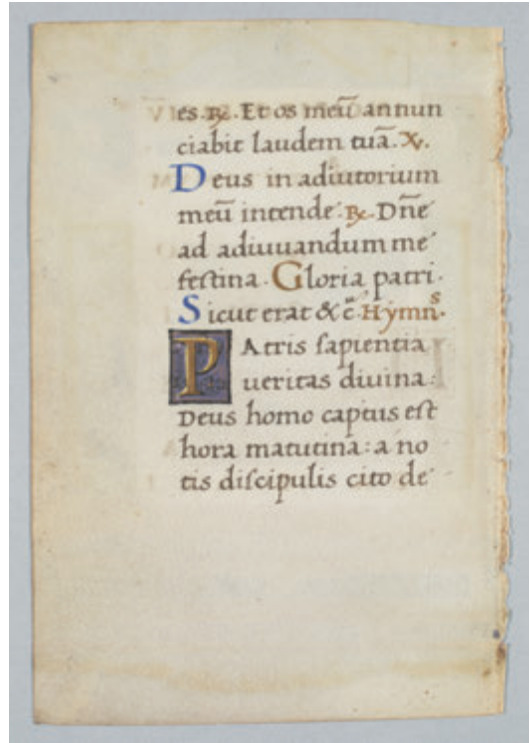
94. ラテン語時禱書（ローマ、1480年頃） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (Matins of Hours of the Cross). Rome, c. 1480. 120×80 mm. Parchment. Single leaf. Single column; 12 lines (verso); written in humanistic script by the Paduan scribe Bartolomeo Sanvito. Historiated initial 'D' depicting the Cross in a landscape, with a full Renaissance border. From Otto F. Ege collection.

[170X@61@10@3]



(94: recto)



(94: verso)

サンヴィートのヒューマニスト書体と彩飾

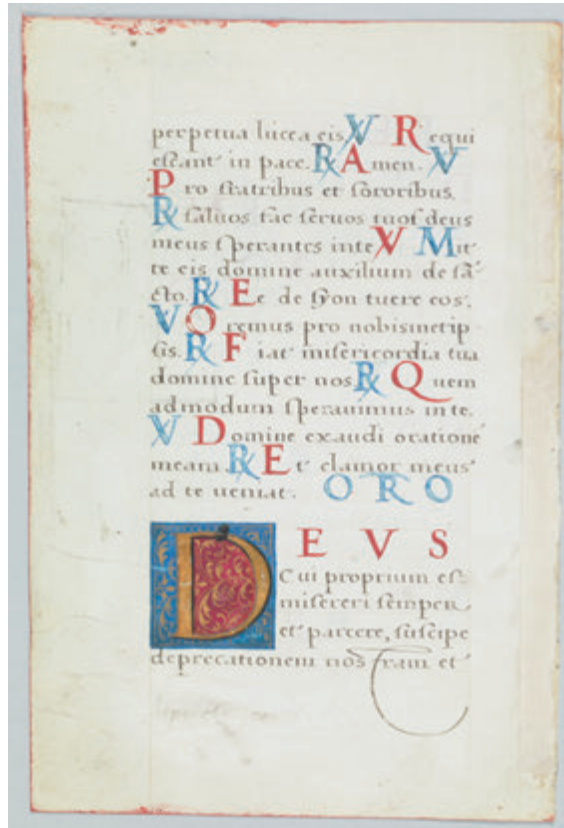
パドヴァ出身の写字生バルトロメオ・サンヴィート（Bartolomeo Sanvito; 1435–1518）が写字し彩飾した希少な零葉である。パドヴァとローマで活躍したサンヴィートのヒューマニスト書体は15世紀イタリアでもっとも美しいとされ、アルド・マヌーツィオのイタリック体の手本ともなっていると推測されている。サンヴィー

トは1470年代の終わりから1480年代にかけて小型の時禱書を制作している。この零葉は「十字架の時禱」の朝課の冒頭部で、物語イニシャル 'D' のなかには本文に対応して十字架が描かれている。また、金文字と色文字を交互に用いるサンヴィートの特徴が見られる。オットー・エギー旧蔵。

95. ラテン語時禱書（ボローニャ、15世紀後半） 羊皮紙零葉

Book of Hours in Latin (the Litanies). Bologna, late 15th c. 164×111 (115×66) mm. Parchment. Single leaf. Single column; 20 lines; ruled in pale brown; written in Roman script in the hand of Pierantonio Sallando of Reggio. 4-line illuminated initial 'D' on deep red and blue foliage ground.

[170X@9@2, Pl.19]



ヒューマニスト書体で書かれた時禱書

時禱書の連禱部分の零葉で、15世紀のヒューマニスト書体で書かれた赤と青の大文字が美しい。この零葉を写字したピエラントニオ・サルランド（Pierantonio Sallando）はレッジョ・エミリア出身で、ボローニャ大学教授の地位にあり、1489年から1540年頃まで、ボローニャの僭主だったベンティボーリョ家のジョバンニ2世（1443-1508）などの庇護を受けて活躍してい

た。唱句と答唱（レスポンソリウム）を示す‘V’と‘R’、さらに文頭の大文字には赤と青が交互に用いられ、ページの最下行には大きな飾りのストロークが見られる。サルランドは、同時期にボローニャで制作された「アルバニ時禱書」（BL MS Yates Thompson 29）をはじめとして多くの豪華写本を制作している。

96. 「ポルトラーノ海図」(ヴェネチア、1500年頃) 羊皮紙断片

Portolan Chart. Venice, c. 1500. 130×159 mm. Parchment. Fragment. Drawn in sepia and shaded in red, the principal place names written in small Gothic script; interlocking rhumb lines in red and brown.

[170X@24@1]



アドリア海のポルトラーノ海図

「ポルトラーノ海図」の断片。中世の世界地図としては、いわゆる「マッパムンディ」(エルサレムを中心として上半分がアジア、下半分にヨーロッパとアフリカを左右に配した観念的な円形図)が有名だが、ポルトラーノ海図は、正確な海岸線と目的地へ航海するための舵角を示す航程線からなる実用的な地図で、実際の航海に用いられた。西洋では羅針盤の登場とともに13世紀頃から使用されはじめ、日本でも朱印船貿易のためにインド洋などのポルトラーノ海図が製作されている。ポルトラーノ海図は地球の湾曲を考慮せずに、緯度と経度の比率を一定とするメルカトル図法で描かれているため、遠洋航海には不便だが、地中海のような内陸海を航海するには有益であった。

この地図は1500年頃にヴェネチアで描かれ

たもので、イタリア半島南部からギリシャとエーゲ海の島々に至る海域が描かれている。海岸線は赤で縁取りをしたセピア色で描かれ、交差する航程線は赤と茶色で示されている。沿岸の地名は赤や茶色のゴシック体で詳細に記されている。地図上部の2つの中世都市の図は、地図製作とほぼ同時期に描かれたもので、ラゲーサ(ドゥブロヴニク)とサロニカ(テッサロニキ)である。両都市とも中世にはヴェネチアの植民地であった。ラゲーサは14世紀にはラゲーサ共和国として独立し、イタリアとオスマントルコ、黒海沿岸地域を結ぶ航路における重要な中継地点となる。中世後期から近代初期の海図の特徴である、正確さと装飾性の共存の例と言えよう。この断片は書物の表紙として再利用されていた。

Ⅷ. リサイクルされた中世写本 (The Afterlife)

97. 記譜付きグラドゥアーレ (イタリア、12世紀後半) 羊皮紙 ビフォリウム

Gradual with neums (Common of Saints, with masses for martyrs, a confessor bishop, and a virgin martyr). Italy, late 12th c. 165×246 mm. Parchment. Bifolium, consecutive. Single column; written in protogothic hand (black ink).

[170X@9@18/10]

98. 詩篇唱集 (ドイツ、13世紀初期) 羊皮紙 ビフォリウム断片

Psalter (Psalm 68). German, early 13th c. 281×190 mm. Parchment. Fragment of bifolium. Single column; written in late Caroline script. Large illuminated initial 'S' of dragon and foliage pattern, painted in red, blue, and green, though gold has almost completely worn off.

[170X@9@2, Pl.6]



(97)



(98)

本の表紙に再利用された中世写本

活版印刷の時代になって手書き写本の需要が激減すると、不要となった羊皮紙は、その丈夫さ故にさまざまに再利用された。この2点は、その形状からわかるように、裁断されて、本の表紙や装丁の補強材として使われていたものである。

(97)は12世紀後半に制作されたグラドゥアーレ(聖人共通の部)のビフォリウム1葉が、そのまま本の表裏と背を包むようにして表紙として再利用されたものである。

(98)は、『詩篇』68篇の零葉で、カロリング朝体で書かれ、赤、青、緑で描かれたドラゴンや葉飾り模様の彩飾イニシャル'S'が描かれている。この断片も、表紙あるいは表紙の内側に貼る装丁の補強材として再利用されたものである。豪華で大型の彩飾イニシャルが描かれたビフォリウムが惜しげも無く再利用されているが、中世彩飾写本の美しさと歴史的価値が再評価されるのは早くても17世紀以降のことになる。

参考文献

参考文献

- Adam, Elliot, *Le camaïeu d'or dans l'enluminure en France au XV^e siècle. Une technique de réduction du coloris*, 3 vols (Paris, Université de Paris–Sorbonne, 2016)
- Arnould, Alain, and Jean Michel Massing, eds, *Splendours of Flanders: Late Medieval Art in Collections* (Cambridge: Cambridge UP, 1993)
- Avril, François, and Nicole Reynaud, *Les Manuscrits à peintures en France 1440–1520* (Paris: Flammarion, 1993)
- BL Catalogue of Illuminated Manuscripts: Glossaries <<https://www.bl.uk/catalogues/illuminatedmanuscripts/GlossA.asp>>
- Baba, Yukie, and Neil McLynn, 'On Confession: A Cistercian Treatise in Keio University Library', in *Codices Keionenses: Essays on Western Manuscript and Early Printed Books in Keio University Library*, ed. by Takami Matsuda (Tokyo: Keio University Press, 2005), pp.31–68
- Biddlecombe, Steven, ed., *The Historia Ierosolimitana of Baldric of Bourgueil* (Woodbridge: Boydell Press, 2014)
- Blom, Alderik H., *Glossing the Psalms: The Emergence of the Written Vernaculars in Western Europe from the Seventh to the Twelfth Centuries* (Berlin: De Gruyter, 2017)
- Boffey, Julia, and A. S. G. Edwards, compl., *Medieval Manuscripts in the Norlin Library and the Department of Fine Arts at the University of Colorado at Boulder: A Summary Catalogue* (Fairview, NC: Pegasus Press, 2002)
- Brown, Virginia, 'A Second New List of Beneventan MSS (II)', *Medieval Studies*, 50(1988), 584–625
- De Hamel, Christopher, *Medieval Craftsmen: Scribes and Illuminators* (London: British Museum Press, 1992)
- De Hamel, Christopher, 'Phillipps Fragments in Tokyo', in *The Medieval Book and a Modern Collector: Essays in Honour of Toshiyuki Takamiya*, ed. by Takami Matsuda, Richard A. Linenthal and John Scahill (Cambridge: D. S. Brewer/ Tokyo: Yushodo, Press, 2004), pp.19–44
- De Hamel, Christopher, *Making Medieval Manuscripts* (Oxford: Bodleian Library, University of Oxford, 2018)
- De la Mare, A. C., and Laura Nuvoloni, *Bartolomeo Sanvito: The Life and Work of a Renaissance Scribe* (Paris: Association internationale de bibliophile, 2009)
- Edwards, A. S. G., 'The Hopton Hall Manuscript at Keio University' in *Codices Keionenses: Essays on Western Manuscript and Early Printed Books in Keio University Library*, ed. by Takami Matsuda (Tokyo: Keio University Press, 2005), pp.69–86
- Edwards, A. S. G., 'Journeyman Manuscript Production and Lay Piety: the Hopton Hall Manuscript', in *Medieval Texts in Context*, ed. by Graham D. Caie and Denis Renevey (Abingdon, 2008), pp.113–121
- Geh, Hans–Peter, and Gerhard Römer, eds, *Mittelalterliche Andachtsbücher – Psalterien – Stundenbücher – Gebetbücher* (Karlsruhe: Badische Landesbibliothek, 1992)
- Hourihane, Colum, ed., *Time in the Medieval World: Occupations of the Months and Signs of the Zodiac in the Index of Christian Art*, Index of Christian Art Resources, 3 (Princeton, NJ: Index of Christian Art, 2007)
- Linenthal, Richard A., "'Whole shyppes full" of Manuscripts: A Sixteenth–Century Vellum Wrapper', *The Me-*

dieval Book and a Modern Collector: Essays in Honour of Toshiyuki Takamiya, ed. by Takami Matsuda, Richard A. Linenthal and John Scahill (Cambridge: D. S. Brewer/Tokyo: Yushodo, Press, 2004), pp.419–26

Linenthal, Richard A., 'Medieval and Renaissance Manuscripts: A Handlist of the Collection of B. S. Cron', *The Book Collector*, 54(2005), 553–63

Manion, Margaret M., Vines, Vera F., and Christopher de Hamel, *Medieval and Renaissance Manuscripts in New Zealand Collections* (Melbourne: Thames and Hudson, 1989)

Matsuda, Takami, ed., *Mostly British: Manuscripts and Early Printed Materials from Classical Rome to Renaissance England in the Collection of Keio University Library* (Tokyo: Keio University, 2001)

Millar, Eric G., *English Illuminated Manuscripts from the Xth to the XIIIth Century* (Paris: G. van Oest, 1926)

Morgan, N. J., *Early Gothic Manuscripts (II) 1250–1285*, A Survey of Manuscripts Illuminated in the British Isles, IV.2, 2 vols (London: Harvey Miller, 1988)

Plotzek, Joachim M. ed., *Andachtsbücher des Mittelalters aus Privatbesitz* (Köln: Schnütgen-Museum, 1987)

Plummer, John, *The Last Flowering: French Painting in Manuscripts 1420–1530 from American Collections*, with the assistance of Gregory Clark (New York: The Pierpont Morgan Library, 1982)

Rapp, Claudia, 'The Antiochos Manuscript at Keio University: A Preliminary Description', in *Codices Keionenses: Essays on Western Manuscripts and Early Printed Books in Keio University Library*, ed. by Takami Matsuda (Tokyo: Keio University Press, 2005), pp.11–29

Raynoud–Nguyen, Isabelle, 'Les portulans: texte et iconographie', in *Iconographie médiévale: image, texte, contexte*, ed. by G. Duchet-Suchaux (Paris, 1993), pp.91–107

Sandler, Lucy Freeman, *Gothic Manuscripts 1285–1385*, 2 Parts, A Survey of Manuscripts Illuminated in the British Isles, V (London: Harvey Miller, 1986)

Sandler, Lucy Freeman, 'The Study of Marginal Imagery: Past, Present, and Future', *Studies in Iconography* 18(1997), 1–49

Scahill, John, 'Lexemes and the Law: the Language of an Unpublished Fifteenth-century Cartulary in Keio University Library', in Imahayashi, Osamu, Nakao, Yoshiyuki, and Michiko Ogura, eds, *Aspects of the History of English Language and Literature: Selected Papers Read at SHELL 2009, Hiroshima* (New York and Frankfurt/M: Peter Lang, 2010), pp.267–83

Shailor, Barbara A., 'Otto Ege: His Manuscript Fragment Collection and the Opportunities Presented by Electronic Technology', *The Journal of the Rutgers University Libraries*, 60(2003), 1–22

Takamiya, Toshiyuki, 'A Hitherto Unedited Manuscript of Trevisa's *De Proprietatibus Rerum*', in *Philologica Anglica: Essays Presented to Professor Yoshio Terasawa on the Occasion of His Sixtieth Birthday*, ed. by Kinshiro Oshitari, et al. (Tokyo: Kenkyusha, 1988), pp.308–19

Watson, Rowan, *The Playfair Hours: A Late Fifteenth Century Illuminated Manuscript from Rouen (V & A, L.475–1918)* (London: Victoria and Albert Museum, 1984)

Wieck, Roger S., *Painted Prayers: The Book of Hours in Medieval and Renaissance Art* (New York: George Braziller, 1997)

Wieck, Roger S., *The Medieval Calendar: Locating Time in the Middle Ages* (New York: the Morgan Library & Museum, 2017)

マイケル・カミール『周縁のイメージ—中世美術の境界領域』永澤峻・田中久美子訳（ありな書房，1999）

- 駒田亜紀子「13世紀後半北フランス制作『ラテン語ウルガータ訳聖書写本』—中世フランスの掌中の聖書—」『時計台』（関西学院大学図書館報）88（2019），2-13
- J・ハーパー『中世キリスト教の典礼と音楽』佐々木勉・那須輝彦訳（教文館，2000）
- ベルンハルト・ビショッフ『西洋写本学』佐藤彰一・瀬戸直彦訳（岩波書店，2015）
- クラウディア・ブリンカー・フォン・デア・ハイデ『写本の文化誌—ヨーロッパ文学の文学とメディア』一條麻美子訳（白水社，2017）
- スタン・ナイト『西洋書体の歴史—古典時代からルネサンスへ』高宮利行訳（慶應義塾大学出版会，2001）
- 松原秀一「中世フランス語による十字軍記断片二葉」『三田評論』932（1992.1），96-97
- 松田隆美「15世紀後半にルーアンで制作された時禱書（慶應義塾図書館蔵）の書物史的研究」佐藤道生編『慶應義塾図書館の蔵書』（慶應義塾大学出版会，2009）pp.157-71
- 松田隆美「エリザベス1世の侍女の時禱書—「フィトン時禱書」の特色と来歴」松田隆美編『書物の来歴、読者の役割』（慶應義塾大学出版会，2013）pp.99-131
- 松田隆美「ヨーロッパ中世写本の挿絵に見る驚異」山中由里子編『〈驚異〉の文化史—中東とヨーロッパを中心に』（名古屋大学出版会，2015）pp.169-83
- 松田隆美「断片研究と時禱書写本 —16世紀初頭の時禱書写本零葉をめぐる—」*Colloquia* (Keio University), 35(2014), 89-103
- 松田隆美『ヴィジュアル・リーディング—西洋中世におけるテキストとパラテキスト』（ありな書房，2010）
- 八木健治「製作者から見る「パピルスと羊皮紙」—その製法と特徴」豊田浩志編『モノとヒトの新史料学』（勉誠出版，2016）pp.45-63
- 八木健治「第2章 手書き写本と印刷本—その書写材と制作工程」藤原是明編『図書館情報資源概論—人を育てる情報資源のとらえかた』（ミネルヴァ書房，2018）pp.6-36

慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト

A Handlist of Western Medieval Manuscripts in Keio University Library, Tokyo (慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト)

The list includes all Western medieval manuscripts and manuscript fragments in Keio University Library as of June 2019, excluding the collection of documents compiled by Bernard M. Rosenthal as 'Latin Paleography and Diplomatics: Part II: Diplomatics' (170X@10@1/96).

The catalogue number refers to the item number of the manuscripts described more fully in the main part of this catalogue.

In the short description, the size (height×width) of a leaf or a bifolium is given in mm, followed by the size of the written space within parentheses where applicable. References to catalogues of exhibition organized by Keio University, where a fuller description can be found, are given in square brackets at the end of the description. The abbreviation is followed by the item number in the catalogue (except for E). For the abbreviations, see p.iv.

(Takami Matsuda)

2019年6月現在で慶應義塾図書館に収蔵されている全ての西洋中世写本及び断片の一覧リストである。但し、'Latin Paleography and Diplomatics: Part II: Diplomatics' compiled by Bernard M. Rosenthal (170X@10@1/96) として一括購入された史料類は含まれていない。本図録で解説されている写本に関しては、'cat. no' 欄にその番号を示した。書誌記述においては、寸法（縦×横 mm）は、原則として第1葉（あるいはビフォリウム）のおおよその大きさを測った。必要に応じて括弧内に本文スペースの寸法を示す。

慶應義塾大学で開催された展示の図録への言及を、書誌記述の末尾の [] 内に、略号と展示番号の組み合わせ（Eを除く）で示している。略号については「凡例」参照。







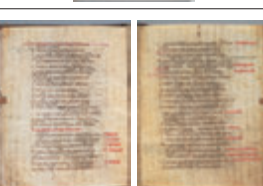

(松田隆美)









The following items were acquired as a collection:









170X@9@2, Pl.1-35: 35 leaves in the collection of Dr A. N. L. Munby, Librarian of King's College, Cambridge, and sold at Sotheby's on 22 June 1982 as the lot 43.









170X@9@18/1-127: Bernard M. Rosenthal 'Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography', compiled in 1980, with descriptions and paleographical commentaries by Prof. Marvin L. Colker, Dept. of Classics, Univ. of Virginia, Charlottesville.






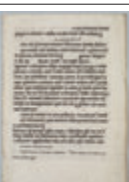
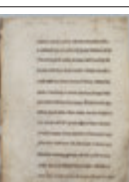
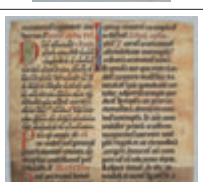
170X@61@10@1-10: a collection of 10 leaves assembled by Otto F. Ege, sold at Christie's, London on 20 November 2013.

shelfmark	cat. no.	short description	image
120X@432@1	71	Aegidius Romanus. <i>De Regimine Principum</i> , with <i>Secreta Secretorum</i> , etc. England, 2nd quarter of the 15th c. 265×185 (170×120) mm. Parchment. Ff. 203. [C11;E;H71]	
120X@511@1	05	Breviary. Southern Germany, 12th c. 255×168 (185×130) mm. Parchment. Fragment of 28 leaves. [A35;E;H5]	
120X@582@1	37	Psalter. London, c. 1420–1440. 264×183 (160×110) mm. Parchment. Ff. 115. [A9;B10;C8;E;H37]	
120X@680@1	51	Book of Hours in Latin (Use of Rouen). Rouen, c. 1465–85. 178×119 (104×70) mm. Parchment. Ff. 103. [A65;C14;D3;H51]	
120X@746@1	74	'Cistercian Statutes of 1256–1257'. France, c. 1260–1288. 180×135 (137×94) mm. Parchment. Ff. 76. [E;H74]	
120X@887@1	92	Cicero. <i>Paradoxa Stoicorum</i> , <i>Somnium Scipioni</i> . Italy, late 15th century. 178×120 (113×68) mm. Parchment. Ff. 31. [D8;H92]	
120X@972@1	06	Galifridus de Vinosalvo [Geoffrey of Vinsauf]. <i>Poetria nova</i> . Central Italy [probably Viterbo], 1st half of the 14th c. 212×165 (168×103) mm. Parchment. Ff. i+48+ii. [B7;C6;D1;E;H6]	
120X@1149@2@1	91	Cicero. <i>De finibus bonorum et malorum</i> . Florence, c. 1450–60. 264×165 (175×100) mm. Parchment. Ff. 97. [D7;E;H91]	









shelfmark	cat. no.	short description	image
120X@1156@2@1	80	Religious Miscellany in Middle English ('Hop-ton Hall' MS). Norfolk, 1st half of the 15th c. 193×131 mm. Parchment. Ff. 43. [B9;C9;E;H80]	
120X@1337@1	54	Book of Hours in Latin (Use of Salisbury). Southern Netherlands, mid-15th c. 188×132 (127×83) mm. Parchment. Ff. iii+81+iii. [H54]	
120X@1338@1	53	Book of Hours in Latin and French (Use of Rome). Langres, France, c. 1480. 190×135 (113×71) mm. Parchment. Ff. 127. [E;H53]	
120X@1362@1	52	Book of Hours in Latin (Use of Bayeux). Rouen, c. 1465-80. 176×119 (95×62) mm. Parchment. Ff. i+117+i. [D2;E;H52]	
140X@20@1	16	Bible (Prol. to 1 Maccabees-1 Maccabees 2:44). France, mid-13th c. 198×132 (168×112) mm. Parchment. Single leaf. [A60;G1;H16]	
140X@41@1/20		Book of Hours in Latin. French, 1st half of the 15th c. 135×170 mm. Parchment. Single leaf. (in 'A Collection of Material Relating to the History of the Development of Writing' compiled by A. N. L. Munby).	
140X@54@1	31	Breviary (Calendar of November and December). Southern Netherlands, 2nd half of the 13th c. 120×100 mm. Parchment. Single leaf. [H31]	
140X@55@1		Latin Book of Hours (Seven Penitential Psalms: Ps. 6). France, 15th c. 195×145 mm. Parchment. Single leaf.	









shelfmark	cat. no.	short description	image
140X@56@1	22	Liturgical book (Calender of January). South-west (?) Germany, early 13th c. 178×133 mm. Parchment. Single leaf. [H22]	
140X@57@1	62	Book of Hours in Latin (The Matins for the Office of the Dead). Northern France (Paris?), c. 1460. 130×98 (80×53) mm. Parchment. Single leaf. [H62]	
140X@58@1	30	Book of Hours in Latin (Calendar of September). France, c. 1500. 167×114 (140×86) mm. Parchment. Single leaf. [H30]	
140X@59@1	58	Book of Hours in Latin ('O Intemerata'). Rouen (?), c. 1480. 164×115 mm. Parchment. Single leaf. [H58]	
140X@60@1	26	Book of Hours in Latin (Calender of June in French). Northern France (Paris?), c. 1460. 130×98 (70×49) mm. Parchment. Single leaf. [H26]	
140X@61@1	64	Book of Hours in Latin (St Denis and the Archangel Michael from the Suffrages). Paris, c. 1470. 140×92 (76×48) mm. Parchment. Single leaf. [H64]	
140X@62@1	24	Book of Hours in Latin (Calendar of March, in French). France, late 15th c. 162×114 (90×55) mm. Parchment, Single leaf. [H24]	
140X@63@1	25	Book of Hours in Latin (Calender of April). France (Paris?), c. 1500. 164×113 (47×60) mm. Parchment. Single leaf. [H25]	








shelfmark	cat. no.	short description	image
141X@127@1	90	Antiochos of Saint Saba, <i>Pandects</i> . Eastern Mediterranean, 12th to 14th c. 310×245 mm. Parchment. Ff. 112. [D2:H90]	
141X@137@1	85	French poem based on Baudri de Bourgueil, <i>Historia Hierosolymitana</i> . France, 1st half of the 14th c. 293×211 mm. Parchment. Single leaf. [E;H85]	
142X@43@1	66	Augustine. <i>Sermones de verbis domini et apostoli</i> . England, 12th c. 385×270 (280×186) mm. Parchment. Fragment of 32 leaves. [A3;C4;E;H66]	
160X@66@1		Office of the Dead. Germany [Rhineland?] c. 1425. 160×101 mm. Parchment. Ff. 96.	
160X@71@1	55	Book of Hours in Latin. Tours, c. 1480–90. 126×87 (71×51) mm. Ff. 174. [H55]	
170X@9@2, Pl.1		Latin Bible (Ezekiel 20:13–36). 11th c. 370×245 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.2		Noted Breviary. Germany, 12th c. 280×200 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.3	76	Sulpicius Severus. <i>Vita S. Martini</i> (parts of chaps 13, 16). England, mid-12th c. 90×117 mm. Parchment. Fragment. [A1;C3;H76]	


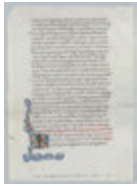





shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@2, Pl.4		Pauline Epistle with Gloss by Guilbert de la Porée (?). England, c. 1150–75. 285×200 mm. Parchment. Fragment. [A2]	
170X@9@2, Pl.5a, 5b	01	Noted Breviary. Germany, 12th c. (a) 139×308 mm; (b) 130×306 mm. Parchment. Fragment of bifolium. [H1]	
170X@9@2, Pl.6	98	Psalter (Psalm 68). German, early 13th c. 281×190 mm. Parchment. Fragment of bifolium. [H98]	
170X@9@2, Pl.7	15	Latin Bible (Exodus 37:16–Leviticus 1:14). England, c. 1220–40. 297×200 (194×125) mm. Parchment. Single leaf. [H15]	
170X@9@2, Pl.8		Latin Glossed Bible (Jeremiah 31:4–) France, 13th c. 243×178 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@2, Pl.9	02	Missal (Collect for the Vigil of the Epiphany). France, 13th c. 311×218 (238×170) mm. Parchment. Single leaf. [A58;H2]	
170X@9@2, Pl.10		Latin Bible (Matthew 26:62–27:4). Italy, 13th c. 263×197 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.11		Missal. Germany, 13th century. 198×210 mm. Parchment. Fragment.	

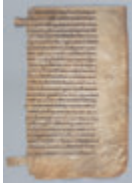

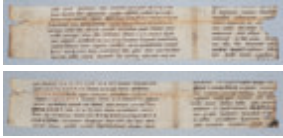




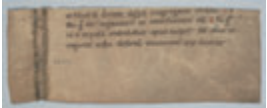
shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@2, Pl.12		Augustine. <i>Epistolae</i> . England, late 13th c. 306×203 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.13	40	Breviary (Proper of the saints, Feast of SS Peter and Paul). Eastern France, 14th c. 161×112 (105×68) mm. Parchment. Single leaf. [H40]	
170X@9@2, Pl.14		John of Bologna. <i>Quaestiones de anime humane</i> . Italy, 14th c. 305×221 (294×175) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.15		Book of Hours in Latin. France, 15th century. 175×125 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.16		Noted Breviary (including office of St. Edith of Wilton). England, 15th century. 331×243 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.17	41	Breviary (The Feast of the Ascension). Loire valley (probably Tours), France, c. 1470. 184×125 (120×82) mm. Parchment. Single leaf. [A62;H41]	
170X@9@2, Pl.18		Book of Hours in Latin (the opening of None). Flanders, c.1470. 176×135 mm. Parchment. Single leaf. [A80]	
170X@9@2, Pl.19	95	Book of Hours in Latin (the Litanies). Bologna, late 15th c. 164×111 (115×66) mm. Parchment. Single leaf. [A106;H95]	









shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@2, Pl.20		Unidentified Latin prose. 145×90 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@2, Pl.21		Unidentified Latin prose. 141×119 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@2, Pl.22		Unidentified Latin prose. 138×98 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@2, Pl.23		Unidentified Latin prose. 186×136 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.24		Unidentified Latin prose. 300×195 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.25		Unidentified Latin prose. 144×108 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.26		Unidentified Latin prose. 144×108 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.27		Unidentified Latin prose. 200×148 mm. Parchment. Single leaf.	





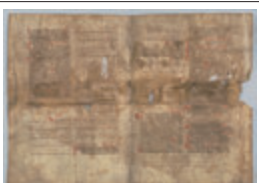



shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@2, Pl.28		Breviary (?). 215×172 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.29		Antiphonal (?). 215×172 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@2, Pl.30		Unidentified Latin prose. 225×144 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.31		Noted Breviary. 193×135 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	
170X@9@2, Pl.32		Catherine of Siena. <i>Dialogi</i> (table of contents). 15th c. 193×135 mm. Parchment. Single leaf. (from the same MS as 170X@9@2@33)	
170X@9@2, Pl.33		Catherine of Siena, <i>Dialogi</i> (table of contents). 15th c. 193×135 mm. Parchment. Single leaf. (from the same MS as 170X@9@2@32)	
170X@9@2, Pl.34		Liturgical MS in Greek. 170×135 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@2, Pl.35		Qu'ran. Egyptian Mamluk period, 14th or 15th c. 280×205 mm. Paper. Single leaf.	







shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@3	32	Psalter (parts of Psalms 21, 25, 26). Southern Italy, 11th c. 201×291 mm. Parchment. Bifolium (trimmed). [A85;E;H32]	
170X@9@4	68	Petrus Lombardus. <i>Quatuor Libri Sententiarum</i> , Book II. England, late 13th c. 327×222 (200×125) mm. Parchment. Single leaf. [A5;E;H68]	
170X@9@5/1~2	82	Bartholomaeus Anglicus. <i>De Proprietatibus Rerum</i> , translated into Middle English prose by John Trevisa. England, 2nd quarter of the 15th c. (1) 250×275 (250×195) mm; (2) 330×290 (250×190) mm. Parchment. 2 fragments. [A11;C10;H82]	
170X@9@6	81	Wycliffite Bible (Prol.–Deuteronomy) in Middle English. England, c. 1400–1430. 145×85 (100×60) mm. Parchment. Fragment of 35 damaged leaves. [A8;B6;C7;E;H81]	
170X@9@7	45	Noted Sequentiary. Germany, possibly Switzerland, early 12th c. 287×189 (160×120) mm. Parchment. Bifolium (trimmed). [A45]	
170X@9@8		Secular Noted Breviary (Sanctoral and part of an Office for SS. Cosme and Damian). Switzerland or Germany, late 11th or early 12th c. 256×165 (220×117) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@9		Aristotle. <i>Analytica Priora</i> (1.46–2.2), trans. by Boethius. England, first half of the 14th century. 237×162 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@11	84	Ambroise. <i>L'Estoire de la guerre sainte</i> . England, late 13th c. 198×140 (143×60) mm. Parchment. Single leaf. [H84]	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@12/1~3	83	Cartulary in Latin and English. Winchester (?), 1462. (1) 590×250 mm, (2) 590×250 mm, (3) 650×250 mm. Parchment. 3 leaves. [A12; C13;E;H83]	
170X@9@13	93	Seneca. <i>Epistolae morales ad Lucilium</i> . Italy, c.1470. 286×207 (205×133) mm. Parchment. Single leaf. [A92;H93]	
170X@9@14		Breviary. East Anglia, 14th century. 119×85 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@15		Breviary, with musical notation (portions of services for Quinquagesima week and Ash Wednesday). England, first half of the 14th century. 227×159 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@16		'Vita Sanctae Seraphiae' (chapter 1 to the beginning of chapter 3). England, c. 1200. 323×190 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@17	35	Psalter (Psalms 141:4–142:8). Belgium, c. 1250–1300. 178×133 (150×90) mm. Parchment. Single leaf. [A79;H35]	
170X@9@18/1	09	Latin Bible (Romans 10:15–11:5, 11:20–32). Belgium, 2nd quarter of the 9th c. 157×105 mm. Parchment. Fragment. [A78;H9]	





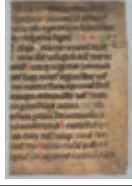
shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/2	10	Latin Bible (Genesis 6:14–7:14). Low Countries (?), 2nd half of the 10th c. 296×178 mm. Parchment. Fragment. [H10]	
170X@9@18/3	11	Latin Bible (Ezekiel chap. headings, 1:1–2:3). Germany, mid–11th c. 330×213 mm. Parchment. 2 single leaves (trimmed) conjoint and consecutive. [A33;H11]	
170X@9@18/4	75	Maurus Servius Honoratus. <i>In Vergilii Aeneidem Commentarii</i> . Germany, late 11th c. (a) 301×60 mm, (b) 302×54 mm. Parchment. 2 bifolium fragments. [H75]	
170X@9@18/5		Breviary (Temporal). mid–12th. c. 285×99 mm. Parchment. fragment.	
170X@9@18/6	20	Calendar (entries for October and November). Germany, 1st half of the 12th c. 340×140 mm. Parchment. Fragment. [A34;H20]	
170X@9@18/7	48	Gospel Lectionary (Common of Saints). Germany, late 12th c. 347×241 (243×169) mm. Parchment. Single leaf. [A36;H48]	
170X@9@18/8		Latin Bible (2 Kings 14:24–15:8, 15:21–16.2). Italy, 2nd quarter of the 12th c. 268×172 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@18/9		Biblical Passages (John 11:52–54, 18:20–21). Germany, 1st half of the 12th c. 210×80 mm. Parchment. Fragment.	




shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/10	97	Gradual with neums (Common of Saints, with masses for martyrs, a confessor bishop, and a virgin martyr). Italy, late 12th c. 165×246 mm. Parchment. Bifolium. [H97]	
170X@9@18/11		Breviary with neums (Temporal, incl. passages from 1 Maccabees and Ezekiel) France, mid–12th c. 105×402 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	
170X@9@18/12		Breviary with neums (Temporal) Low Countries, 2nd half of the 12th c. a: 155×104 mm, b: 156×114 mm. Parchment. 2 Fragments of bifolium, consecutive.	
170X@9@18/13		Gradual with neums (Temporale with masses for Wednesday to Friday after Laetare). Bohemia, mid–12th c. 218×110 mm. Parchment. Fragment. [A110]	
170X@9@18/14		Passages about John the Baptist. Italy, mid–12th c. 333×212 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@18/15		Missal with neums (Temporal). Germany, 1st half of the 12th c. 331×307 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	
170X@9@18/16		Commentary on Psalms 26 and 27. Italy, 2nd half of the 12th c. 106×130 mm. Parchment. Fragment. (170X@9@18/17 is the other part of the same fragment.)	
170X@9@18/17		Commentary on Psalms 26 and 27. Italy, 2nd half of the 12th c. 115×129 mm. Parchment. Fragment. (170X@9@18/16 is the other part of the same fragment.)	





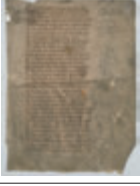



shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/18		Chronicle (54–58 A.D., reigns of Claudius and Nero). Germany, 2nd quarter of the 12th c. 255 ×121 mm. Parchment. Fragment. Cf. de Hamel (2004), p.23	
170X@9@18/19	03	Commentary on the Epistle to Romans (Romans 5:9–11). France, c. 1200. 340×243 (250×180) mm. Parchment. Single leaf. [A57;H3]	
170X@9@18/20		Commentary on Psalms. Italy, 2nd half of the 12th c. 179×256 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/21		Herbert of Bosham. <i>Liber Melorum</i> (commenting on 1 Corinthians 15:28). France, c. 1200. 305×199 mm. Parchment. Single leaf. Cf. Hamel (2004), p. 25.	
170X@9@18/22		Breviary with neums (Temporal). Italy?, 2nd quarter of the 13th c. 396×283 mm. Parchment. Bifolium (not consecutive).	
170X@9@18/23		Tract on Canon Law. Bavaria (Germany), 2nd half of the 13th c. 258×185 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/24		Obituary records, associated with a German convent. Germany, 2nd half of the 13th c. 170×310 mm. Parchment. Fragment. [A38]	
170X@9@18/25	39	Breviary (Common of saints). Italy, early 13th c. 238×158 (160×88) mm. Parchment. 4 leaves. [H39]	









shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/26		Latin Verses on the Meaning of Words. France, about 2nd quarter of the 13th c. 129×208 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	
170X@9@18/27, 28	77	Aulus Persius Flaccus. <i>Saturae</i> . Germany, early 13th c. (a): 96×136 mm, (b): 96×137 mm. Parchment. 2 fragments. [A37;H77]	
170X@9@18/29		Commentary on the Book of Proverbs. France, 2nd half of the 13th c. 228×298 mm. Parchment. Part of bifolium	
170X@9@18/30		Missal (Temporal). England (?), early 13th c. 178×209 mm. Parchment. Part of single leaf. Cf. de Hamel (2004), p.23	
170X@9@18/31	18	Latin Glossed Bible (Psalms 21:7–14). France, mid–13th c. 301×200 (213×127) mm. Parchment. Single leaf. [H18]	
170X@9@18/32	19	Latin Glossed Bible (Luke 2:22–25). France, mid–13th c. 315×214 (210×134) mm. Parchment. Single leaf. [A59;H19]	
170X@9@18/33		Corpus iuris civilis (<i>Codex Iustiniani</i> , 4.30.10–4.31.10). Northern Italy, about 2nd quarter of the 13th c. 272×204 mm. Parchment. Single leaf	
170X@9@18/34	33	Liturgical Psalter (Psalms 108:15–31, followed by doxology and collect). England, 2nd quarter of the 13th c. 247×173 (168×110) mm. Parchment. Single leaf. [A4;H33]	



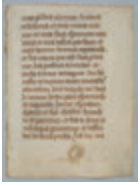



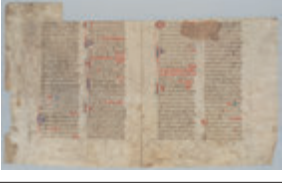

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/35		Canon Law (commentary on Pope Gregory's <i>Decretals</i> ?). Italy (?), 2nd half of the 13th c. 360×242 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/36		Petrus Lombardus. <i>Sententiae</i> (list of contents for Book 2). Germany (?), late 13th c. 269×191 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/37		Corpus iuris civilis (from <i>Digesta Iustiniani</i> , 36). Austria, 2nd half of the 13th c. 205×220 mm. Parchment. Part of single leaf.	
170X@9@18/38	17	Latin Bible (Judges 18:30–21:8). Paris (?), mid–13th c. 202×145 (170×114) mm. Parchment. Single leaf. [H17]	
170X@9@18/39		Missal (Sanctoral). Italy, mid–13th c. 295×204 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/40		Breviary (Temporal). Germany, 1st half of the 13th c. 290×198 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/41		Petrus Lombardus. <i>Sententiae</i> (4.4.6, 4.10.3). France, 1st half of the 13th c. 235×350 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/42		Florilegium of quotations from the Bible and church fathers. France, about 2nd quarter of the 13th c. 215×370 mm. Parchment. Bifolium.	




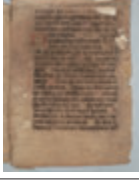
shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/43		Canon law (with comment on <i>Decretum</i>). Italy, about 2nd quarter of the 13th c. 290×195 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/44		Sermons (?) (on humility and irrational creatures). Italy, c. 1300. 306×222 mm. Parchment. Single leaf	
170X@9@18/45		Breviary (Sanctoral). Italy, 12th or 13th c. 316×165 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@18/46	86	Moral treatise in German (on falsehood and silence). Germany, mid-14th c. 145×210 mm. Parchment. Part of bifolium. [H86]	
170X@9@18/47	73	Johannes Balbus. <i>Catholicon</i> . Italy, c. 1300. 310×222 (220×157) mm. Parchment. Single leaf. [H73]	
170X@9@18/48		Psalter (Psalms 122:3–124:5). Germany, 1st half of the 14th c. 203×138 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/49		Disputations on ethical questions in Latin. Italy, mid-14th c. 316×198 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/50		Commentary on a Canon Law text. Italy, mid-14th c. 282×197 mm. Parchment. Single leaf.	









shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/51		Gregory IX. <i>Decretals</i> (1.10.5–1.11.7 etc.). Italy, c. 1300. 303×210 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/52		Breviary (Sanctoral). Germany, mid-15th c. 182×300 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/53		Religious prose in Latin (probably a manual for confessors). Italy, mid-14th c. 77×75 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@18/54		Latin Bible (Jeremiah 7:33–9:10). Low Countries (?), 2nd half of the 14th c. 277×162 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/55	72	Boethius. <i>De Consolatione Philosophiae</i> . Italy, 2nd half of the 14th c. 228×329 mm. Parchment. Bifolium. [A91;H72]	
170X@9@18/56		Petrus de Vicentia. <i>Rationes</i> , etc. France, about 2nd quarter of the 14th c. 335×225 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/57		Missal (Temporal). Germany, late 14th c. 272×104 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@18/58	13	Latin Bible (Isaiah 41:9–43:12). Italy, early 14th c. 330×230 (220×142) mm. Parchment. Single leaf. [A87;H13]	






shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/59		Latin Prose about deception and lying. France, c. 1300. 320×238 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/60		Breviary (Psalms 27–29). Italy, 1st half of the 14th c. 266×208 mm. Parchment. Fragment. [A88]	
170X@9@18/61		Guide de Colonne. <i>Historia Destructionis Troiae</i> (parts of Books 15 and 16). Italy, 2nd half of the 14th c. 295×185 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/62		Alexander de Villa Dei. <i>Doctorinale</i> (ll. 1157–1224). Bohemia, mid–14th c. 218×157 mm. Parchment. Single leaf. (From the same MS as 170X@9@18/63).	
170X@9@18/63		Alexander de Villa Dei. <i>Doctorinale</i> (ll. 1506–74). Bohemia, mid–14th c. Parchment. Single leaf. (From the same MS as 170X@9@18/62).	
170X@9@18/64		Remigius of Auxerre (attr.). Interpretations of Hebrew Names in the Bible. Italy, c. 1300. 315×470 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/65		Grammar of the Latin Language. Bohemia, c. 1400. 200×298 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	
170X@9@18/66		Breviary (Sanctoral). Germany, c. 1400. 150×215 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/67		Religious prose in German. Germany, 1st half of the 14th c. 108×291 mm. Parchment. Fragment of bifolium	
170X@9@18/68		Latin medical treatise. Rhineland, early 14th c. 211×153 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/69		Commentary on Aristotle's <i>Analytica Posteriora</i> . Italy, 1st half of the 14th c. 285×188 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/70		Latin medical treatise. Germany, 2nd half of the 14th c. 213×300 mm. Parchment. Fragment of bifolium	
170X@9@18/71		Horace. <i>Ars Poetica</i> (ll. 429–76). Italy, 1st half of the 14th c. 180×121 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/72		Latin sermon. Italy, 2nd half of the 15th c. 307×210 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/73		Breviary (Temporal and Sanctoral combined). Germany, 1st half of the 15th c. 222×151 mm. Paper. 12 leaves.	
170X@9@18/74		Statutes regulating the Carthusians (decrees dated 1372–1417). Italy, 1st half of the 15th c. 191×275 mm. Parchment. Bifolium.	









shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/75		List of responses and versicles. Italy, 1st half of the 15th c. 163×255 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/76		Breviary (Sanctoral). Germany, mid-15th c. 157×276 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	
170X@9@18/77		Latin Book of Hours (Prayer to the Virgin Mary in French). France, mid-15th c. 151×110 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/78		Legal Record in German. Germany, 2nd half of the 15th c. 152×221 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/79		Breviary (Temporal). Germany, 1st half of the 15th c. 189×301 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/80		Breviary (Temporal). Germany, 2nd half of the 15th c. 291×420 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/81		Missal (Temporal). Italy, mid-15th c. 335×565 mm. Parchment. Bifolium (consecutive).	
170X@9@18/82		Missal (Temporal). Italy, 2nd half of the 15th c. 284×412 mm. Parchment. Fragment of bifolium.	









shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/83		Missal (Temporal). Italy, 2nd half of the 15th c. 290×410 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/84	04	Isidore of Seville. <i>Sententiae</i> (3.1.1–3.2.10). Italy, 2nd half of the 15th c. 269×188 (191×120) mm. Parchment. 2 bifolia (consecutive leaves). [H4]	
170X@9@18/85		Latin Record of a Trial on one Angelus Roselli. Italy, mid-15th c. 268×205 mm. Paper. Single leaf.	
170X@9@18/86		Missal (Temporal). Germany or Low Countries, late 15th c. 257×376 mm. Parchment. Bifolium (consecutive).	
170X@9@18/87		Record of legal transactions in Latin. Italy, c. 1420. 218×155 mm. Paper. 1 leaf.	
170X@9@18/88		Hymnal. Low Countries, 2nd half of the 15th c. 130×188 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/89		Breviary (Temporal). Italy, 1st half of the 15th c. 255×341 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/90		Psalter (Psalms 34:27–36:10, 40:1–40:8). Low Countries, mid-15th c. 198×288 mm. Parchment. Bifolium (not consecutive).	








shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/91	07	Theological Text in Latin. Germany, 15th c. 286×197 (213×140) mm. Paper. Single leaf with watermark (bull's head with rayed staff rising between the horns). [H7]	
170X@9@18/92		Service book (Service for putting on priestly vestments). Italy, late 15th c. 320×219 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/93		Exempla. Italy, mid-15th c. 134×197 mm. Parchment. Bifolium (not consecutive).	
170X@9@18/94		Psalter (Psalms 40:9-41:4, 44:7-16). Germany, mid-15th c. 148×200 mm. Parchment. Bifolium (not consecutive). With interlinear gloss in German.	
170X@9@18/95		Breviary (Sanctoral). England, 2nd half of the 15th c. 280×200 mm. Parchment. Single leaf. [A10]	
170X@9@18/96		Breviary (Sanctoral). England, 2nd half of the 15th c. 261×187 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/97		Latin prose about church festivals. England, mid-15th c. 220×246 mm. Parchment. Fragment.	
170X@9@18/98	21	Calendar from a service book (May-August). Germany, 1st half of the 15th c. 285×203 mm. Parchment. Single leaf. [H21]	









shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/99	43	Missal (Sanctoral). Low Countries, late 15th c. 328×254 (240×165) mm. Parchment. Bifolium. [H43]	
170X@9@18/100		Missal (Temporal). England, 2nd half of the 15th c. 343×426 mm. Parchment. Bifolium (not consecutive).	
170X@9@18/101		Missal (Temporal). Italy, mid-15th c. 314×458 mm. Parchment. Bifolium (not consecutive).	
170X@9@18/102		Latin life of St Victor. Italy, mid-15th c. 208×152 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/103		Antiphonal with musical notation (Temporal, with service for Good Friday). Italy, 2nd half of the 15th c. 198×339 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/104		Missal (Temporal). France, 1st half of the 15th c. 345×244 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/105		Commentary on a philosophical work (Aristotle's <i>Metaphysica</i> ?). Germany, 15th c. (before 1435). 190×297 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/106		Antiphonal (Common of Saints). Italy, 2nd half of the 14th c. 410×270 (248×188) mm. Parchment. Single leaf.	



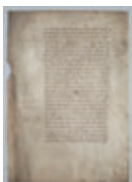





shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/107		Ps.–Augustine. Sermons. Italy, c. 1200. 401×227 (291×177) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/108		Missal (Temporal). Italy, c. 1400. 390×280 (175×235) mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/109	67	Augustine. <i>In Iohannis Evangelium Tranctatus CXXIV</i> . (Hom. 11.15–12.5). Italy, mid-13th c. 430×309 (310×207) mm. Parchment. Single leaf. [A86;H67]	
170X@9@18/110		Missal (Temporal). Germany, 2nd half of the 15th c. 322×280 (285×188) mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/111		Lessons from the Epistles of the New Testament. Germany, late 15th c. 420×325 (378×241) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/112	46	Antiphonal with musical notation (Temporal). Germany, 1st half of the 14th c. 430×318 (215×310) mm. Parchment. Single leaf. [H46]	
170X@9@18/113		Latin Sermon (on Matthew 6:26–28). Italy, mid-12th c. 513×295 (412×245) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/114		Antiphonal (Services for the dead). Rhineland, 2nd half of the 14th c. 288×275 mm. Parchment. Single leaf.	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/115		Canon Law (Clementinae). Italy (?), mid-14th c. 360×242 (320×190) mm. Parchment. Single leaf. (from the same MS as 170X@9@18/116).	
170X@9@18/116		Canon Law (Clementinae). Italy (?), mid-14th c. 360×246 (312×190) mm. Parchment. Single leaf. (from the same MS as 170X@9@18/115).	
170X@9@18/117		Gradual (Prefaces to the canon of the mass). Italy, mid-15th c. 365×260 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/118		Latin sermon about sin and penance. France, c. 1200. 358×265 (253×168) mm. Parchment. Bifolium (consecutive).	
170X@9@18/119		Latin Bible (3 Kings 5:3-6:12). Germany, mid-15th c. 475×326 (335×225) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/120	70	Gratinus. <i>Decretum</i> . Italy, c. 1200 (gloss, mid-14th c.). 383×260 (370×206) mm. Parchment. 2 leaves. [H70]	
170X@9@18/121		Hymnal. Low Countries, late 15th c. 375×522 mm. Parchment. Bifolium.	
170X@9@18/122		Gregory IX. <i>Decretals</i> , with marginal gloss. Italy, 1st half of the 14th c. 400×267 mm. Parchment. Single leaf.	





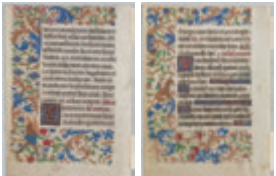



shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@18/123		<i>Vitae sanctorum</i> (probably from a Passionale or Legendarium), sermon on All Saints, Life of Saint Eustochia. Italy, mid-11th c. 355×510 mm. Parchment. 2 single leaves (conjoint but not consecutive).	
170X@9@18/124		Gradual (Temporal). Low Country or Germany, 2nd half of the 15th c. 400×310 (310×240) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@18/125		Breviary (Common of saints). Germany, late 11th c. 311×374 mm. Parchment. 2 leaves (conjoint and consecutive).	
170X@9@18/127		24 Small Manuscript Fragments from Bernard Rosenthal Collection.	
170X@9@19		Latin Bible (1 Maccabees 13:25-15:24). 353×265 (267×196) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@20	44	Missal (the opening of the Easter Sequence). South-West Germany, perhaps Upper Swabia, 2nd half of the 15th c. 190×140 mm. Parchment. Fragment. [H44]	
170X@9@21	27	Book of Hours in Latin (Calendar of July in French). France, late 15th c. 160×115 (91×64) mm. Parchment. Single leaf. [H27]	
170X@9@22	38	Psalter (Psalms 51). South England, mid-15th c. 271×181 (186×120) mm. Parchment. Single leaf. [H38]	




shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@23	57	Book of Hours in Latin (the opening of the Sext for the Hours of the Virgin). Ghent or Bruges, c. 1510–1520. 206×148 (136×90) mm. Parchment. Single leaf. [C21;D4;E;H57]	
170X@9@24	49	Lectionary. France, late 14th or early 15th c. 278×201 (176×106) mm. Parchment. Single leaf. [H49]	
170X@9@25	65	Book of Hours in Latin (St Margaret and St Barbara from the Suffrages). Northern France, c. 1500. 170×110 (100×62) mm. Parchment. Single leaf. [H65]	
170X@9@27	12	Latin Bible (Ezekiel 43:10–44:1). England, c. 1360. 441×310 (312×202) mm. Parchment. Single leaf. [A3;C5;E;H12]	
170X@9@28	47	Antiphonal. Rhineland, Germany, c. 1500. 479×341 (385×225) mm. Parchment. Single leaf. [B14;H47]	
170X@9@29	63	Book of Hours in Latin (The Vespers for the Office of the Dead). London (?), c. 1425. 205×146 (119×82) mm. Parchment. Single leaf. [H63]	
170X@9@30	34	Psalter (Psalms 32:18–36:25; Gallican and Hebrew versions in parallel). Paris, c. 1250. 259×210 (195×152) mm. Parchment. Single leaf. [H34]	
170X@9@31	23	Book of Hours in Latin (Calendar of January and February in French). Rouen, c. 1490. 160×110 (120×93) mm. Parchment. Single leaf. [H23]	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@9@32	89	Gregory of Nazianzus, John Chrysostom. Homilies in Greek. Eastern Mediterranean, 2nd half of the 11th c. 330×225 (233×180) mm. Parchment. 14 leaves. [H89]	
170X@9@33		Missal. East Anglia, late 14th c. 226×165 mm. Parchment. Single leaf. [A7]	
170X@9@34		Psalter (Psalms 144:10–145:4). Belgium (or England?), c. 1250–1300. 177×135 (149×90) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@9@35	69	Petrus Riga. <i>Aurora</i> (3 Kings 117–216). England, early 13th c. 238×118 (195×70) mm. Parchment. Single leaf. [E;H69]	
170X@10@1/109		Contract on the sale of a piece of property in Florence in 1361. Florence, 1362. Parchment. 1 roll.	
170X@11	08	Genealogical Roll of the Kings of Britain. London, 1461–1471. 7670×320 mm. Parchment. 1 roll. [A13;C12;H8]	
170X@13@1	78	Johannes de Sacrobosco. <i>Algorismus, De sphaera, Computus, Quadrans vetus</i> , Robertus Anglicus's commentary on <i>De Sphaera</i> , etc. England, late 13th c. (commentary by Robertus Anglicus, late 14th c.). 185×133 mm. Parchment. Ff. 186. [A6;H78]	
170X@17@1		Lord Berners, Translation of Froissart's <i>Chronicle</i> , England, 16th c. 275×180 mm. Paper. 10 bifolia (fragment of a manuscript copy). [C27]	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@22@4@1~4	79	Latin anthology of astronomical, astrological and other scientific texts. England, mid-13th c. 207×137 (173×100) mm. Parchment. 4 leaves. [H79]	
170X@24@1	96	Portolan Chart. Venice, c. 1500. 130×159 mm. Parchment. Fragment. [H96]	
170X@34@1		Cicero. <i>De Natura Deorum</i> (1. 62). Italy, 15th c. 305×215 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@49@1	42	Missal (Psalms 33.23–44.13). Paris (?), c. 1350–60. 228×164 (172×125) mm. Parchment. Single leaf. [A61;H42]	
170X@58@1		Book of Hours in Latin. Flanders, c. 1480. 212×154 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@59@1	29	Book of Hours in Latin (Calendar of July and August in French) Northern France, c. 1475. 150×100 (117×58) mm. Parchment. Single leaf. [H29]	
170X@61@10@1		Book of Hours (Entombment in the style of the Masters of Dirc van Delf). Northern Netherlands, first decade of the 15th c. 104×85 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@61@10@2	60	Book of Hours in Latin (probably the opening of the Office of the Dead). Flanders, mid-15th c. 148×105 mm. Parchment. Single leaf. [H60]	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@61@10@3	94	Book of Hours in Latin (Matins of Hours of the Cross). Rome, c. 1480. 120×80 mm. Parchment. Single leaf. [F30;H94]	
170X@61@10@4	61	Book of Hours in Latin (the opening of the Office of the Dead). North-east Italy, perhaps Ferrara, c. 1480. 109×79 mm. Parchment. Single leaf. [H61]	
170X@61@10@5	88	Book of Hours in Dutch. Northern Netherlands, c. 1500. 122×89 (70×53) mm. Parchment. Single leaf. [H88]	
170X@61@10@6	14	Latin Bible (1 Maccabees 4:12–6:1). Paris (?), mid-13th c. 330×230 (202×110) mm. Parchment. Single leaf. [H14]	
170X@61@10@7		Book of Hours in Latin. France, mid-15th c. 108×77 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@61@10@8		Book of Hours in Latin. France, mid-15th c. 107×76 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@61@10@9		Book of Hours in Latin (Hours of the Holy Spirit). France, first half of the 15th c. 160×118 mm. Parchment. Single leaf.	
170X@61@10@10		Leaf from an Ethiopian manuscript, Ethiopia, 19th (?) c. c. 190×165 mm. Paper. Single leaf.	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@64@1	50	Lectionary. South Germany or Austria, mid-15th c. 442×310 (322×240) mm. Parchment. Single leaf. [H50]	
170X@65@1	56	Book of Hours in Latin (Hymn from the Matins for the Hours of the Virgin). France, late 15th c. 250×160 (115×65) mm. Parchment. Single leaf. [H56]	
170X@66@3@1~3		Breviary (Use of Sarum). England, c. 1470. a: 231×201 mm; b: 218×204 mm; c: 222×202 mm. Parchment. 3 single leaves.	
170X@67@1		Missal. Germany, 15th c. 314×105 mm. Parchment. Fragment. [A45]	
170X@68@2@1~2	59	Book of Hours in Latin (1: 'O Intemerata', 2: Canticle of Zachary, Luke 1:68-70 in the Lauds of the Office of the Dead). Northern France, c. 1470-80. 142×104 mm. Parchment. 2 single leaves. [A63;H59]	
170X@69@2@1		Liturgical Psalter (Psalms 97-101). Bologna (?), c. 1320. 327×243 (257×173) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@69@2@2	36	Liturgical Psalter (Psalms 49-51). Bologna (?), c. 1320. 317×230 (252×175) mm. Parchment. Single leaf. [A89;H36]	
170X@70@1		Latin Bible (Judges 8-9). Italy, c. 1320-30. 303×226 mm. Parchment. Single leaf. [A90]	

shelfmark	cat. no.	short description	image
170X@71@1	87	Book of Hours in Dutch. Utrecht (?), c. 1450. 192×150 (88×62) mm. Parchment. Single leaf. [H87]	
170X@72@1		Latin Bible (Ezekiel, 42–43). Italy, c. 1300–1320. 330×227 (223×145) mm. Parchment. Single leaf.	
170X@74@1	28	Book of Hours in Latin (Calendar of August in French) Paris, c. 1450. 175×128 (102×69) mm. Parchment. Single leaf. [H28]	

出品リスト

展示書の制作時期・制作地域別索引

出品リスト

(List of exhibited items)

展示番号

資料名

-
- 01 Noted Breviary. Germany, 12th c. 130×306 mm. Parchment. Fragment of bifolium.
 - 02 Missal (Collect for the Vigil of the Epiphany). France, 13th c. 311×218 (238×170) mm. Parchment. Single leaf.
 - 03 Commentary on the Epistle to Romans (Romans 5:9–11). France, c. 1200. 340×243 (250×180) mm. Parchment. Single leaf.
 - 04 Isidore of Seville. *Sententiae* (3.1.1–3.2.10). Italy, 2nd half of the 15th c. 269×188 (191×120) mm. Parchment. 2 bifolia (consecutive leaves).
 - 05 Breviary. Southern Germany, 12th c. 255×168 (185×130) mm. Parchment. Fragment of 28 leaves.
 - 06 Galifridus de Vinosalvo [Geoffrey of Vinsauf]. *Poetria nova*. Central Italy [probably Viterbo], 1st half of the 14th c. 212×165 (168×103) mm. Parchment. Ff. i+48+ii.
 - 07 Theological Text in Latin. Germany, 15th c. 286×197 (213×140) mm. Paper. Single leaf with watermark.
 - 08 Genealogical Roll of the Kings of Britain. London, 1461–1471. 7670×320 mm. Parchment. 1 roll.
 - 09 Latin Bible (Romans 10:15–11:5, 11:20–32). Belgium, 2nd quarter of the 9th c. 157×105 mm. Parchment. Fragment.
 - 10 Latin Bible (Genesis 6:14–7:14). Low Countries (?), 2nd half of the 10th c. 296×178 mm. Parchment. Fragment.
 - 11 Latin Bible (Ezekiel chap. headings, 1:1–2:3). Germany, mid–11th c. 330×213 mm. Parchment. 2 single leaves (trimmed) conjoint and consecutive.
 - 12 Latin Bible (Ezekiel 43:10–44:1). England, c. 1360. 441×310 (312×202) mm. Parchment. Single leaf.
 - 13 Latin Bible (Isaiah 41:9–43:12). Italy, early 14th c. 330×230 (220×142) mm. Parchment. Single leaf.
 - 14 Latin Bible (1 Maccabees 4:12–6:1). Paris (?), mid–13th c. 330×230 (202×110) mm. Parchment. Single leaf.
 - 15 Latin Bible (Exodus 37:16–Leviticus 1:14). England, c. 1220–40. 297×200 (194×125) mm. Parchment. Single leaf.
 - 16 Bible (Prol. to 1 Maccabees–1 Maccabees 2:44). France, mid–13th c. 198×132 (168×112) mm. Parchment. Single leaf.
 - 17 Latin Bible (Judges 18:30–21:8). Paris (?), mid–13th c. 202×145 (170×114) mm. Parchment. Single leaf.
 - 18 Latin Glossed Bible (Psalms 21:7–14). France, mid–13th c. 301×200 (213×127) mm. Parchment. Single leaf.
 - 19 Latin Glossed Bible (Luke 2:22–25). France, mid–13th c. 315×214 (210×134) mm. Parchment. Single leaf.
 - 20 Calendar (entries for October and November). Germany, 1st half of the 12th c. 340×140 mm. Parchment. Fragment.
 - 21 Calendar from a service book (May–August). Germany, 1st half of the 15th c. 285×203mm. Parchment. Single leaf.

-
- 22 Liturgical book (Calender of January). South-west (?) Germany, early 13th c. 178×133 mm. Parchment. Single leaf.
 - 23 Book of Hours in Latin (Calendar of January and February in French). Rouen, c. 1490. 160×110 (120×93) mm. Parchment. Single leaf.
 - 24 Book of Hours in Latin (Calendar of March, in French). France, late 15th c. 162×114 (90×55) mm. Parchment, Single leaf.
 - 25 Book of Hours in Latin (Calender of April). France (Paris?), c. 1500. 164×113 (47×60) mm. Parchment. Single leaf.
 - 26 Book of Hours in Latin (Calender of June in French). Northern France (Paris?), c. 1460. 130×98 (70×49) mm. Parchment. Single leaf.
 - 27 Book of Hours in Latin (Calendar of July in French). France, late 15th c. 160×115 (91×64) mm. Parchment. Single leaf.
 - 28 Book of Hours in Latin (Calendar of August in French) Paris, c. 1450. 175×128 (102×69) mm. Parchment. Single leaf.
 - 29 Book of Hours in Latin (Calendar of July and August in French) Northern France, c. 1475. 150×100 (117×58) mm. Parchment. Single leaf.
 - 30 Book of Hours in Latin (Calendar of September). France, c. 1500. 167×114 (140×86) mm. Parchment. Single leaf.
 - 31 Breviary (Calendar of November and December). Southern Netherlands, 2nd half of the 13th c. 120×100 mm. Parchment. Single leaf.
 - 32 Psalter (parts of Psalms 21, 25, 26). Southern Italy, 11th c. 201×291 mm. Parchment. Bifolium (trimmed).
 - 33 Liturgical Psalter (Psalms 108:15–31, followed by doxology and collect). England, 2nd quarter of the 13th c. 247×173 (168×110) mm. Parchment. Single leaf.
 - 34 Psalter (Psalms 32:18–36:25; Gallican and Hebrew versions in parallel). Paris, c. 1250. 259×210 (195×152) mm. Parchment. Single leaf.
 - 35 Psalter (Psalms 141:4–142:8). Belgium, c. 1250–1300. 178×133 (150×90) mm. Parchment. Single leaf.
 - 36 Liturgical Psalter (Psalms 49–51). Bologna (?), c. 1320. 317×230 (252×175) mm. Parchment. Single leaf.
 - 37 Psalter. London, c. 1420–1440. 264×183 (160×110) mm. Parchment. Ff. 115.
 - 38 Psalter (Psalms 51). South England, mid–15th c. 271×181 (186×120) mm. Parchment. Single leaf.
 - 39 Breviary (Common of saints). Italy, early 13th c. 238×158 (160×88) mm. Parchment. 4 leaves.
 - 40 Breviary (Proper of the saints, Feast of SS Peter and Paul). Eastern France, 14th c. 161×112 (105×68) mm. Parchment. Single leaf.
 - 41 Breviary (The Feast of the Ascension). Loire valley (probably Tours), France, c. 1470. 184×125 (120×82) mm. Parchment. Single leaf.
 - 42 Missal (Psalms 33.23–44.13). Paris (?), c. 1350–60. 228×164 (172×125) mm. Parchment. Single leaf.
 - 43 Missal (Sanctoral). Low Countries, late 15th c. 328×254 (240×165) mm. Parchment. Bifolium.
 - 44 Missal (the opening of the Easter Sequence). South-West Germany, perhaps Upper Swabia, 2nd half of the 15th c. 190×140 mm. Parchment. Fragment.
 - 45 Noted Sequentiary. Germany, possibly Switzerland, early 12th c. 287×189 (160×120) mm. Parchment. Bifolium (trimmed).
 - 46 Antiphonal with musical notation (Temporal). Germany, 1st half of the 14th c. 430×318 (215×310) mm.

-
- Parchment. Single leaf.
- 47 Antiphonal. Rhineland, Germany, c. 1500. 479×341 (385×225) mm. Parchment. Single leaf.
- 48 Gospel Lectionary (Common of Saints). Germany, late 12th c. 347×241 (243×169) mm. Parchment. Single leaf.
- 49 Lectionary. France, late 14th or early 15th c. 278×201 (176×106) mm. Parchment. Single leaf.
- 50 Lectionary. South Germany or Austria, mid–15th c. 442×310 (322×240) mm. Parchment. Single leaf.
- 51 Book of Hours in Latin (Use of Rouen). Rouen, c. 1465–85. 178×119 (104×70) mm. Parchment. Ff. 103.
- 52 Book of Hours in Latin (Use of Bayeux). Rouen, c. 1465–80. 176×119 (95×62) mm. Parchment. Ff. i+117+i.
- 53 Book of Hours in Latin and French (Use of Rome). Langres, France, c. 1480. 190×135 (113×71) mm. Parchment. Ff. 127.
- 54 Book of Hours in Latin (Use of Salisbury). Southern Netherlands, mid–15th c. 188×132 (127×83) mm. Parchment. Ff. iii+81+iii.
- 55 Book of Hours in Latin. Tours, c. 1480–90. 126×87 (71×51) mm. Ff. 174.
- 56 Book of Hours in Latin (Hymn from the Matins for the Hours of the Virgin). France, late 15th c. 250×160 (115×65) mm. Parchment. Single leaf.
- 57 Book of Hours in Latin (the opening of the Sext for the Hours of the Virgin). Ghent or Bruges, c. 1510–1520. 206×148 (136×90) mm. Parchment. Single leaf.
- 58 Book of Hours in Latin ('O Intemerata'). Rouen (?), c. 1480. 164×115 mm. Parchment. Single leaf.
- 59 Book of Hours in Latin (1: 'O Intemerata', 2: Canticle of Zachary, Luke 1:68–70 in the Lauds of the Office of the Dead). Northern France, c. 1470–80. 142×104 mm. Parchment. 2 single leaves.
- 60 Book of Hours in Latin (probably the opening of the Office of the Dead). Flanders, mid–15th c. 148×105 mm. Parchment. Single leaf.
- 61 Book of Hours in Latin (the opening of the Office of the Dead). North–east Italy, perhaps Ferrara, c. 1480. 109×79 mm. Parchment. Single leaf.
- 62 Book of Hours in Latin (The Matins for the Office of the Dead). Northern France (Paris?), c. 1460. 130×98 (80×53) mm. Parchment. Single leaf.
- 63 Book of Hours in Latin (The Vespers for the Office of the Dead). London (?), c. 1425. 205×146 (119×82) mm. Parchment. Single leaf.
- 64 Book of Hours in Latin (St Denis and the Archangel Michael from the Suffrages). Paris, c. 1470. 140×92 (76×48) mm. Parchment. Single leaf.
- 65 Book of Hours in Latin (St Margaret and St Barbara from the Suffrages). Northern France, c. 1500. 170×110 (100×62) mm. Parchment. Single leaf.
- 66 Augustine. *Sermones de verbis domini et apostoli*. England, 12th c. 385×270 (280×186) mm. Parchment. Fragment of 32 leaves.
- 67 Augustine. *In Iohannis Evangelium Tractatus CXXIV*. (Hom. 11.15–12.5). Italy, mid–13th c. 430×309 (310×207) mm. Parchment. Single leaf.
- 68 Petrus Lombardus. *Quatuor Libri Sententiarum*, Book II. England, late 13th c. 327×222 (200×125) mm. Parchment. Single leaf.
- 69 Petrus Riga. *Aurora* (3 Kings 117–216). England, early 13th c. 238×118 (195×70) mm. Parchment. Single leaf.

-
- 70 Gratinus. *Decretum*. Italy, c. 1200 (gloss, mid–14th c.). 383×260 (370×206) mm. Parchment. 2 leaves.
- 71 Aegidius Romanus. *De Regimine Principum*, with *Secreta Secretorum*. England, 2nd quarter of the 15th c. 265×185 (170×120) mm. Parchment. Ff. 203.
- 72 Boethius. *De Consolatione Philosophiae*. Italy, 2nd half of the 14th c. 228×329 mm. Parchment. Bifolium.
- 73 Johannes Balbus. *Catholicon*. Italy, c. 1300. 310×222 (220×157) mm. Parchment. Single leaf.
- 74 ‘Cistercian Statutes of 1256–1257’. France, c. 1260–1288. 180×135 (137×94) mm. Parchment. Ff. 76.
- 75 Maurus Servius Honoratus. *In Vergilii Aeneidem Commentarii*. Germany, late 11th c. (a) 301×60 mm, (b) 302×54mm. Parchment. 2 bifolium fragments.
- 76 Sulpicius Severus. *Vita S. Martini* (parts of chaps 13, 16). England, mid–12th c. 90×117 mm. Parchment. Fragment.
- 77 Aulus Persius Flaccus. *Saturae*. Germany, early 13th c. (a): 96×136 mm, (b): 96×137 mm. Parchment. 2 fragments.
- 78 Johannes de Sacrobosco. *Algorismus, De sphaera, Computus, Quadrans vetus*, Robertus Anglicus’s commentary on *De Sphaera*, etc. England, late 13th c. (commentary by Robertus Anglicus, late 14th c.). 185×133 mm. Parchment. Ff. 186.
- 79 Latin anthology of astronomical, astrological and other scientific texts. England, mid–13th c. 207×137 (173×100) mm. Parchment. 4 leaves.
- 80 Religious Miscellany in Middle English (‘Hopton Hall’ MS). Norfolk, 1st half of the 15th c. 193×131mm. Parchment. Ff. 43.
- 81 Wycliffite Bible (Prol.–Deuteronomy) in Middle English. England, c. 1400–1430. 145×85 (100×60) mm. Parchment. Fragment of 35 damaged leaves.
- 82 Bartholomaeus Anglicus. *De Proprietatibus Rerum*, translated into Middle English prose by John Trevisa. England, 2nd quarter of the 15th c. (1) 250×275 (250×195) mm; (2) 330×290 (250×190) mm. Parchment. 2 fragments.
- 83 Cartulary in Latin and English. Winchester (?), 1462. (1) 590×250 mm, (2) 590×250 mm, (3) 650×250 mm. Parchment. 3 leaves.
- 84 Ambroise. *L’Estoire de la guerre sainte*. England, late 13th c. 198×140 (143×60) mm. Parchment. Single leaf.
- 85 French poem based on Baudri de Bourgueil, *Historia Hierosolymitana*. France, 1st half of the 14th c. 293×211 mm. Parchment. Single leaf.
- 86 Moral treatise in German (on falsehood and silence). Germany, mid–14th c. 145×210 mm. Parchment. Part of bifolium.
- 87 Book of Hours in Dutch. Utrecht (?), c. 1450. 192×150 (88×62) mm. Parchment. Single leaf.
- 88 Book of Hours in Dutch. Northern Netherlands, c. 1500. 122×89 (70×53) mm. Parchment. Single leaf.
- 89 Gregory of Nazianzus, John Chrysostom. Homilies in Greek. Eastern Mediterranean, 2nd half of the 11th c. 330×225 (233×180) mm. Parchment. 14 leaves.
- 90 Antiochos of Saint Saba, *Pandects*. Eastern Mediterranean, 12th to 14th c. 310×245 mm. Parchment. Ff. 112.
- 91 Cicero. *De finibus bonorum et malorum*. Florence, c. 1450–60. 264×165 (175×100) mm. Parchment. Ff. 97.

-
- 92 Cicero. *Paradoxa Stoicorum, Somnium Scipioni*. Italy, late 15th century. 178×120 (113×68) mm. Parchment. Ff. 31.
- 93 Seneca. *Epistolae morales ad Lucilium*. Italy, c. 1470. 286×207 (205×133) mm. Parchment. Single leaf.
- 94 Book of Hours in Latin (Matins of Hours of the Cross). Rome, c. 1480. 120×80 mm. Parchment. Single leaf.
- 95 Book of Hours in Latin (the Litanies). Bologna, late 15th c. 164×111 (115×66) mm. Parchment. Single leaf.
- 96 Portolan Chart. Venice, c. 1500. 130×159 mm. Parchment. Fragment.
- 97 Gradual with neums (Common of Saints, with masses for martyrs, a confessor bishop, and a virgin martyr). Italy, late 12th c. 165×246 mm. Parchment. Bifolium.
- 98 Psalter (Psalm 68). German, early 13th c. 281×190 mm. Parchment. Fragment of bifolium.

展示書の制作時期・制作地域別索引 (Index of Manuscripts by Date and Region)

9th c.: 9

10th c.: 10

11th c.: 11, 32, 75, 89

12th c.: 5, 20, 45, 48, 66, 76, 90, 97

13th c.: 1, 2, 3, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 22, 31, 33, 34, 35, 39, 67, 68, 69, 70, 74, 77, 78, 79, 84, 98

14th c.: 6, 12, 13, 36, 40, 42, 46, 49, 72, 73, 85, 86

15th c.: 4, 7, 8, 21, 23, 24, 26, 27, 28, 29, 37, 38, 41, 43, 44, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 58, 59, 60, 61, 62, 63,
64, 71, 80, 81, 82, 83, 87, 91, 92, 93, 94, 95

16th c.: 25, 30, 47, 57, 65, 88, 96

Belgium: 9, 35, 57, 60

England: 8, 12, 15, 33, 37, 38, 63, 66, 68, 69, 71, 76, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84

France: 2, 3, 14, 16, 17, 18, 19, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 34, 40, 41, 42, 49, 51, 52, 53, 55, 56, 58, 59, 62,
64, 65, 74, 85

Germany (incl. Switzerland, Austria): 1, 5, 7, 11, 20, 21, 22, 44, 45, 46, 47, 48, 50, 75, 77, 86, 98

Italy: 4, 6, 13, 32, 36, 39, 61, 67, 70, 72, 73, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97

Mediterranean, East: 89, 90

Netherlands: 10, 31, 43, 54, 87, 88

謝辞

本展示会および図録の準備にあたり、下記の皆様よりご協力を賜りました。感謝してここに記します。

〈50音順、敬称略〉

駒田亜紀子

八木健治

羊皮紙工房

慶應義塾ミュージアム・コモンズ

第31回慶應義塾図書館貴重書展示会

究極^{マテリアリティ}の質感 —西洋中世写本の輝き—

The Ultimate Materiality: the Splendour of Western Medieval Manuscripts

2019年10月発行

監修／展示図録執筆 松田隆美

編集・発行 慶應義塾図書館

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

Tel 03-5427-1625

図版撮影 株式会社カロワークス

印刷・製本 昭和情報プロセス株式会社
